

陸軍軍備制限問題ノ審議ハ最モ熱心ニ主張シ英米ハ會議ノ情況上之ト云フ案ナキモ兎ニ角審議ニ上センコトヲ希望セル如キモ「ブリアン」ノ断乎タル反対ニ依リ有耶無耶ト為レリ将来ト雖仏国カ審議ニ加ラサル限り真面目ノ事ハ行ハレサルモノト觀察ス尚本日ノ會議ニ於テ陸軍問題ハ一般ニ歐羅巴問題トシテ取扱ハルル感アリ極東ニ直接關係スルモノ無キ限り日本人トシテ別ニ審議ニ加ハル必要ナシト見做シ加藤全權ハ何等発言セラレサリキ

「ブリアン」ハ午後ノ會議終了後各国全權ニ別レテ告ケ不日帰國ノ途ニ就クコトナレリ同氏ノ強硬ナル主張ニ依リテ遂ニ陸軍軍備制限一般ノ審議ヲ葬リ去リタルハ仏國ノ為大成功ト云ハサル可カラス同氏カ會議ノ当日佐分利參事官ニ對シ所謂演説ハ銀ニシテ沈黙ハ金ナリトノ語ハ歐羅巴ニ限ラサルカ如シト揶揄セリトノ事ナルカ「ブリアン」氏ノ奮闘ニ依リ日本ハ勞セスシテ其ノ目的ノ大部ヲ達成セルノ感アリ

222

10 年 12 月 1 日（着）

ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ブリアンガ伊國陸軍ヲ罵倒シタリトノ報道根拠ナキ旨ヒューズ言明ノ件

會議第一〇五号

曩ニ陸軍問題委員會ニ於テ「ブリアン」ガ「シャンゼル」ニ對シ激語ヲ用キ伊太利陸軍ヲ罵倒シタリトノ報道廣ク伝ハリ當時伊國全權ニ於テ不取敢之ヲ否定セル処二十八日極東太平洋委員會ニ於テ「ヒューズ」ハ右報道ノ全然根拠ナキハ諸委員御承知ノ通りナルガ一般ニ周知セシムル為メ特ニ茲ニ之ヲ断リ置クコト適當ト信ズト述ベ仏伊全權各々委員長ノ好意ヲ謝シ右顛末同日「コンミニケ」中ニ發表セラル

在歐各大使ニ転電セリ

事項三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

1 10 年 11 月 24 日（着）

ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日英同盟ニ代ル日英米三国協約案ヲバルフォアヨリ提示ノ件

別電

ワシントン會議全權宛内田外務大臣宛十一月二十六

日着電報會議第六七号

日英米三国協約バルフォア案

會議第六六号（極秘）

加藤全權ヨリ

予テ御訓令ノ趣旨ヲ体シ日英同盟問題ニ付英國全權ト隔意ナキ意見交換ヲ試ミタク機會ヲ待チ居タル処「バルフォア」モ同様ノ意嚮ヲ有シ華府會議ノ進行意外ニ急速ナルニ顧ミ一日モ早く會談シタキ内意ヲ通シ来タリタルニ付十一月十二日壇原ヲ伴ヒ「バ」氏ヲ其ノ宿舍ニ訪ヒ「本日ハ日英同盟ニ関シ非公式ニ隔意ナキ談話ヲ交ヘタキ希望ヲ以テ來訪シタル次第ナリ日本政府力該問題ノ存続ヲ希望スルハ已ニ御承知ノ事ト存スル処當華府會議ト関連シ該同盟ノ存廢

又ハ改訂ニ関シ英、米兩國新聞紙上ニハ特ニ諸種ノ論議報道多キニ顧ミ是レニ對スル意見ヲ聞クヲ得ハ幸甚ナル旨」述ヘタルニ「バ」氏ハ大要「露獨ノ崩潰ニ依リ日英同盟成立ヲ促シタル本来ノ理由ハ差当リ消滅シタルモ兩國ノ為ニ多大ノ利益ヲ供シタル貴重ノ歴史ヲ有スル該同盟ハ猥ニ之レヲ棄ツ可ラス且今日一時消滅シタル理由ハ将来再ビ發生スルナキヲ保セサルニ於テ特ニ然リ然レトモ今日ノ新ナル事態ニ照ラシテ之ヲ考慮スルハ又極メテ必要ノ事ナル可ク然シテ自分（「バ」氏）ノ觀ル所ニ拠レハ該同盟問題カ直接ノ形ニ於テ華府會議ニ持チ出サル可キ筈ナシト思考スルモ間接ノ關係ニ於テハ論議ヲ免レサル可シ以上二点ヲ考慮ニ入レ自分ハ試ニ左ノ一案（別電第六七号）ヲ起草セリ右ハ日、英、米三国協商ヲ主眼トスルモノニシテ米國カ積極的義務ヲ負フ同盟ヲ締結セサル可キハ明ナルニ付米國ノ同意シ得ヘキ形式ヲ採用スルト共ニ将来必要發生ノ場合ハ日、英兩國ニ関スル限リ日英同盟ヲ復活シ得ヘキ自由ヲ留保シ置クノ趣旨ニ出テタルモノナリ自分希望ハ日、英、米三国間

限りニ右ノ如キ協商ヲ成立セシメントスルニアルモ現ニ先
日支那全権ノ提出セル一般原則第三(右ハ固ヨリ未タ同意
セラレタルモノニ非サルモ)ノ次第モアリ支那又ハ他ノ参
列各国ニ於テ之ニ加盟セント申出スル場合ハ之ヲ拒絶スル
充分ノ理由ヲ発見スルコト困難ナルヘク此上更ニ考慮ノ要
アリ該案ハ既ニ英本国政府ニ送付シ居レルニ付若シ重大ノ
異議アレハ直ニ其旨回電アルヘキ筈ナルカ未タ何等回電ナ
キニ見レハ或ハ格別ノ異議アルニ非ルヤニモ察セラル又既
ニ内密米国國務長官ニモ示シ同官ヨリ「又米国全権ニモ内
示シタルモ之ニ対シ何等ノ意見ヲ述ヘス云々」ト述ヘタル
ニ付本全権ハ日本政府ノ希望カ該同盟存続ニアルハ前述ノ
通ナルカ新ナル事態ニ照シ之ヲ考慮スルノ要アルヘキコト
モ亦其諒解スルニ苦シマサル処ナルヘキハ自分ノ確信スル
処ナリ就テハ右起案ハ日本政府ニ電報シ其考慮ヲ求ムルコ
トニ異議アルヘキヤト問ヒタルニ右ハ全然自分(「バ」氏)
限りノ試案ニシテ且極秘ノモノナリトノ諒解サヘアレハ嘗
ニ異議ナキノミナラス寧ロ希望スル処ナリト答ヘタリ尚右
ノ如キ協商ハ此際速ニ之ヲ締結スルノ要アリトノ御見込ナ
リヤト問ヒタルニ「バ」氏ハ其一日モ早ク成立センコトヲ

regions of eastern Asia and of protecting existing
territorial rights of the High Contracting Parties in
islands of the Pacific Ocean and territories bordering
thereon, it is agreed

(1) That each of High Contracting Parties
shall respect such rights themselves and shall consult
fully and frankly with each of them as to best
means of protecting them whenever in opinion of
any of them they are imperilled by action of
another power.

(2) If in future territorial rights (referred to
in Article 1) of any of the High Contracting Parties
are threatened by any of other power or combination
of powers, any two of the High Contracting Parties
shall be at liberty to protect themselves by entering
into military alliance provided (a) this alliance is
purely defensive in character and (b) that it is
communicated to other High Contracting Parties.

(3) This arrangement shall supersede any

希ハシウスルモ前述ノ三国以外ノ諸国加盟ノ点カ問題ナリ
ト云ヒ何レ英、米何レヨリカ本案ニ付何等意見ノ表示アル
場合ハ直ニ通報スヘキニ付日本政府ノ所見ヲモ速ニ承知ス
ルヲ得ハ幸ナリト述ヘタリ日本全権ハ東京ヨリ回電ニ接シ
次第重テ面議スヘキ旨ヲ約シテ別レタリ就テハ不日「バ」
氏ニ挨拶ノ都合モアリ亦會議進行ノ關係ニ於テモ遲滞ヲ許
ササル事情アルニ付大至急御詮議ノ上帝国政府ノ所見及
「バ」氏ヘノ応答振御電訓アリタシ尚右会见ニハ埴原ノ外
「サー、モリス、ハンケー」及ヒ「ハンブソン」列席セリ
本案ニ対スル当方ノ意見ハ研究ノ上稟申スルコトト致シタ
シ

本電及別電在英大使へ転電セリ

(別電)

ワシントン會議全權發内田外務大臣宛十一月二十六日着電報会

議第六七号

日英米三国協約バルフォア案

會議第六七号

The following is a sketch of possible tripartite
arrangement:

With object of maintaining general peace in

Treaty of earlier date dealing with defence of
territorial rights in regions to which this arrangement
refers.

(右和訳文)

将来締結セラルルコトアルヘキ三国協定ノ骨子左ノ如シ
東亞ノ地域ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且太平洋諸島及
太平洋沿岸領土ニ於ケル締約国ノ現在ノ領土権ヲ防護ス
ルノ目的ヲ以テ締約国ハ左ノ如ク約定ス

第一条 締約国ハ各自前記權利ヲ尊重シ且締約国中一国ニ
於テ右權利カ他国ノ行動ニ依リ危殆ニ迫レリト認ムルト
キハ之ヲ防護スル最善ノ手段ニ関シ各締約国ト充分ニ且
隔意ナク協議スヘシ

第二条 将来締約国中一国ノ領土権(第一条ニ掲ケタル)
カ他ノ一国又ハ数国ノ結合ニ依リ脅威セラルル場合ニハ
二締約国ハ軍事同盟ノ締結ニ依リ自国ヲ防護スルノ自由
ヲ有スヘシ但シ(イ)右同盟ハ性質上純然タル防禦同盟タル
ヘク且(ロ)右同盟ハ他ノ締約国ニ之ヲ通告スルコトヲ要ス
第三条 本約定ハ其ノ關係スル地域ニ於ケル領土権防護ニ
関シ本約定以前ニ締約セラレタル一切ノ条約ニ代ルヘキ

モノトス

2 10年11月26日(着)

ワシントン会議全権ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日英同盟存廃問題ニ関スル新聞記事報告ノ件

会議第七二号

会議開会後日英同盟ニ関スル記事屢々当地方新聞ニ掲載セラレタル処中一、米國提案ニ基キ同盟否認ヲ述ブルアリ「ステファヌ・ロザンヌ」「デビッド・ローレンス」二、支那提案ニ基キ日英同盟ニ代リ日、英、米三国協約成立スベシトスルアリ「モリス・ロウ」或ハ一及ニ基キ同盟存続ノ不必要ヲ説クモノアリ「ステード」尚又「レッジャー」華府「スター」華府「ポスト」ハ何レモ日英同盟消滅論ヲ其ノ社説ニ掲ゲタリ一方華府「ポスト」ハ支那全權事務所ニ於テ得タル報道トシテ支那ガ日英同盟ノ更新ニ反対シ「ランシング」・石井協約ノ廃棄ヲ希望セル旨ノ連合通信ヲ(三)紐育及当地ノ二三新聞ハ同盟ニ関スル日本新聞論調及連合通信ヲ(三)紐育「サン」ハ二十一日ノ倫敦新聞論調ガ日英同盟存続ニ反対ナリトノ倫敦特電ヲ(四)紐育「トリビュン」ハ英國産業組合及労働党ノ代表者ハ日英同盟更新ニ反対ノ

宣言書ヲ発表セリトノ倫敦特電ヲ又(五)華府「ポスト」及紐育「トリビュン」ハ「ノースクリフ」卿ガ英米親善ノ必要ヲ力説シ之ニ関連シ米國、加奈陀、濠州ニ於テハ日英同盟ノ存続ニ反対セルモノ多シト述ベタル北京特電ヲ掲載シ同盟廃棄ヲ主張スル論説益々増加セントスル傾向アル処「ゲデス」ハ十一月二十一日新聞記者ヲ集メ其ノ名ヲ援用スベカラズト前置ノ下ニ日英同盟ハ今日既ニ不要ノ諸点ヲ包蔵ス該同盟ハ露、独兩國ニ対シ締結セラレタルモノナルガ此ノ兩國ヨリシタル危険ハ最早存在セズ日英同盟ハ全然不要ニアラザルモ日、英、米三国間ニ極東政策ニ関スル協調成立セバ全然不要トナルヤモ知レズト述べ右会談ハ種々布衍セラレテ二十二日ノ各新聞ニ掲載セラレ著シク一般ノ注意ヲ惹キタルモノノ如シ

在欧各大使へ転電セリ

3 10年11月28日(発)

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

三国協定問題ニ関シ時事新報特派員報道ニツ

キリノ出所取調方訓令ノ件

付記 十一月二十八日時事新聞夕刊記事

第七七号

日英米三国協定問題ニ関シ二十八日時事新報夕刊ハ貴地同新聞社特派員二十五日発電報トシテ左ノ通り報道シタルガ右ノ如キ報道ノ公表ハ本件ノ進行ニ支障ヲ来ス虞アリト存ゼラルル処将来ノ為メ其ノ出所等御取調置相成尚ホ此種ノ漏洩取締方ニ関スル貴見電報アリ度シ

(付記)

十一月二十八日時事新聞夕刊記事

(華盛頓特派員二十三日) 加藤全權と英國全權バルフォア氏は日英同盟に代る可き日英米協定に就き諒解を遂げたるが次いで米國と目下非公式の懇談中なり其覺書なるものは左の如し曰く

一 三国は如何なる脅威に抗しても極東及び太平洋に於ける現在の領土権を尊重す
二 若も締約國にして此の政策より離るる時は直に相連合し若しくは別々に会合審議せざる可からず
ヒューズ氏とルート氏は目下之が審議中なり

4 10年11月29日(着)

ワシントン会議全権ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

日英同盟二代ル協定ニ関シブリアン首相談話ノ件

會議第九一号

十一月二十三日徳川全權ガ「ブリアン」首相ノ為ニ催セル午餐会ノ席上「ブ」氏が隣席ノ我随員ニ為セル談話ノ要領左ノ如シ参考ノ為左ニ電報ス

予ハ当地著以来屢々米國当路ノ人々ト懇談ヲ遂ケルノ機会ヲ有シタルガ予ハ之ニ依リテ米國政府ガ日米兩國ノ關係ヲシテ最親善ナラシメムトノ真率ナル希望ヲ有スルコトニ付テハ一点疑ヲ挿ムノ余地ナキニ至リタリ而テ之ト同時ニ米國当局者ガ兩國良好ノ關係ヲ持續増進セシムルニ当リ大ナル障害トナルモノハ日英同盟ノ存在ナリト思考シ居ルコトヲモ明瞭ニ知り得タリ依テ自分ハ米國当局ニ対シ今回會議ノ結果トシテ日本ヲ孤立ノ地位ニ置クコトハ絶対ニ之ヲ避クベク日英同盟ヲ廢止セシムル場合ニハ必ズ之ニ代ルベキ他ノ協定ヲ遂ゲ日本ヲ孤立セシメザル事態ヲ現出スルノ必要ヲ力説シ置キタリ卑見ヲ以テスレバ此際日英同盟ニ代フルニ太平洋及極東ニ利害關係ヲ有スル日英米三国ヲ始メ仏國其他ノ諸國ヲモ加ヘテ太平洋ニ於ケル國際連盟トモ称ス

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ヘキモノヲ組織スル目的ヲ以テ一ノ協定ヲ為スコト然ルヘク右ノ如キ協定ヲ為スコトニハ米國モ結局同意スルニ至ルベキヲ信ズ

在欧各大使ヘ転電セリ

5 10年11月29日(舊) ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日英同盟ニ代ル三国協約試案ヲ米英兩國側ニ

提示ノ件

別電一

ワシントン會議全權内田外務大臣宛十一月二十九日着電報會議第九四号

日米英三国協約骨子ニ関スル幣原試案

二 ワシントン會議全權内田外務大臣宛十一月二十九日着電報會議第九五号

バルフォアノ修正ヲ加ヘタル日米英三国協約骨子ニ関スル幣原試案

付記一

十月二十八日堀内欧米局第二課長記「英国案ノ考察」

二 山川条約局長記「バルフォアノ提案ニ付テ」

三 十一月二十九日外務大臣ニ提出セラレタル調書

會議第九三三(極秘) (十月二十七日ワシントン發)

貴電會議第六六号ニ関シ

大局ノ帰趨並ニ四囲ノ状況ニ照シ我方ニ於テモ日英同盟ニ

リテ新タニ写ヲ作製スルノ暇ナキノミナラズ「バ」氏ノ修正モ同氏即座ノ思付ニ基クモノニシテ更ニ再考ヲ要スルモノアリト認メタルヲ以テ「ヒューズ」氏ニハ我案文ノ写ヲ交付シ同時ニ「バ」氏ノ修正案ヲ示スベキコトニ協定シ夫レヨリ國務長官ヲ訪ヒ前記「バ」氏ニ対スル同様ノ説明ヲ為シ右試案ニ対スル同官ノ意見ヲ承知スルヲ得ハ幸甚ナリトノ趣旨ヲ付加シテ我案文ヲ同官ニ交付セシメタリ其ノ際「バ」氏修正案ヲモ示シタルニ「ヒ」氏ハ右修正案ヲモ手許ニ止メ置キタキ旨申出デ且明日ハ幸ヒ日曜日ナルヲ以テ篤ト兩者ヲ研究スベキ旨ヲ答ヘタル趣ナリ

尚「バ」氏ノ談話ニ依レバ氏ノ案ハ會議後直チニ「ヒューズ」氏ニ交付シ置キタルモ今以テ何等回答ニ接セズトノコトナリ

本電別電ト共ニ在英大使ヘ転電セリ

(別電一)

ワシントン會議全權内田外務大臣宛十一月二十九日着電報會議第九四号

日英米三国協約骨子ニ関スル幣原試案

會議第九四号

Baron Shidehara's tentative draft of an outline

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

換フルニ三国協商ヲ以テスルニ異議ナキ旨ヲ遲滞ナク英國側ニ知ラシメ置クコト緊要ナリト認メタルヲ以テ不取敢別電會議第九四号ノ案文ヲ作製シ幣原大使一個ノ試案トシテ十一月二十一日佐分利参事官ヲシテ「バルフォア」氏ヲ訪ヒ次イデ「ヒューズ」氏ヲ訪ヒ夫々手交方取計ラハシメタリ「バルフォア」氏ニ手交セシムルニ当リ本案文ハ幣原大使ガ「バ」氏ノ案ヲ参照シタル上作製シタルモノニテ成ルベク米國側ノ承諾ヲ容易ナラシムル様文句ニ注意シタル事右ハ特ニ政府ノ訓令ニ依リ起案シタルモノニ非ズ然レ共今日迄受ケ居ル訓令ニ反スルモノニモ非ザル事及他ノ全權ニ於テモ之ヲ試案トシテ「バルフォア」及「ヒューズ」両氏ニ示スニ異存ナキコト政府ノ適確ナル意見ハ案文ヲ政府ニ電報シテ回訓ニ接シタル上ニ非ザレバ明カナラザル事ヲ述ベシメタリ

右ニ対シ「バ」氏ハ幣原大使案ハ全ク自分ノ案ト同一ノ事情ノ下ニ在ルモノナルコトヲ能ク了解セリト答ヘタル上直チニ別電會議第九五号ノ通り數個ノ修正ヲ加ヘタル案文ヲ我方ヨリ「ヒューズ」氏ニ手交センコトヲ希望スル旨申出デタリ然レトモ「ヒューズ」氏トノ会見ノ時刻已ニ切迫シ居

of a tripartite arrangement among Japan, the United States of America, and the British Empire.

(1) If, in the future, the territorial rights or vital interests of any of the High Contracting Parties in the regions of the Pacific Ocean and of the Far East should be threatened either by the aggressive action of any third power or powers, or by a turn of events which may occur in those regions, the High Contracting Parties shall communicate with one another fully and frankly, in order to arrive at an understanding as to the most efficient measures to be taken, jointly or separately, to meet the exigencies of the particular situation.

(2) If in the matters affecting regions aforesaid, there should develop between any two of the High Contracting Parties controversies which are likely to affect the relations of harmonious accord now happily subsisting between them, it shall be open to such Contracting Parties, in mutual agree

ment with each other, to invite the other Contracting Party to a joint conference, to which the whole subject matters will be referred for consideration and adjustment.

(3) The present agreement shall supersede the Agreement of Alliance hitherto in force between Japan and Great Britain.

(右和訳文)

第一条 太平洋及極東ノ地域ニ於ケル締約国中一國ノ領土權又ハ緊切利益ニシテ将来締約国以外ノ一國若ハ數國ノ侵略の行為ニ依リ又ハ右地域ニ生スルコトアルベキ事態ニ依リ脅威サルル場合ニハ締約国ハ右特定状態ノ急要ニ応ズル為共同ニ又ハ各別ニ執ルベキ最モ有効ナル措置ニ関シ了解ヲ得ンガ為充分ニ且隔意ナク互ニ意見ヲ交換スン

第二条 前記ノ地域ニ關係アル事項ニ関シ締約国中何レカ一國間ニ於テ幸ヒ現ニ存在スル円満協調ノ關係ニ影響ヲ及ボス虞アル爭議發生ノ場合ニハ右締約国ハ相互合意ノ上他締約国ノ共同会商ヲ求メ該事項全部ノ考慮妥結ヲ

其ノ議ニ付スルノ自由ヲ有ス

第三条 本協約ハ今日迄日英間ニ効力ヲ有シタル同盟協約ニ代ルベキモノトス

(別電1)

ワシントン會議全權内田外務大臣宛十一月二十九日着電報會議第九五号

ハルフォアノ修正ヲ加ヘタル日英米三國協約骨子ニ関スル幣原草案

會議第九五号

Baron Shidehara's tentative draft of an outline of a tripartite arrangement among Japan, the British Empire, and the United States of America.

(1) In regard to the territorial rights of the High Contracting Parties in the Pacific Ocean and the Far East, it is agreed that if these are threatened by the aggressive action of any third power, the High Contracting Parties shall communicate with (以下會議第九四号第一条ニ同シ)

(2) The High Contracting Parties further engage to respect these rights as between themselves,

第三条 本協約ハ今日迄日英間ニ効力ヲ有シタル同盟協約ニ代ルベキモノトス

(附記1)

十月二十八日堀内欧米局第二課長記「英国案ノ考察」

大正十年十一月二十八日記

英国案ノ考察

堀内(印)

第一、英国案ニ拠レハ本協約ノ目的ハ(一)東亜全局ノ平和維持及(二)太平洋方面ニ於ケル締約国領土權ノ防護ニ限局セラル

一、英国案カ支那ニ関シ何等言及スル所ナキハ支那ノ独立及領土保全、機會均等主義等ノ問題ヲ會議参加国間ノ別箇ノ協定ニ譲ラムトスルノ趣旨ナルヘシ故ニ英国案其ノ儘ノ形ニテハ是非トモ支那ヲ参加セシムルノ必要ナカルヘク此点ハ原案ヲ支持スルコト我方ニ取リテモ得策ナルヘシ尤モ支那側ニテハ同國全權提出原則第三ニ所謂「是等地域(極東)ニ於ケル全局ノ平和」ニ直接關係アル取極ナリトノ理由ニ依リ参加ノ機會ヲ要求シ少クトモ事前ノ通告ヲ求メ来ルヤモ計リ難キモ米國トテ強テ支那ノ参加ヲ主張セサルヘク結局ハ通告ニ止ムル位ニ落着クヘシ

and if there should develop between any two of them controversies on any matter in the aforementioned regions which is likely to affect the relations of harmonious accord now happily subsisting between them, they agree to invite the other Contracting Party (以下會議往電第九四号第二条ニ同シ)

(3) (全文會議往電第九四号第三条ニ同シ)

(右和訳文)

第一条 太平洋及極東ニ於ケル締約国ノ領土權ニ関シ若シ右權利ニシテ締約国以外ノ國ノ侵略の行為ニ依リ脅威サルル場合ニハ締約国ハ右特定状態ノ急要ニ応ズル為共同ニ又ハ各別ニ執ルベキ最モ有効ナル措置ニ関シ了解ヲ得ンガ為充分ニ且隔意ナク互ニ意見ヲ交換スベキコトヲ約定ス

第二条 尚締約国ハ右權利ヲ互ニ尊重シ且ツ前記ノ地域ニ於ケル事項ニ関シ締約国中何レカ一國間ニ於テ幸ヒ現ニ存在スル円満協調ノ關係ニ影響ヲ及ボス虞アル爭議發生ノ場合ニハ右締約国ハ他締約国ノ共同会商ヲ求メ該事項全部ノ考慮妥結ヲ其ノ議ニ付スルコトヲ約定ス

ト思ハル

二、協約案前文ニハ前記ノ二目的ヲ掲クルモ本文第一条及第二条ニ規定スル所ハ専ラ締約国領土権ノ防護ニシテ夫ノ日英同盟協約ノ如ク「特殊利益」ノ擁護ニ関シテハ何等規定スル所ナシ「特殊利益」ト云フモ結局ハ支那ニ於ケル日英等ノ特殊利益ノ問題ニ帰着スヘキガ察スル所英國側ニテハ今回決議セラレタル支那問題四大原則第四ノ趣旨(将来排他的特殊權利等ノ獲得運動ヲ避クヘキコト)並既得特殊利益ノ擁護問題ガ列国間ニ議論多カルヘキコトニ顧ミ故ラ之ヲ除外シタルモノナラン華府會議ノ大勢ニ鑑ミ本協約中ニハ斯ル問題ニ触レサルヲ可トスヘシ

第二、本協約ノ適用地域ハ必スシモ明確ナラス前文中ニハ「東亞ノ地域ニ於ケル全局ノ平和」ノ維持ヲ目的トシテ掲ケタルモ其ノ維持ノ方法ニ関シテニ規定スル所ナキヲ見レハ右ハ単ニ第二ノ目的タル領土権相互防護ノ精神ヲ宣明シタルニ止マルモノト解スヘク結局問題ハ「太平洋諸島及太平洋沿岸領土」ノ範圍如何ニ帰着ス
一、日英米三国領土権ノ下ニアル太平洋諸島中ニ濠州新西蘭等ヲ含ムヘキヤ否ヤハ或ハ疑問ナルヘキモ若シ其

二、防護手段ノ協議モ可ナリ唯他国(another power)

トハ締約国以外ノ国ヲ指スモノナリヤ文面上疑義ノ余地ナキニアラサルヘキモ「各締約国」ト協議スヘシ云云トアルヨリ見レハ固ヨリ斯ク解スヘキモノナラン但此点ハ行文上一層明確ナラシメ置クヲ可トスヘシ

三、軍事同盟締結自由ニ関スル規定ハ「バルフォア」氏ノ説明ノ如ク日英同盟継続ノ自由ヲ保留スルノ趣旨ナルヘク米國側ニ於テ異議ナキ限リ斯ル規定ヲ設クルコトハ我ニ取りテモ有利ナルヘシ又(一)右ノ如キ軍事同盟ノ締結ハ領土権ノ脅威セララル場合ニ限リ之ヲ許シ且(二)其性質上純然タル防禦的ノモノタルヘシト定ムルコトモ至当ト謂フヘシ唯(一)「脅威セララル場合」トハ領土権侵害ノ事実ガ現実ニ發生シタル場合ニ限ルヘキヤ將又侵害ノ危険迫ラムトスル場合ヲモ含ムモノト解スヘキヤハ議論アルヘキモ可成後者ノ意味ニ解スルヲ利トスヘシ又(二)前記ノ如キ同盟ヲ通告スルノ時期ハ事前ナリヤ將又事後ニテモ差支ナキヤ疑アリト雖モ右ハ第二条協議規定ノ精神ニ顧ミ事前ト解スルヲ穩当トスヘク寧ロ其意味ニ書改ムルヲ可トセム

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

内ニ包含セラレスト解スル場合ニハ太平洋沿岸領土中ニ含マルモノト見ルヲ得ヘシ

二、赤道南北ノ委任統治地域モ亦太平洋諸島中ニ含マルモノト解スヘシ

三、太平洋沿岸領土中ニハ海峡殖民地、香港等ハ勿論加奈陀及米本土全部ヲモ含ムモノト解スヘシ

四、要スルニ本協約ノ適用範圍ハ出来得ル限り広汎ニ解スル方我方ノ利益トナルヘシ蓋シ之ガ為帝國ノ本協約上負担スヘキ義務ハ自ラ広汎トナル代リニ他方ニ於テ将来太平洋方面ニ於ケル機會均等主義等ノ問題起ル場合ニハ其適用地域ヲ可成広ク解釈スルノ先例トナルヘケレハナリ

第三、英國案ハ領土権擁護ニ関シ三原則ヲ規定セリ(一)領土権ノ相互尊重(二)領土権防護手段ノ協議(三)領土権防護ノ為メニスル軍事同盟締結ノ自由是レナリ

一、領土権相互尊重ノ原則ハ既ニ日英同盟協約及日米協商ノ認ムル所ニシテ英國案ハ単ニ其適用地域ヲ擴大シタルモノナルニ依リ日本トシテハ固ヨリ之ニ賛成シテ可ナリ

第四、協約ノ存続期限ニ関シテハ英國案ニ何等規定ナシ本協約ノ如キハ寧ロ無期限トナスヲ可トスヘク若シ期限ヲ定ムルモノトセハ海軍制限協定ノ期限問題ト併セテ考量スルヲ要ス

第五、本協約ト國際連盟規約トノ關係ヲ考フルニ原案ノ通ニテモ格別ノ規定ノ明文及精神ニ牴觸スル所ナシト認メラル

編註 欄外ニ外務大臣内田康哉ノ認印アリ

(付記二)

日付不明、山川条約局長記「バルフォアノ提案ニ付テ」

バルフォアノ提案ニ付テ

山川局長

一、本協約ハ其末項ニ依リ日英同盟協約ヲ廢棄スルモノニシテ又米國力之ニ加フルコトトナラハ末項ニ修正ヲ加ヘテ石井、ランシング取極等ヲモ廢棄スルノ主張換言スレバ直接又ハ間接滿蒙ニ於ケル我特殊利益ヲ認メサルノ主張ヲ為スヘキコトハ之ヲ覺悟セサルヘカラス
從テ日本トシテハ本協約中「特殊利益」ヲ除キタルコト及前記ノ趣意ヲ以テ石井、ランシング取極ヲ廢棄スルコ

(欄外註記)

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

トノ主張ニ対シテ滿蒙ニ於ケル特殊利益ノ全部又ハ一部ヲ如何ナル形ニ於テ列国ニ認メシメルカハ深ク之ヲ考慮スルヲ要ス本件ハ會議ニ於ケル他ノ諸問題ノ解決如何ニ依リ影響ヲ受クヘキモノナルモ此際一応ノ所見トシテハ幣原案ノ如ク本協約中ニ「特殊利益」ヲ加フルコトヲ主張スルコト可然ト思考ス四国借款契約ノ際ノ保障丈ニテハ不充分ナラスヤ

- 二、第一項中「他国ノ行動ニ依リ危殆ニ陥リタリト認ムルトキ」ニ幣原案ノ or by a true of events which may occur in their regions ノ趣意ヲ加フルコト可然
- 支那ノ政情不安全ナル事情ニ照シテ此追加ハ必要ナルヘキカ尤モ一面ニハ支那内政干涉ノ口実タルカ如キ觀アルモ其内政干涉トナルヤ否ハ其際採用スル措置ノ内容如何ニ依ルモノニシテ關係国ノ協議其物ハ必スシモ之レ協議スヘキモノニアラサルヘシ
- 三、高平ルット協約中ニ「太平洋ノ通商ノ自由」アリ此点ヲ利用シテ協約地域ニ於ケル商工業ノ平和的發展ヲ奨励スルノ主義ヲ加フルノ途ナキヤ
- 四、「バルフォア」案第二項ハ極メテ含蓄アル規定ナリ米

国或ハ之ニ反対スヘキモ我国トシテハ出来得ヘク之カ成立ニ努メタシ

(欄外註記)

別紙本件訓令案ノ通りニテ大体懸念ナカルヘシト思考ス殊ニ比隣日本側ヨリ新ナル注文ヲ余リ出スハ事ヲナスニ不利ナルヘシ

小村(印)
栗野(印)
堀内

(付記三)

十一月二十九日外務大臣ニ提出セラレタル調書

大正十年十一月二十九日

外務大臣ニ提出 栗野(印)

今回ノ三国協商案ト日英同盟トヲ比較スレバ概要左ノ如シ

- 一、目的
- (イ)東亜及印度ノ地域ニ於ケル全局ノ平和ヲ確保スルコト
- (ロ)支那ニ関スル事項
- (ハ)東亜及印度ノ地域ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持スルコト
- (ニ該当スルモノナシ)
- (ロ)太平洋諸島及太平洋沿岸所領ニ対スル締約国ノ現

並ニ該地域ニ於ケル両国ノ特殊利益ヲ防護スルコト

在ノ領土權ヲ保護スルコト

一、手段

前項ノ權利及利益ノ内何レカ危殆ニ迫ルモノアルヲ認ムルトキハ兩國ハ相互ニ充分ニ且隔意ナク通告シ其ノ擁護ノ為執ルヘキ措置ヲ協同ニ考量スヘキコト

一、軍事事項

(イ)前項ノ領土權又ハ特殊利益防護ノ為交戦スルニ至リタルトキハ他国ノ攻撃又侵略の行動カ何レノ地ニ發生スルヲ問ハス他ノ一方ノ締約国ハ直チニ協同戦闘ニ當リ講和モ双方合意ノ上ニテ為スコト

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

一、手段

締約国ハ前項ノ權利ヲ尊重シ且他国ノ行為ニヨリ右權利カ危殆ニ陥リタリト認ムルトキハ之ヲ保護スル最良ノ方法ニ付相互ニ充分且隔意ナク協議スルコト

一、軍事事項

前記領土權カ他ノ国ニヨリ脅威セラレタルトキハ締約国ノ内二国ハ軍事同盟ヲ締結シ之ヲ防護スルノ自由ヲ有スルコト

但シ(一)右同盟ハ防禦的性質ノモノナルコト(二)他ノ締約国ニ之ヲ通知スルコトヲ要

ス

(ロ)兵力の援助ノ条件及実行方法ハ軍事当局ニ於テ協定スルコト

一、他国ト前項目的ヲ害スヘキ別約ヲ為ササルヘキコト

一、本協定ハ領土防禦ニ関スル從來ノ条約ニ代ハルモノトス

一、總括的仲裁裁判条約締結国ニハ適用ナキコト

一、期限ニ関スル規定

一 右ノ対照表ヨリ見ルトキハ現在ノ日英同盟ト新三国協定案ノ重ナル相違点ハ左ノ如シ

(イ)新協定案ニハ日英同盟規定ノ支那及印度ニ関スル事項ナシ

(ロ)日英同盟ハ東亜及印度ニ於ケル領土權ノ防護ニ関シテ規定スルニ止マルモ新協約案ハ太平洋諸島及太平洋沿岸所領ニ亘レリ

(ハ)日英同盟ハ領土權ノ外特殊利益防護ニ付兵力援助ノ規

定ヲ設クルモ新協約案ハ軍事同盟締結ヲ領土権ノ場合ノミニ限レリ

- (二)日英同盟ノ兵力援助ニ関スル規定ニ付テハ新協約案ニ於テハ将来軍事同盟締結ノ自由ヲ留保スルニ止マレリ
- 一 前項日英同盟ト新協約案トノ相違点ニ付テ考量スルニ左ノ通現下ノ事態ニ鑑ミ何レモ当然已ムヲ得サル變更ト認メラル

- (イ)新協定案ニ於テ支那ニ関スル条項ヲ削除セルハ支那側ノ態度ニ顧ミ当然ノ儀ナリ支那問題ハ東亞ニ於ケル全局平和ノ維持ナル項目中ニ自然ニ含まルル外別ニ極東委員會決議ノ所謂四大原則ニヨリ処理セラルル次第ナリ又印度ヲ削除セルコトモ日本トシテハ何等反対スヘキ理由ナキノミナラス日本ハ印度救援ノ義務ヲ免ルル次第ニテ寧ロ得策ナリ

- (ロ)新協約案ニ於テ太平洋諸島及沿岸所領トシタルニ付テモ之亦何等反対ノ事由ナシ蓋シ右ノ結果日本トシテハ濠州、新西蘭、加奈太、南太平洋旧独逸諸島等英国所領ノ防禦ニ付考慮ヲ要スル処日英米三国以外ノ国ヨリ之等ノ諸領土カ攻撃セラルルカ如キコトハ想像スルヲ

對シテモ反対スヘキ必要ナク元來特殊利益云々ノ如キ字句ヲ協約文ニ用ユルコト自体カ現下ノ事態ニ顧ミ考慮ヲ要スル所ナリ

一 新協約案中改正ヲ要スル点ハ

- (イ)第一項ノ *another power* 及第二項ノ *other power* 云々ノ *other* 及 *another* ノ意義ヲ明確ナラシムルコト之ナリ即チ新協約案ノ本旨ハ右 *another* 若ハ *other* ハ日英米三国以外ノ他国ヲ意味スル趣旨ト解スヘキモノト思考セラルルモ文義正確ナラサルニ付「締約国以外ノ他国」ト云フカ如キ字句ヲ挿入スルコト肝要ナリ斯クスレハ仮ニ日英同盟復活ノ自由ヲ留保スルトモ對米のモノニアラサルコト明白トナルト共ニ英米協同シテ日本ニ当ルカ如キコトモ本協定當然ノ結果トシテ避ケ得ル次第ナリ

- (ロ)新協定案前文中東亞ニ於ケル全局ノ平和維持云々ノ目的ハ更ニ擴張シ東亞ノ外太平洋全局ノ意味ヲモ含マシムルコトモ一案ナリ尤モ強テ固執スル程ノ必要モナカルヘシ

- (ハ)新協定案第一項中「該權利ヲ尊重シ之ガ危殆ニ陥ルト

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

得ズ從テ日本ニ於テ之等諸領土防禦ニ関スル同盟条約締結ヲ予想スルカ如キ本協定案ノ成立ヲ図ルトモ我兵力援助ニ関シ何等懸念スヘキ必要ナシ

從テ日本ハ印度救援ノ義務ヲ免ルルト共ニ實際問題トシテ起リ得サル前記ノ如キ英国所領防禦ノ為軍事同盟締結ノ予約ヲ為シ而カモ朝鮮ヲ脅ス外國勢力ニ對シ英國ノ軍事の援助ヲ期待シ得ル次第ニシテ寧ロ有利ナリ又米國カ墨西哥ヨリ攻撃セラルルカ如キコトハ絶無ヲ保シ得サルモ其ノ攻撃力タルヤ素ヨリ日本ノ兵力援助ヲ必要トスルカ如キ有力ノモノニアラサルヤ言ヲ俟タルノミナラス米國カ本協定ニ加入スルトモ實際ニ於テ米國トノ間ニ軍事同盟条約ヲ締結スルカ如キコトハ有リ得ヘカラサルコト之亦贅述ノ要ナシ唯米國カ斯ル協定案ニ對シ賛同スヘキヤ否ハ疑問ノ余地アルモ此ノ点ハ英國側ニ於テ相当ノ手段ヲ尽スヘク米國側ニ於テ到底肯セサルトキハ別個ノ方法ヲ協議スルノ外ナキノ日本側ヨリ進テ顧慮スルノ要ナカルヘシ

- (ロ)新協約案カ軍事同盟締結ノ場合ヲ領土権ノ脅威セラルルトキノミニ限定シ特殊利益侵害ノ場合ヲ除外セルニ

キハ」云々トアル処右該權利トハ單ニ領土権ノミニ限ラルルカ如クニ認メラルル処本協定目的ノ一タル平和ノ維持ニ付テモ締約国ニ於テ協力スルノ意味ヲ明確ニスルコト可ナルヘシ

- 一 日英同盟存続ニ對シ一面ニ於テ相当之ヲ支持スル議論ナキノアラサルモ其ノ主眼トスル所ハ要スルニ過去ニ於ケル事蹟ヲ基礎トシテ歴史のニ其ノ存続ヲ図ラムトスルモノニ外ナラス然ルニ他面日英同盟ノ存続ニ付テハ支那側ニ於テ同盟ヲ以テ日本ノ對支強圧政策ノ利器ニ用ヒラレタルモノトシテ強硬ニ反對シ居レルノミナラス米國朝野ニ於テモ日英兩國当局累次ノ言明アルニ拘ラス一種疑惑ノ念ヲ以テ迎ヘ殊ニ海軍制限協定ニシテ成立セムカ日英同盟存続ノ結果日英兩海軍ノ協力ハ海軍制限比率ノ *balance* ヲ破ルモノトシテ必スヤ贊同ヲ肯セサルヘク其他英國ヲ初メ各方面ニ異論多ク殊ニ最近ニ至リ「タイムス」ノ如キモ「ノースクリップ」ノ意ヲ承ケ率直ニ日英同盟存続ニ對シ反對論ヲ掲クルニ至レリ

一 日英同盟存続ノ理由ハ要スルニ歴史のニ永年ノ試練ヲ經タル同盟条約ヲ格別ノ理由ナクシテ廢棄スルトキハ別

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

個ノ意味ヲ生スルニ至リ且ツ日本ノ國際的地位ニ果ヲ及
ホスコトヲ虞ルルニ外ナラス從テ今回「バルフォア」申
出ノ如ク日英米三国協商案ノ成立ヲ図リ之ヲ機トシテ日
英同盟ヲ廢棄スルハ相当ノ理由モ立チ世界ニ於ケル日本
ノ國際的地位ニモ累ヲ及ホスコトナカルヘシ況ヤ「バル
フォア」案ハ前頭ノ通大体ニ於テ適當ナルノミナラス其
ノ説明ノ如ク将来必要發生ノ場合ニハ日英兩國ノ關スル
限リ日英同盟ヲ復活シ得ヘキ自由ヲ留保セラレ居ルニ於
テオヤ仍テ前頭修正ノ点ヲ加ヘタル上「バルフォア」案
ニ賛成ノ方針ニ出ツルコト得策ト思考セラル

一 日英米三国以外ノ諸國假令ハ支那等ヨリ右三国協定案
ニ加入ノ申出アリタルトキハ日本ニ於テ積極的ニ之ニ反
對スルハ甚タ考慮ヲ要スル次第ナルカ若シ英國側ニ於テ
モ之等諸國ノ加入ニ異議ナキコトナラハ日本ニ於テ之
ニ同意シ差支ナカルヘシ要ハ日英米カ中心勢力タレハ可
ナリ唯日本ヨリ進テ此等諸國ノ参加ヲ提唱スルノ要ナシ

(欄外註記一)

左ノ理由ニヨリ今回ノ新協約案カ印度ヲ含マサルコト明カナ
リ
(一)日英同盟ニハ東亞及印度トアリ新協定案ニハ單ニ東亞トア

レハ國家ノ安全ノ保障ノ要求ハ仲裁條約ニ依リテ其ノ目的
ヲ達スル事ヲ得レハナリ二十八日ニ加藤全權ト米國務卿
「ヒューズ」氏ノ会見アル筈ナルカ此会見ハ海軍縮小會議
ニ關スル妥協ニ向テ一大進歩ニシテ三国協定ノ問題ト關係
スル事ハ勿論ナリト思惟セラル

7 10年12月1日(着)

ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

三国協商ニツキ佐分利、ハンケー英國事務總

長ト会談ノ件

會議第一〇三号 至急(極秘)

(五文書)

往電會議第九三号「ヒューズ」トノ会見後佐分利ハ別用ニ
テ英國事務總長「ハンケー」ニ会見シタルニ同人ハ心配氣
ニ「ヒューズ」氏トノ会見ノ模様ヲ問ヒ「ヒューズ」ガ翌
日ノ日曜日ニ篤ト研究スヘシト云ヘル趣ヲ聞キテ喜色ヲ表
シタリトノ事ナリ尚ホ佐分利ヨリ三国間ニテ何等協定ヲナ
スノ主義ハ米國政府ニ於テ之ヲ承諾シ得ヘキヤ否ヤニ付所
見ヲ問ヒタルニ「ハンケー」ハ多分米國ニ於テ同意スルニ
至ルヘシト思考スル旨ヲ答ヘタリ尚ホ同人ハ談話中同人ガ
予テ抱懷スル意見トシテ南米太平洋等ニ於テ夫々 regional

三 太平洋ニ関スル四国條約ノ成立

ルニ止マルコト

(一)印度ハ太平洋沿岸ノ所領ニアラサルコト

(欄外註記二)

以下ハ推敲ヲ要ス

6 10年11月29日(発)

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

三国協定問題ニ關スル時事新報報道ノ件

會議第七八号

時事新報ハ貴地特派員二十六日發トシテ再ヒ日英米三国協
定問題ニ關シ左ノ如キ報道ヲ掲ケタリ念ノ為
十一月二十九日(時事)

日英同盟ニ代ルヘキ日英米三国間ニ殊ニ仲裁ヲ目的トスル
三国協定ノ交渉ハ海軍勢力ノ割合ニ關スル問題ト密接ノ關
係アリ日本全權加藤氏並英國全權「バルフォア」氏ノ提
議ニ關スル其回答ニ付今ヤ國務卿「ヒューズ」氏並米國全
權「ルート」氏カ精密ニ考慮シツツアルカ若シ其ノ回答ニ
シテ太平洋ニ於ケル戰爭ヲ避クル為ニ満足ナルモノタル事
ヲ立証セラルルニ於テハ日本ノ海軍縮小ニ關スル割合修正
ノ要求ハ緩和セラルヘシト思考セラルルハ当然ナリ何トナ

understanding ヲ設ケ連盟支部ノ如キモノヲ造リ太平洋ニ
付テハ組織ノ本部ハ之ヲ東京ニ置クガ如キモノ一策ナルヘキ
カト陳ベタルニ對シ佐分利ハ國際連盟ノ太平洋部ト云フガ
如キモノヲ設クルコトト三国間ノ協定トハ兩立シ得ルモノ
ト思考スルヤト尋問シタルニ「ハンケー」ハ兩立シ得ルモ
ノト思考スト答ヘ更ニ佐分利ハ往電會議第九一号「プリア
ン」氏ノ談話ニ言及シ「ブ」氏ガ太平洋ニ於ケル國際連盟
トモ称スヘキモノヲ設置スルコト然ルヘキ旨ヲ陳ベタル趣
ヲ語リタルニ「ハンケー」ハ「ブ」氏ノ言ニハ余リ重キヲ
置クベカラス仏國人ハ自尊心強キガ故ニ三国協商成立シテ
仏國ガ除外セラルルコトハ之ヲ好マザルベシトテ何トナク
仏國ヲ排スルノ口吻ヲ洩セリ
在英大使ヘ電セリ

8 10年12月1日(着)

ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ハンケーヨリ佐分利ニ協商ヲ三国間ニ限ルニ

困難アルヘシトノ米國側ノ意向ヲ内話ノ件

會議第一〇四号 至急(極秘)

(五文書)

往電會議第九三号ニ關シ

五六三

五六二

十一月二十八日午前英国外務長「サー、モリス、ハンケ
ー」(同人ハ往電會議第九三号「バルフォア」トノ会見ニ
列席セリ)ガ佐分利ニ内話スル所ニ依レバ二十六日午後
「ロッヂ」及「ルート」両氏「バ」氏ヲ往訪シタルガ其ノ
際「バ」氏ヨリ三国協商ニ関スル我方ノ案ヲ両氏ニ示シタ
ルニ両氏トモ満足ノ意ヲ表シ(They are very much
pleased)タル上米側ガ本件ヲ取上グルニ先立チ山東問題
ノ解決ヲ見ルコト絶対ニ必要ナル旨ヲ力説シ尚ホ協商ヲ三
国間ニ限ルコトハ相当ノ困難アルヘシトノ意見ヲ述ベタル
趣ニテ「ハンケー」自身ハ右「バ」氏ト右米側委員トノ会見ノ
模様ニ鑑ミ前途ニ望ミ居ルノ語氣ヲ洩シ進ンデ「ハン
ケー」ハ右ノ次第ニテ山東問題ノ解決ハ本件成立ノ為メ絶
對ニ必要ナルニ付「バルフォア」「ヒューズ」両氏ノ尽力
ニ依リテ解決ニ達センコトヲ切望スル旨ヲ述ベタリ右ニ對
シ佐分利ヨリ米側ガ協商ヲ三国間ニ限ルニ困難アルヘシ
ト云ヘルハ米側ガ三国ノミニテ協商ヲ為スコトヲ欲セザ
ルノ意ナリヤ又ハ単ニ三国間ニ限ル為メニハ相当困難アル
ベシトノ意味ナリヤト反問シタルニ「ハンケー」ハ米側ガ
希望セストノ意味ニハ解セス單ニ三国ニ限ル為メニハ相当

ハンケーヨリ佐分利ニ對シ三国協商ニ仏國ヲ

加エタキ米側ノ意向内話ノ件

會議第一〇六号至急極秘(十一月二十九日ワシントン発)

往電會議第一〇四号ニ関シ

十一月二十八日午後「バルフォア」氏ト國務長官トノ会見
後「ハンケー」ガ「バ」氏ノ命ニ依リ右会見ノ結果ニ付佐
分利ニ為セル内話ノ要領左ノ如シ

「バ」氏ト國務長官トノ談話ハ長時間ニ亘リ最モ隔意ナキ
意見ノ交換ヲ為シタリ國務長官ハ幣原大使案ニ「バ」氏ノ
修正ヲ付加シタル試案ニ對シテハ大体其ノ満足ノ意ヲ表シ
居レリ然レトモ國務長官ハ米國內ニ於テ今尚ホ強キ反英及
排日思想ノ存在スル事實ハ之ヲ無視スルヲ得サルヲ以テ日
英兩國ノミヲ相手トシテ協定ヲ為ストキハ之ニ對シ有力ナ
ル反對ヲ誘致スル危険決シテ尠シトセス故ニ之ヲ緩和スル
為仏國ヲモ加フルコト得策ナルヘク尤モ他ノ一面ニ於テ多
數ノ國ヲ交ヘテ協定ノ効力ヲ薄弱ナラシムルヲ欲セストノ
日本側ノ意見モ十分之ヲ諒トスルカ故ニ仏國以外ノ國ハ之
ヲ除外スルコト然ルヘク之ヲ為ニハ協定ノ目的及範圍ヲ單
ニ太平洋ノミニ限リ支那ニ関シテハ關係諸國間ニ別ニ一ノ

ノ困難アルヘシトノ意味ニ解シタリト答ヘタリ尚本二十八
日午後三時「バルフォア」氏カ「ヒューズ」氏ト会見スル
コトトナリ居ル旨ヲ告ケタルニ付佐分利ハ日本ニ於テハ三
國間限リノ協定ヲ欲スル次第ニテ三国間ノ協定ナレハコソ
之ヲ以テ日英同盟ニ代ユルヲ得ルモノト思考スルモ徒ラニ
太平洋ニ利害關係ヲ有スル他ノ諸國ヲ交ヘタル漠然タル協
定ヲ為シ之ヲ以テ日英同盟ニ代ユルト謂フカ如キハ全ク無
意味ニシテ日本國民ハ之ヲ以テ事實上單純ナル日英同盟ノ
廢棄ト認メ決シテ日英同盟ニ代ルヘキ他ノ協定ヲナスモノ
トハ看做サルヘシト述ヘタルニ「ハンケー」ハ右ハ極メ
テ重要ナル点ニシテ「バルフォア」「ヒューズ」両氏ノ会
見前右ノ意見ヲ承知シタルハ極メテ幸ナリ之ヲ以テ幣原大
使ノ意見トシテ「バ」氏ニ通シ差支無キヤト謂ヘルニ付佐
分利ハ素ヨリ右ハ自分ノ意見ニ非ス大使及他ノ全權諸公ノ
意見ナルカ故ニ御話シスル次第ナリト答ヘタルニ「ハンケ
ー」ハ早速「バ」氏ニ通スヘシト答ヘタリト

在英大使ヘ転電セリ

9 10年12月1日(普)

ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

協定ヲ挙クルコトトスヘク尚ホ右四國間ノ協定ハ支那問題
ノ解決ヲ待タスシテ急速ニ「ハンケー」ハ出来得ヘクンバ
来週中ニモト謂ヘリ)之ヲ締結スルコトトシタシトノ希望
ヲ表シタリ而シテ右ニ對スル日本側ノ意向ハ一応「バルフ
ォア」氏ヨリ之ヲ確ムルコトニ話合ヲ付ケタルニ付テハ日
本側ノ之ニ對スル意向ヲ一刻モ速ニ承知シタシト謂フニア
リ

右「ハンケー」ノ所述ニ基キ米側ノ意見ヲ約言スレハ左
ノ二点ニ歸着ス

一 本件協定ハ太平洋ニ於ケル嶋嶼ニ局限スルコト其ノ理
由ハ左ノ如シ

(イ)支那ニ関シテハ別ノ約束ヲ結ビ關係國ヲ之ニ参加セシ
ム

(ロ)支那ニ関スル複雑ナル諸問題ノ解決ヲ待タスシテ速ニ
本件協定ヲ結フコト得策ナリ

二 本件協定ノ當事國ヲ太平洋ニ於テ嶋嶼ヲ有スル海軍國
即チ日英米仏四國ニ限ルコト其ノ理由ハ左ノ如シ

(イ)米國上院及米國民ノ本件協定ニ對スル反對ヲ予メ防
遏ス

(d) 本件協定ニ多数ノ国ヲ交ユルヲ欲セストノ日本ノ意向ニ成ルヘク副ヒ利害關係少ナキ諸国ヲ除外ス

右ニ対スル当方ノ意見ハ別電ヲ以テ申進スヘキモ本件ハ右ノ通急転直下ノ勢ヲ以テ進行シ且ツ此際可成速ニ本件ヲ纏ムルコトハ今後ノ會議ノ形勢ヲ著シク我ニ有利ナラシムル為ニモ極メテ望マシキ義ト思考スルニ付大至急御詮議ヲ煩ハシタシ

在英大使ヘ転電セリ

10 10年12月2日(着) ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国側ニ於テ三国協定ト同時ニ中国ニ関シ關
係諸国間ニ別ニ協定ヲ結ブ案ヲ有シオリタル
旨ハンケー談話ノ件

別電

ワシントン會議全權宛内田外務大臣宛十二月二日着
電報會議第一〇八号

右中国ニ関スル關係諸国間ノ協定案

會議第一〇七号(極秘) (十一月二十九日ワシントン発)
往電會議第一〇四号ニ関シ

「ハンケー」ハ談話中ニ不図英国側ハ初メヨリ一面ニ於テ

(別電)

ワシントン會議全權宛内田外務大臣宛十二月二日着電報會議第
一〇八号

中国ニ関スル關係諸国間ノ協定案

會議第一〇八号

The Governments of the British Empire, China, France, Japan, and the United States of America (外ニ伊太利, 和蘭, 葡萄牙ヲ加フ) have agreed upon the stipulations set forth below, having the following objects:—

- (a) The consolidation and maintenance of the general peace in Eastern Asia;
- (b) The preservation of the independence and integrity of the Chinese Republic;
- (c) The Application of the principle of equal opportunity for the commerce and industry of all nations in China;
- (d) The substitution of international cooperation for international rivalry;—

Article 1. It is agreed that whenever in the

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ハ日英同盟ニ代ルヘキ三国協定ヲ結ビ之ト同時ニ他ノ一面ニ於テハ極東殊ニ支那ニ関シ關係諸国間ニ別ニ一ノ協定ヲ結フノ案ヲ有シ居タル事ニ言及シタルヲ以テ佐分利ハ所謂支那ニ関スル別ノ協定ナルモノニ付テハ如何ナル考案ヲ有シ居リタルモノナリヤ参考ノタメ承知シタキニ付案文アラハ是非写ヲ貰ヒ受ケタシト陳ベタルニ「ハンケー」ハ両案トモ船中ニテ作製シタルモノナリトテ稍々躊躇ノ色ヲ示シタル後兎モ角「バルフォア」ノ承諾ヲ得タル上送付スヘシト言ヒ尚ホ右ノ案ヲ作製セルコトハ別ニ御話シスル積リニアラサリシナリト云ヒタルカ同夜写ヲ我カ方ニ交附セリ而シテ今二十九日朝「ハンケー」ハ佐分利ニ向ヒ支那ニ関スル前記ノ案ニハ重キヲ置カレサランコトヲ希望スト云ヘリ其ノ際佐分利ハ右ノ案ヲ米国ニ提示シタルヤ否ヤヲ問ヒタルニ「ハ」ハ三国協商案ト共ニ提示シタリト答ヘタリ

英国ヘ電報セリ

opinion of the High Contracting Parties any of the objects referred to in the preamble of this Agreement are in jeopardy, the five governments will communicate with each other fully and frankly and will consider in common the measures which be taken to safeguard their menaced rights or interests.

Article 2. The High Contracting Parties agreed that they will in no circumstances take independent action for the protecting of their interests in Eastern Asia by the employment of naval, military or aerial forces without previously consulting the other High Contracting Parties as to the desirability of taking such measures, save in cases where life and property are endangered.

Article 3. Every contract and arrangement involving financial liability between the Central Chinese Governments and/or the Provisional Chinese Governments and the High Contracting Parties and/or their national and/or the agents of their nationals

shall be communicated to the High Contracting Powers, and no such contract or arrangement shall be binding until so communicated.

Article 4. The diplomatic representatives of the High Contracting Parties at Peking shall be vested with the executive authority of carrying out this Agreement.

Article 5. The High Contracting Parties recognise the desirability of arranging for periodical meetings between their duly accredited representatives for the discussion of the practical means best calculated to secure the objects aimed at under the present Agreement.

Article 6. The High Contracting Parties agree that they will not without consulting one another enter into separate Agreements with another power or powers to the prejudice of the objects described in the preamble to this Agreement.

(右和訳文)

英帝国、支那国、仏蘭西国、日本国及亜米利加合衆国(外

締約国ニ通告スヘク且此種ノ契約又ハ約定ハ右通告アルニ至ル迄拘束力ヲ生セサルモノトス

第四条 北京ニ駐劄スル締約国外交代表者ハ本協約実施ニ関スル執行ノ権限ヲ賦与セラルヘシ

第五条 締約国ハ本協約ノ目的実現ニ最モ適切ナル實際的措置ヲ審議スル為メ正当ニ委任ヲ受ケタル其ノ代表者ノ定時会同ヲ開催スルノ可ナルコトヲ認ム

第六条 締約国ハ他ノ締約国ト協議ヲ經シテ締約国以外ノ一国又ハ数国ト本協約前文ニ記述セル目的ヲ害スヘキ別約ヲ為ササルヘキコトヲ約定ス

11 10年12月2日(着) ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

速ニ三国協商ヲ取纏ムルヲ良策ト信ズル旨上

申ノ件

會議第一二〇号(至急、極秘)

往電會議第九三三号ニ関シ
(五文書)

英国ハ其ノ殖民地ノ希望及米國ノ意嚮ニ制セラレ愈々日英同盟ヲ廢棄シ米國ヲ加ヘタル新協商ヲ以テ之ニ代ヘントスルノ意思ヲ有セルコトハ今回英國ノ提案ニ依リテ明白トナ

ニ伊太利國、和蘭國及葡萄牙國ヲ加フ)ノ政府ハ

(イ)東亞ニ於ケル全局ノ平和ヲ確保スルコト

(ロ)支那共和國ノ獨立及領土保全ヲ維持スルコト

(ウ)支那ニ於ケル各国民ノ商業及工業ニ對シ機會均等主義ヲ適用スルコト

(ニ)國際競争ニ代フルニ國際協調ヲ以テスルコト
ノ目的ヲ以テ左ノ條款ヲ約定セリ

第一条 締約国ニ於テ本協約前文ニ記述セル目的ノ中何レカ危殆ニ瀕セリト認ムルトキハ五國政府ハ充分ニ且ツ隔意ナク互ニ之ヲ通告シ其ノ侵迫セラレタル權利又ハ利益ヲ擁護センカ為ニ執ルヘキ措置ヲ共同ニ考量スヘシ

第二条 締約国ハ如何ナル場合ニ於テモ予メ他ノ締約国ト其ノ可否ニ関シ協議ヲ經スシテ海軍陸軍又ハ空軍ノ使用ニ依リ東亞ニ於ケル其ノ利益ヲ保護セムカ為メ單獨ノ行動ヲ為ササルヘキコトヲ約定ス但シ生命財産カ危險ニ瀕セル場合ニハ此ノ限りニアラス

第三条 支那國中央政府及(又ハ)支那國臨時政府ト締約國及(又ハ)締約國民並ニ(若ハ)其ノ代表者トノ間ニ於ケル財政上ノ義務ヲ包含スル一切ノ契約及約定ハ之ヲ

リタリ而シテ米國輿論ノ日英同盟ニ對スル反感ハ意外ニ強烈ニシテ諸方面ヨリノ情報ニ徴スルモ米國政府ガ今回ノ會議中適當ノ機會ニ於テ日英兩國ニ對シ必ズヤ同盟廢棄ノ希望ヲ申出ツベカリシモノト予想セラレ四圍ノ大勢刻々同盟ニ遠ザカッテ動キツツアルヤノ感アリ從テ今回英國ノ提案ハ日英同盟ヲ軋ジテ嘗テ御訓令ノ三国協商トナスベキ絶好ノ機會ニ有之帝國政府トシテ此ノ際極力右協商ノ成立ニ努力スルヲ得策ナリト信ズ

本件ハ往電會議第一〇六号ノ如ク急軋直下ノ勢ヲ以テ發展シ来リタルガ往電會議第九五号修正案ニ付テ見ルニ先ヅ第一ニ考慮セザル可ラザルハ仏國加入問題ナリ案ズルニ帝國ガ日英同盟ノ継続又ハ三国協商ノ締結ヲ希望スル所以ハ敢テ之ニ依リテ締約国ヨリ何等戰爭ニ對スル援助ヲ期待スル為メニ非ズ唯一ニ英國若クハ英米ト伍班ニ立チテ協調ヲ保チ相互ニ德義的支持ヲ約シ以テ帝國ノ國際的孤立ヲ避ケントスルニ在リ而シテ右目的ヲ達スル為メニハ成ルベク本協商ヲ日、英、米ニ局限スルノ望マシキハ勿論ナルモ既ニ米國ガ特殊ノ理由ニ依リテ仏國ノ加入ヲ希望シ英國モ亦之ヲ諒トシ居ル今日我國独リ之ニ反對スルハ策ノ得タルモノニ

非ザルノミナラズ仏国ノ国际上ノ地位及現存日仏協商ノ關係ニ鑑ミル時ハ仏国ノ加入ハ大体ニ於テ当然ノ帰結トモ言ヒ得ベシ從テ仏国ノ加入ハ結局承認セザルヲ得ザルベシト思考ス

第二ニ本協商ノ適用ヲ支那ニ及ボス時ハ他ノ關係諸國特ニ支那自身ノ参加ヲ拒否スルニ由無キガ故ニ往電第一〇六号協商ノ適用区域ヲ太平洋ノ島嶼ニ局限セントスル英米ノ提議ニ對シテハ帝國ニ於テ何等異議ヲ挾ムベキ理由無シト信ズ唯其所謂支那ニ關スル別個ノ協定ニ付テハ英米ノ成案未ダ明白ナラザルモノアルモ右ハ今日トナリテハ往電第一〇八号英國ノ準備セル案ヲ基礎トスルニ非ズシテ支那問題ニ關スル本會議ノ決定ヲ纏メテ一個ノ協定ト為スヲ當然トスベシト思量ス

第三我ガ國ノ試案第二項ニ於テハ締約國間ニ紛議ヲ生ズル場合ハ紛争當事國間ノ合意ニ依リ第三第四締盟國ノ参加ヲ求ムルコトヲ得ル様規定シアリシ所「バルフォア」ハ之ヲ改メテ「They agree to invite etc」ト為シ紛争國ノ「ジョイントコンフェレンス」ニ對スル關係ヲ一層拘束的ト為シタルガ我ガ試案ハ成ル可ク米國上院及ビ政府ニ於テ異議

在英大使ヘ轉電セリ

12 10年12月3日(發)

内田外務大臣ヨリ
ワシントン會議全權宛(電報)

太平洋協商及ビ中國ニ關スル協定ニツキ日本

政府ノ内意回訓ノ件

會議第一〇九号 極秘(大至急)

貴電會議第六六号ニ關シ

貴電會議第六七号 Balfour 案、第九四号幣原大使案第九五号 Balfour 修正案及ヒ第一〇八号支那ニ關スル協定案ニ對シテハ篤ト攻究ヲ加ヘ居ル次第ナルカ元來日英米三国協商案ハ曩ニ一般訓令ヲ以テ申進シタル通り帝國政府ニ於テモ希望スル次第ニテ至急廟議ヲ決定シ何分ノ儀申進スヘキモ貴地ニ於ケル本件急速進展ノ模様ニ顧ミ未タ廟議ノ決定ヲ經サルモ不取敢当方大体ノ内意トシテ左記諸点申進ス就テハ其御含ニテ御措置アリタシ

(一) 当方差向ノ考慮ニ拠レハ太平洋協商ト支那協定トヲ分離スルノ不得止場合ニハ支那協定ニ於テ帝國ノ支那ニ對スル地理的接壤ノ結果自然他國ト異レル特殊利害關係ノ事實ニ基ク正当ナル行動ヲ羈束セサル様協定ノ文字ヲ按

ヲ少カラシムル様起案シタルモノナルガ米國自ラ「バルフォア」修正ノ字句ニテ異存無キニ於テハ我ヨリ強テ反對ヲ唱フル必要無シト認ム但シ茲ニ所謂「コンフェレンス」ハ仲裁裁判トハ全ク性質ヲ異ニシ帝國ノ意志ニ反スル決定ノ強制セラルルコト無カルベキヲ以テナリ

翻ッテ本協約ノ結果ニ付テ考慮スルニ英國ハ之ニ依リテ日英同盟ヲ變形セシメテ日米トノ交歓ヲ繋ギ更ニ其殖民地ノ為メ日本ノ脅威ニ依ル危惧ノ念ヲ除クノ利益ヲ受クベク米國ハ日英同盟ヲ廢棄セシムルト同時ニ日本ニ對スル友好關係ヲ確保シ又日本トシテハ孤立ノ地位ニ立ツコトヲ避クルト同時ニ日米間ニ蟠マル諸般ノ疑惑ヲ一掃シ將來ニ向ヒテ平和ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルヲ得ヘシ

依ッテ帝國政府ハ此際速ニ本協約ヲ取纏ムルヲ良策ナリト信ズ就テハ右大至急御詮議ノ上何分ノ儀御電訓ヲ請フ將タ又本件協約ノ字句ニ付テハ尚修正ヲ加フルノ余地アルベシト認ムルニ付本件進行上焦眉ノ急務トシテ第一四國間ニ於テ協商ヲ為スコト第二協商ノ範圍ヲ太平洋島嶼ニ限ルコトノ二点ニ關シ同意ヲ与ヘ差支無キヤ否ヤ折返シ御電示ヲ請フ

排スル必要アリ此場合支那ト意見ヲ異ニスルカ如キコト有之ヤモ難計処支那協定ニハ支那ヲ除外スル能ハサルヘク旁々可成太平洋協商ト並立スヘキ支那協定ノ如キモノヲ作ラサルコト得策ナルヘク可得出來ハ Balfour 案ノ如キモノノ成立ノミニ止メタキ希望ナリ乍去貴地ニ於ケル折衝振ニ顧ミルニ右ノ如キ希望ハ最早之ヲ達シ難キ哉モ難計ク果シテ然リトセハ太平洋協商ノ条項中ニハ「高平ル―ト」取極中ニアル太平洋ニ於ケル締約國商業ノ自由平穩ナル發達ヲ奨励スルノ趣旨並ニ單ニ島嶼ノ外太平洋岸ノ所領ニ於ケル締約國ノ領土權ヲ防護スルノ目的ヲモ追加シ且太平洋一般ノ平和保持ノ為締約國ニ於テ協力スルモノナルコトノ趣旨ヲ一層明確ニスルコト適當ト思考セラル

(二) 支那協定ニ付テハ前記地理的接壤ノ一節ニ注意セラレ其他ハ大体貴電第六一四四大原則ノ範圍内ニ於テ適宜規定ヲ設クルコトトシ會議參列國全部ヲ加入セシメ差支ナシト思考ス但シ今後尚ホ支那ニ關スル決議モ可有之ニ付其内容如何ニヨリテハ之ヲモ加味シ差支ナキモ「ハンケ―」ノ示シタル案ニハ遽ニ同意シ難ク又英國側カ該案ヲ

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

米國側ニ内示シ置キナカラ同時ニ我方ニ之ヲ示ササリシノミナラス図ラス之ヲ提示スルニ当リテモ尚躊躇ノ色ヲ示シタルカ如キハ甚タ感服シ難キ処ナリ

(三) 貴電ニ依レハ所謂太平洋協商案ヲ三国ニ限ラムトセラ
ルルハ主トシテ日英同盟廢棄ニ関スル帝國ノ立場ヲ顧慮
セラルル趣旨ト認メラルル処曩ニ一般訓令中ニハ太平洋
及極東ニ於ケル恒久平和ノ確立ヲ主眼トスル日英米三国
案ヲ提唱スルニ便ナル形勢ヲ誘致スルニ努メラルヘキ旨
訓令シ置キタルモ其後ノ形勢ノ推移次第ニヨリ特ニ太平
洋問題ノミニ関スル協商ヲ支那問題ニ関スル分ト引離シ
テ成立セシムル場合ニハ寧ろ太平洋方面ニ利害關係ヲ有
スル諸國ノ中最優勢ナル海軍力ヲ有シ且ツ從來相互間ニ
協商又ハ協約關係ヲ有スル日英米仏四ヶ國ヲ以テ協商ヲ
成立セシムルコト適當ト思考ス

以上ハ貴電會議第一二〇号御意見ヲモ斟酌シタルモノナリ
御含迄

13 10年12月5日(着)

ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極秘非公式二三國協商ニ関シ埴原ルートルト會

ガ特ニ日米ノ親交ニ重キヲ置ク点ニ付非常ニ喜ビ米國側ニ
於テモ今回ノ會議ニ関シテ日本ニ重キヲ置キ彼我友好關係
ノ増進ニハ全力ヲ注グ積リナル旨ヲ語リ実ハ會議ノ劈頭海
軍制限ニ関シ率直ニ具提案ヲ提出シタルモ畢竟日本ノ立場
ヲ主トシテ考慮ニ入レ如何ニモシテ米國側ニ敵意無キコト
ヲ表明シ日本側ニ存スルコトアルベキ危惧ノ念ヲ除カント
シ夫レニハ先ヅ自ラ海軍勢力ヲ現実ニ限定スルノ決意ヲ示
シ誠意ヲ明ニスルニ如カズト考ヘタルガタメナリ極東問題
ヲ先ヅ審議スベシトノ反對論アリタルモ之ヲ排斥シテ軍備
制限問題ニ着手シタル次第ナリトテ暗ニ同氏ガ真摯タル口
吻ヲ洩シ若シ本問題ニ関シ先ズ協定ヲ遂ゲ得ザルニ於テハ
會議ハ不成功ニ終ルヘク斯ル場合ニハ日米兩國全權トモ
ニ lack of intelligence ノ責ヲ免レザルヘシト力ヲ籠メテ
述べ更ニ語ヲ次ギ極東問題ニ関シ日本ノ立場ハ自分ニ於テ
充分諒知ス

日露戰役朝鮮併合ノ際ニ於テ「ルーズベルト」氏ヲ扶ケテ
日本ニ厚意ヲ表シタルコト其他紳士協約高平「ルートル」協
定ノ場合ニ於ケル自分ノ態度ニ関シテハ君ノ充分承知シ居
ラルル筈ナリ今回ノ會議ニ於テモ亦出来得ル限り日本ニ對

三 太平洋ニ関スル四國條約ノ成立

談ノ件

會議第一二八号(至急極秘)

埴原ヨリ

御承知ノ通り「ルートル」氏ハ小生懇意ノ間柄ナル処今回モ
旧ニ変ラザル厚意ヲ示シ會議關係ニ付テモ何等相談シタキ
コトニテモアラバ喜ビテ之ニ与ルヘシトノ意ヲ伝ヘラレタ
ルニ付深ク其ノ厚意ヲ謝シ接触ニ努メ来リタル次第ナルガ
十一月三十日會談ノ要領御參考マデ左ノ通り

本官ハ極秘且ツ非公式ノ談話タルコトヲ前提トシ日本政府
ハ日英同盟ヲ重要視シ且ツ日英兩國ノ友好關係ヲ持續セン
コトヲ望ムハ勿論ナルモ一方又米國ニ對スル關係ニハ最も
重キヲ置キ今回全權ニ与ヘラレタル訓令中ニモ特ニ日米ノ
親善關係ニ意ヲ用ヒ兩國間ニ完全ノ諒解ヲ遂グル事ニ最善
ノ努力ヲ致スベキ旨記載アリ已ニ御承知ノ事ト諒解スル日
英米三国協商案ノ如キモ右ノ如キ趣旨ヨリシテ我が政府ノ
歡迎セントスル所ナル旨内話シ「バルフォア」幣原兩案
ニ付其ノ所見ヲ求メタルニ大体ニ於テ至極結構ナリト思考
スルモ未ダ詳細研究ノ暇無キニ付其文句形式等ニ付テハ意
見ヲ陳フルノ準備無シト答ヘ次デ「ルートル」氏ハ我が政府

シ同情的援助ヲ惜マザル積リナリ冷静ニ考フレバ日米間ニ
衝突ノアル可キ筈ナク又其親交維持ニ努ムルガ兩國國民ノ義
務ナリト確信スルモノナリ尤モ山東問題及二十一箇条問題
ハ(脱)甚ダシク惡化シツツアリ其当否ハ別トシ右ハ事實
ナルヲ以テ日本ハ此際最モ注意シテ此ノ惡感ヲ一掃スルコ
ト必要ナリ支那ハ勿論一部米人間ニモ二十一箇条問題ヲ會
議ニ提出センコトヲ希望スルモノアルモ米國委員ノ関スル
限り本件ハ歴史的事實トシテ取扱ヒ會議ノ問題トシテハ取
上ゲヌ積リ故此ノ点ハ安心アリ度シ但右ハ万一外間ニ洩ル
ルニ於テハ困難ナル狀況ヲ惹起スルニ付嚴秘ニ付セラレ度
シ支那撤兵ノ問題ニ関シテハ二十九日委員會ニ於テ君ノ述
ベタル所ハ時宜ニ適セリ要スルニ政治的及領土的ニ侵害ノ
意ナキコトヲ明カニスルコト肝要ナリ実ハ日本ガ支那ニ出
兵スルハ米國ガ「キューバ」「ハイチ」等ニ出兵セルト同ジ
ク相当ノ理由アルコト自分ニハ充分了解シ居ルモ一般ニハ
了解セシムルコト困難ナリ要ハ之ヲ必要ノ最小限度ニ止メ
危局過ギタル時ハ(脱)セシムル上ニ得策ナリト思考スル
モ從來日本ノ遣り方ハ此点ニ付テ拙ナル所アルガ如シトテ
個人的注意ヲ与ヘタルニ付深ク厚意ヲ謝シ置ケリ

14 10年12月5日(着)

ワシントン会議全権ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

太平洋協商ニ仏国ヲ加フルコトニツキ訓訓ノ件

會議第一三四号(至急) 極秘

十二月二日加藤全権「ビューズ」「バルフォア」両氏ト会見中国務長官ハ太平洋協商ノ件ニ関シテハ未ダ「ビビアニ」氏ニ会談セス右ハ全ク日本側ノ回答ヲ待チ居ル為ナルガ最早速ニ同氏ニ内談ノ要アルニ付テハ至急日本政府ノ回訓ヲ促ス様取計ハレ度キ旨ヲ述ベタルニ依リ之ヲ諾セリ就テハ本件協商ニ仏国ヲ加ヘ差支ナキヤ否ヤノ点ハ折返シ御電示アリタシ当方ニ於テハ諸般ノ事情ニ顧ミ同国ヲ加フルコトハ之ヲ承諾スル外ナシト認ム

15 10年12月6日(発)

内田外務大臣ヨリ
ワシントン会議全権宛(電報)

バルフォアノ協定案ニ対シテ修正案ヲ立案セ

ル趣意伝達ノ件

別電

十二月六日内田外務大臣発ワシントン会議全権宛電
報會議第一二五号
日英米仏四国協商案

會議第一二四号

會議往電第一〇九号ニ関シ
(二文書)

本件協商案ニ対シ篤ト審議ノ結果貴電會議第九五号(五文書) Brd-
four 修正案ヲ基礎トシ別電會議第一二五号ノ通り協商案

ヲ立案シ之カ成立ヲ図ルコトニ決定シタルニ付左ノ諸点御承知置ノ上精々御尽力相成度シ

(一)別電會議第一二五号協商案前文ヲ挿入シタルハ本協商ノ主眼カ全局ノ平和確保ニアルコトヲ明確ニセムトスルニ外ナラス

(二)往電會議第一〇九号ニ於テ本協商ニ太平洋沿岸ノ所領ヲ加フルコト然ルヘキ旨申進シタルカ右ハ貴電會議第一〇六号ノ如ク單ニ島嶼トスルトキハ英國側ニ於テ重キヲ置キ居レリト認メラルル濠州新西蘭等ヲ含マスト解セラルル虞アルヲ考慮シタル結果ナリ又之ト同時ニ太平洋沿岸トシテ本件協商ノ適用範圍ヲ日米兩國ノ本土ニモ及ホストキハ協商案第二条ノ關係ヨリ米國本土ニ起リタル事件ニ関シテ日米間ニ爭議ヲ生シタル場合日本ノ主張貫徹セサルヘキ憂アルニ拘ラス日本ノ本土ニ起リタル事件ニ関スル爭議ニ於テ他ノ關係國ノ主張貫徹スル場合多カルヘ

キ虞アルニ顧ミ本土ヲ含マサルコトヲ明ニスルノ必要アリ仍テ以上ノ意味ヲ明確ニスル為メ會議別電第一二五号ノ通り insular and detached overseas territory in the possession or under the control 云々ノ語ヲ用ヒタル次第ニテ又斯克セハ赤道南北ニ於ケル日英兩國ノ委任統治地ヲモ含ムコト明瞭トナスヲ得ヘシ

(三)別電會議第一二五号協商案第二項ニ商業ノ自由平穩ナル發達云云ノ一節ヲ挿入セルハ高平「ルート」取極ニ倣ヒ太平洋ニ於ケル日米兩國ノ円滿協調ノ關係ヲ一層明確ニセムコトヲ期シタルモノニテ又太平洋方面ニ門戸開放機會均等主義ヲ適用セムコトハ御承知ノ通り我方ノ切望スル処ナルモ右ハ目下ノ処其貫徹容易ナラスト認メラルルニ付斯ル形式ニテ幾分ニテモ右我希望ノ一端ヲ含マシメ置カムトスル底意ニ出ツ尤モ本件ハ英米側ニ強テ異議アルニ於テハ最後迄之ヲ主張スルニ及ハス

(四)本太平洋協商ハ往電會議第一〇九号(三)ノ通り日英米仏ノ四國ニ限ルコトト致度又太平洋協商ト離レ別ニ支那問題ニ付協定ヲ遂クル場合ハ之亦往電會議第一〇九号(一)ノ前段及(三)ノ通りノ方針ニテ御措置相成度尚支那問題ニ関ス

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ル協商ハ帝國ニ取リテ極メテ重大ノ關係ヲ有スル処ニ付申ス迄モナキ事ナカラ形勢ノ推移ニ応シ詳細ノ事情ヲ具シ稟議アリタシ

(五)本件太平洋協商ハ貴電會議第一〇六号ニ依レハ可成速ニ成立セシメタキ意嚮ナル趣ノ処帝國政府ニ於テモ右ニ異存ナシ

(六)太平洋協商ノ形式ハ米國側ノ都合モアルヘキニ付協約共同宣言若ハ文書交換等如何ナルモノト為スヤハ閣下等ノ裁量ニ一任スヘシ

(欄外註記)

大正十年十二月六日外交調査會決定
十年十二月六日撰政殿下ニ拝謁言上

(別電)

十二月六日内田外務大臣発ワシントン会議全権宛電報會議第一二五号
日英米仏四国協商案

會議第一二五号

四國協商案

締約國ハ太平洋ニ於ケル全局ノ恒久平和ヲ確保スル目的ヲ以テ左ノ各項ヲ約定セリ

第一条 太平洋ニ於ケル締約国ノ領有若ハ管治スル島嶼及隔在セル海外領土ニシテ第三国ノ侵略的行爲ニ依リ脅威セラルル場合ニハ締約国ハ右特定状態ノ急需ニ応スル爲メ共同ニ又ハ各別ニ執ルヘキ最モ有効ナル措置ニ関シ了解ヲ得ンカ爲メ充分ニ且隔意ナク互ニ意見ヲ交換スヘキコトヲ約定ス

第二条 締約国ハ太平洋ニ於ケル他ノ締約国ノ領有若ハ管治スル一切ノ島嶼及隔在セル海外領土ヲ互ニ尊重シ且同方面ニ於ケル其ノ商業ノ自由平穩ナル発達ヲ助長スヘキコトヲ約定ス

前記方面ニ於ケル事項ニ関シ締約国中何レカ二国若ハ二国以上ノ間ニ於テ円満協調ノ關係ニ影響ヲ及ボスノ虞ナル爭議發生スル場合ニハ之等ノ締約国ハ他締約国ト共同会商ヲ求メ該事項全部ノ考量妥結ヲ其議ニ付スヘシ

第三条 本協約ハ今日迄日英間ニ効力ヲ有シタル千九百十一年七月十三日ノ同盟協約ニ代ルヘキモノトス

(右英文)

第一二五号

Strictly confidential

With a view to the maintenance and consoli-

dation of the general and permanent peace of the Pacific Ocean, the High Contracting Parties have agreed upon the following stipulations:—

(1) The High Contracting Parties agree that, if any insular and detached overseas territory in the possession or under the control of any of them in the Pacific Ocean shall be threatened by the aggressive action of any third power, they will communicate with one another fully and frankly in order to arrive at an understanding as to the most efficient measure to be taken, jointly or separately, to meet the exigencies of the particular situation.

(2) The High Contracting Parties engage to respect as between themselves all insular and detached overseas territory in the possession or under the control of each other in the Pacific Ocean and to encourage the free and peaceful development of each other's commerce there. If there should develop between any two or more of them controversies of

any matter in the beforementioned regions likely to affect the relations of harmonious accord between them, those Powers shall invite the other Contracting Parties to a joint conference to which the whole subject matter will be referred for consideration and adjustment.

(3) The present Agreement shall supersede the Agreement of Alliance dated the 13th of July, 1911 hitherto in force between Japan and Great Britain.

16 10年12月8日(着)

ワシントン会議全權ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

三国協商ニ仏国加入ノ賛否ニ関シ請訓ノ件

會議第一四五号(至急、極秘)
(一四文書)
往電會議第一三四号ニ関シ

本委員等ニ於テ英米代表者トノ接觸上該案ニ依ル帝国政府ノ大体ノ御意嚮ダケニテモ承知シ居ルコト絶対ニ必要ニ有之且ツ又本件ガ新聞紙上ニ論議セラレ居ルタメ仏国加入ノ賛否ニ関スル日本ノ態度ヲ長ク未決ノママト致シ置ク事ハ

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

何レノ点ヨリ見ルモ不得策ニテ現ニ「ヒューズ」「バルフォア」ニ於テモ此ノ点ニ付心ヲ痛メ居ル様見受ケラルルニ付案ノ各条項ニ対スル廟議ハ追テ御回訓ニ接スルヲ待ツベキモ不取敢大体ノ御意嚮至急回電ヲ請フ

(四日午後九時)

本電着時間回電ヲ請フ

17 10年12月8日(発)

内田外務大臣ヨリ
ワシントン会議全權宛(電報)

バルフォアノ三国協商ニ対スル尽力ニツキ接

拶方訓令ノ件

會議第一二五号

(一五文書)
會議往電第一二四号ニ関シ

閣下ハ適當ノ機会ニ於テ Balfour 氏ニ対シ帝国政府ノ名ニ於テ左ノ通り可然挨拶シ置カレタシ

Balfour 氏カ過去二十年ニ亘リテ光輝アル事績ヲ遺シタル日英同盟ニ対シ多大ノ考慮ヲ払ハレ特ニ最近十一月十二日帝国全權ニ対シ日英同盟ノ将来ニ付極メテ虚心坦懐ニ其ノ所信ヲ披瀝セラルト同時ニ日英同盟ニ代ルヘキ三国協商訂立ヲ提唱セラレ殊ニ同協商案ニ於テ防禦的

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

五七八

軍事同盟締結ニ関スル条項ヲ挿入シ他日新事態ノ発生ニ
応シ日英同盟復活ノ自由ヲ留保シ以テ過去ニ於ケル日英
両国ノ親密ナル關係ヲ維持スルノミナラス益々之ヲ鞏固
ニセムコトヲ期セラレ且米国当局ニ対シ本件協商ヲ提議
セラレタルハ帝國政府ノ深ク感謝ニ堪ヘサル処ナリ
右在英大使ヘ転電アレ

18 10年12月9日(着)

ワシントン会議全権ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏国ノ協商加入ニ異議無キ旨バルフォア二回

答ノ件

會議第一五一号

(十二月六日ワシントン発)

往電會議第一〇九号ニ関シ

四囲ノ情況ハ一刻モ早ク仏国加入ノ回答ヲ発スベキ事ヲ必
要トスルニ付十二月六日加藤全権「バルフォア」ニ会见ノ
上日本政府ニ於テハ仏国加入ニ異議無キ旨回答セリ

19 10年12月12日(発)

内田外務大臣ヨリ
ワシントン会議全権宛(電報)

在本邦米国大使ノ四国協約正文公表並ビニ米
国ノ調印ニ関スル留保ノ件

會議第一六六号

在本邦米国大使ハ十二月十一日夜四国協約正文ヲ公表シ且
米国調印ニ関スル留保トシテ左ノ通併セテ発表シ十二日朝
刊各新聞ハ何レモ之ヲ掲載セリ御参考迄

本協約ノ調印ハ米国ニ在リテハ「ヤップ」島ノ地位及太平
洋赤道以北ノ委任統治諸島ト称セラルモノニ関シ日本ト条
約ヲ締結スルコトヲ条件トシ(但シ此ノ日米条約ニ関スル
交渉ハ殆ト結了セリ)又太平洋赤道以南ニ於ケル委任統治
諸島ト称セラルモノニ関スル留保ヲモ条件トス尚本協約
ニ所謂紛議ノ中ニハ国際法ノ原則ニ照シ全然締約各国ノ国
内法権内ニ属スル問題ヲ含マサルモノトス

(二〇文書)

右協約第二条以下ト思ハルモノノ貴電會議第一七七号トシ
テ十日午後接手シタルモ同号其ノ一ハ未タ到着セス為念
尚米国大使ハ十二日付私信ヲ以テ本件協約正文及前記留保
事項ヲ本大臣ニ通報シ来レリ 在欧各大使ヘ転電アレ

20 10年12月13日(着)

ワシントン会議全権ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

四国協商議了並ビニ右調印ニ関シ報告ノ件

別電 ワシントン会議全権宛内田外務大臣宛十二月十二日

着電報會議第一七七号

四国協商案文

會議第一七六号(至急極秘)

四国協商ニ関スル其ノ後交渉ノ經過ハ別ニ電報スヘキモ不
取敢最後ノ決定左ノ通り

十二月九日午前十時ヨリ國務長官私邸ニ於テ開キタル四
国代表(加藤、幣原、「ビュース」「バルフォア」「ビビア
ニ」「ジュスラン」)ノ会合ニ於テ四国協商案文別電第一七
七号ノ通り協定ヲ了セリ調印ハ「ヤップ」問題解決ヲ待ツテ
行フ筈尚四国ノ情勢ハ右協定ノ発表ヲ遅延スルコトヲ許サ
ズトノコトニ各国代表者ノ意見一致シタルヲ以テ急速(多
分明十日午前ナルベシ)ニ次回ノ総會議ヲ催シ「ロッシ」
ヨリ之ヲ発表スルコトニ決定セリ
英仏ヘ転電セリ

(別電)

ワシントン会議全権宛内田外務大臣宛十二月十二日着電報會議
第一七七号

四国協商案文

第一七七号 別電

The United States of America, the British

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

Empire, France and Japan,

With a view to the preservation of the general
peace and the maintenance of their rights in relation
to their insular possessions and insular dominions in
the region of the Pacific Ocean,

Have determined to conclude a Treaty to this
effect and have appointed as their Plenipotentiaries:

The President of the United States of America,
His Majesty the King of the United Kingdom
of Great Britain and Ireland and of the British Do-
minions beyond the Seas, Emperor of India
and for the Dominion of Canada,

for the Commonwealth of Australia,
for the Dominion of New Zealand,
for India,

The President of the French Republic,

His Majesty the Emperor of Japan,

Who, having communicated their Full Powers,
found in good and due form, have agreed as follows:

五七九

1. The High Contracting Parties agree as between themselves to respect their rights in relation to their insular possessions and insular dominions in the region of the Pacific Ocean.

If there should develop between any of the High Contracting Parties a controversy arising out of any Pacific question and involving their said rights which is not satisfactorily settled by diplomacy and is likely to affect the harmonious accord now happily subsisting between them, they shall invite the other High Contracting Parties to a joint conference to which the whole subject will be referred for consideration and adjustment.

2. If the said rights are threatened by the aggressive action of any other Power, the High Contracting Parties shall communicate with one another fully and frankly in order to arrive at an understanding as to the most efficient measures to be taken, jointly or separately, to meet the exigencies of the

particular situation.

3. This agreement shall remain in force for ten years from the time it shall take effect, and after the expiration of said period it shall continue to be in force subject to the right of any of the High Contracting Parties to terminate it upon twelve months' notice.

4. This agreement shall be ratified as soon as possible in accordance with the constitutional methods of the High Contracting Parties and shall take effect on the deposit of ratifications, which shall take place at Washington, and thereupon the agreement between Great Britain and Japan, which was concluded at London on July 13, 1911, shall terminate.

Zenken.

(右和訳文)

亜米利加合衆国、英帝国、仏蘭西国及日本国ハ大局ノ平和ヲ確保シ且太平洋方面ニ於ケル其ノ島嶼タル属地及領地ニ関スル各自ノ權利ヲ維持スル目的ヲ以テ条約ヲ締結スルコ

トニ決シ

亜米利加合衆国大統領ハ.....

大不列顛愛蘭連合王国及大不列顛海外領土

皇帝印度皇帝陛下ハ.....

又加奈陀ヲ代表シ.....

濠太利連邦ヲ代表シ.....

新西蘭ヲ代表シ.....

印度ヲ代表シ.....

仏蘭西共和国大統領ハ.....

日本国皇帝陛下ハ.....

ヲ各其ノ全権委員ニ任命シ各全権委員ハ互ニ其ノ委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メ左ノ如ク協定セリ

第一条

締約国ハ太平洋方面ニ於ケル其ノ島嶼タル属地及領地ニ関スル各自ノ權利ヲ互ニ尊重スヘキコトヲ約ス若シ締約国ノ何レカノ間ニ太平洋問題ニ起因シ且前記ノ權利ニ関スル爭議ヲ生シ外交手段ニ依リテ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハス且其ノ間ニ現存スル円満ナル協調ニ影響ヲ及ボスノ虞アル場合ニハ右締約国ハ他ノ締約国ノ共同会商ヲ

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

求メ当該事件全部ヲ考量調整ノ為其ノ議ニ付スヘシ

第二条

前記ノ權利ニシテ締約国以外ノ国ノ侵略的行為ニ困リ脅威セラルル場合ニハ締約国ハ右特殊事態ノ急ニ応スル為共同ニ又ハ各別ニ執ルヘキ最有効ナル措置ニ関シ了解ヲ遂ケムカ為充分ニ且隔意ナク互ニ交渉スヘシ

第三条

本協約ハ実施ノ時ヨリ十年間効力ヲ有シ且右期間満了後締約国ノ何レヨリモ十二月前ノ予告ヲ以テ之ヲ終了セシムルノ權利ヲ行使セサル限り引続キ効力ヲ有ス

第四条

本協約ハ締約国ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ成ルヘク速ニ批准セラルヘク且華盛頓ニ於テ行ハルヘキ批准書寄託ノ時ヨリ実施セラルヘシ千九百十一年七月十三日倫敦ニ於テ締結セラレタル大不列顛国及日本国間ノ協約ハ之ト同時ニ終了スルモノトス

~~~~~

21 10年12月13日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

太平洋協商交渉ノ経過報告ノ件

別電

ワシントン会議全權内田外務大臣宛十二月十三日  
着電報會議第一八〇号

十二月七日加藤、ヒューズ、バルフォア三者会合ニ  
於テヒューズヨリ提出ノ協約案文

會議第一七九号(極秘)

太平洋協商交渉ノ経過左ノ如シ

一、十二月七日午後四時加藤「ヒューズ」「バルフォア」  
國務省ニ於テ会合(イ)太平洋協商ニ仏国ヲ参加セシムルコ  
トハ我方ニ於テ異議ナキ旨十二月六日米國側ニ通知シ翌  
七日午後加藤「ヒューズ」「バルフォア」三氏ノ会合ニ  
於テ「ヒューズ」ヨリ別電第一八〇号ノ案文ヲ提出シ之  
ニ対シ一応意見ノ交換ヲ行ヘリ(ウ)其際我方ヨリハ貴電第  
一二八号其二ノ案ヲ朗読シ且貴電會議第一二四号第三項  
商業ニ対スル自由平穩ナル発達ニ関スル規定ヲ挿入スル  
ノ希望ヲ申出テタルニ「ヒューズ」ハ前文(ブレアンプ  
ル)ニ挿入スルコト然ルヘシトノ意見ヲ述ヘ之ニ対シ更  
ニ我方ヨリ本文中ニ挿入スルコトヲ希望スル旨ヲ答ヘタ  
ルニ「バルフォア」ハ本件協商ヨリ伊国ヲ除外スル為ニハ  
協約ノ目的ヲ全然締約國ノ有スル領土ノ問題ニ限ルコト  
必要ナルヲ以テ商業上ニ関スル規定ヲ挿入スルハ適當ナ

会合セル席ヘ急ニ仏國代表者ヲ招クハ穩カナラス寧ロ最  
初ニ「ヒューズ」一人ニテ仏國側ニ話シヲ為シ其ノ後改  
メテ四國間ノ商議ヲ開ク方穩当ナルヘシトノ意見ヲ述ヘ  
一同之ニ賛成シ同日中ニ「ヒューズ」ヨリ仏國側ニ開談  
シ翌日四國代表者ノ会合ヲ催スコトニ決定セリ

二、十二月八日午後四時半國務長官私邸ニ四國代表者会合  
(加藤幣原「ヒューズ」「バルフォア」「ビュアン」)  
「ジユスラン」出席)

(イ)「ヒューズ」ハ前日ノ案(往電第一八〇号)ニ若干ノ  
修正ヲ加ヘタル一案ヲ提出シテ討議ノ基礎トセリ前案  
ト相違ノ点四箇處アリ左ノ如シ

(一)「ブリアンフル」中「possessions」以下ヲ「and  
insular dominions in the region of the Pacific  
Ocean, the United States of America, the British  
Empire, France and Japan agree as follows」  
トス

①第一条中「controversies」ヲ「a controversy」ト改  
メ「above-mentioned region which is」ヲ「likely  
to affect」ノ間ニ「not satisfactorily settled by

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ラス且斯ノ如キ規定ニハ税率ノ問題ニモ関係スルモノト  
解釈セラルルノ虞アリトノ理由ニ依リ反対意見ヲ表示シ  
「ヒューズ」モ伊國トノ関係ハ大イニ注意ヲ要ストテ伊  
國側ヨリ頻リニ参加ノ希望ヲ表示来リ之ヲ辞ル理由トシ  
テ協商中ニハ伊國ニ関係アル事項ハ全然無之旨ヲ確言シ  
居ル次第ナルヲ以テ伊國其他ノ國ニ聊カナリトモ関係ヲ  
及ホスヘキ事項ヲ包含スト認メラルルカ如キ文字ハ一切  
挿入セサル方然ルヘシトテ「バルフォア」ノ説ニ賛成ヲ  
表示加之「バルフォア」ノ態度ハ極メテ強硬ニシテ我方  
ノ希望ヲ貫徹スルノ望ナキコト明瞭トナリタルヲ以テ貴  
電御来示ノ趣旨ニ基キ我主張ヲ固執スルコトハ之ヲ避ケ  
タリ(ウ)尚ホ伊國委員ハ英國側ニモ強硬ニ本協約参加ノ希  
望ヲ申出テタル由ニテ伊國其他ノ諸國ヲ除外スルコトニ  
ハ英米側ニ於テ焦慮シ居リタル結果英國修正案前文「全  
局ノ平和維持」ノ文字ヲモ削除スルコトニ一応協定セリ  
(ニ)「ヒューズ」ハ今日迄仏國側ニハ一言モ話シ居ラサル  
ニ付直ニ「ビビアン」及「ジユスラン」ヲ招キ四國代表  
者間ノ談話ヲ始ムルコトトシタキ旨ヲ述ヘ之ニ対シ「バ  
ルフォア」ハ仏國人ノ感情強キ性質ニ顧ミ三國代表者ノ

diplomacy and is」ヲ加フ

③第三条末文「one year's notice」ヲ「twelve months'  
notice」ト改ム

④第四条中「exchange」ヲ「deposit」ト改ム右ノ通ニ  
テ「ヒューズ」ハ「ブリアンフル」中前日一応削除  
スルコトトナリタル「preservation of the general  
peace and」ノ文字ヲ復活シテ提出シタル次第ナリ

(ウ)右案ニ付國務長官ヨリ意見ヲ求メタルニ対シ我方ヨ  
リハ第一ニ「insular possessions」ナル語ハ日本本土  
(Japan proper)ヲ包含スル趣旨ナルヤ否ヤニ付質  
問シタルニ國務長官ハ勿論包含スト答ヘタリ

右ニ対シ我方ハ Japan proper ハ日本帝國ノ本部  
(Center and main body)ニシテ日本ノ possessions  
ニ非ストノ解釈モ立チ得可シト述ヘタルニ仏國大使及  
席ニ在リタル英國法律顧問ハ右解釈ノ理由アルコトヲ  
認メタルモ「ヒューズ」及「バルフォア」ハ之ニ反対ノ  
意見ヲ表示シタリ依テ我方ハ解釈ニ疑義アル以上ハ我  
等ハ右本土ヲ包含セサルコトニ付明瞭ナル諒解ヲ求メ  
置カンコトヲ希望スル次第ナル旨ヲ述ヘタルニ「ビ

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ーズ」ハ本土ヲ除外スルコトガ希望ナルニ於テハ強テ之ニ反対ヲ表スル次第第二非サルモ別ニ付属公文ヲ以テ其ノ趣旨ヲ明カニシ置クコト必要ナル可シト云ヘリ然ルニ「バルフォア」ハ日本ノ本土ヲ本協約適用ノ範囲内ニ包含セシムルコトヲ希望セラルモノト想像シ居タルニ却テ之ヲ除外センコトヲ申出テラルハ頗ル意外ノ感アリト云ヒ我方ヨリ本協約ノ他ノ締約国中其ノ本土ニ本協約ヲ適用スルモノナキニ独リ日本ノミ本土ヲ包含セシムルトキハ我國民ノ感情或ハ之ニ反対スルコトナキヲ保セスト述ヘタルニ「バルフォア」ハ本協約ノ適用ノ範囲内ニ入ルコトハ一ノ利益ノ privilege ト認ムヘキモノト思考シ居リタルニ日本側ハ却テ不快ノ感ヲ抱カルルハ解シ難キ処ナリ若シ日本ノ本土ヲ除外セラルル理由ニシテ右ノ通りナリトセハ濠州自治領ノ如キ其ノ本土ニ条約ヲ適用セラルルモノハ日本ノ主張ヲ解セス却テ疑惑ノ念ヲ以テ之ヲ迎ウルコトナルヘシト述ヘ我方ハ之ニ対シテ濠州ハ英国ノ海外領土ノ一ニシテ日本本土トハ同一ニ見做シ難シト述ヘタリ我方ハ更ニ「ビニーズ」ニ向ヒテ委任統治地域ハ

insular possessions 中ニ包含セルヤヲ問ヒタルニ同氏ハ其ノ通りナリ尤モ日米間ニ於テハ南洋諸島委任統治問題ノ交渉未タ結了セサル今日直ニ同諸島ニ対スル日本ノ權利ヲ承認スルコトヲ得サルモ右交渉結了ノ上ハ本協約ニ所謂權利ハ日本ノ委任統治諸島ヲ包含スルハ勿論ナリト認ムト答ヘタルニ付我方ヨリ日本本土ヲ除外スルコトヲ規定スヘキ付属公文ニ其ノ旨ヲ記入センコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ「ビニーズ」ハ之ニ同意セリ

右ノ次第二テ「バルフォア」ハ未タ日本程除外問題ニ付明瞭ニ賛否ノ意見ヲ表示セサリシモ便宜上此ノ点ノ討議ヲ後廻シニシテ他ノ論点ニ移リタリ

(c) 次ニ前文中ノ rights with respect to their insular possessions 云々トハ領土權ノミヲ指示スルモノナリヤト質問シタルニ「ビニーズ」ハ茲ニ所謂權利トハ領地ニ関スル一切ノ權利ヲ指シ広汎ナル意味ヲ有スルモノニシテ必シモ所謂領土權 (territorial rights) ニ限定スルノ趣旨ニアラスト答ヘ仏国大使モ同意見ヲ述ヘタリ

(二) 第一条ニ權利尊重ニ関スル事項ト爭議ノ処理法ニ関ス

ル事項トヲ同一文章中ニ併セ規定セル為爭議ハ前記權利ニ関スルモノニ限ルカ如ク解セラルル虞アルニ付之ヲ二箇条ニ分タムコトヲ我方方ヨリ提議シ第一条ヲ二項ニ分チ規定スルコトトセリ

(a) 第一条中 controversies on any matter in the above-mentioned region トアリテ其ノ地方トハ広ク太平洋地方ヲ指スモノナルカ故ニ日本本土ニ起ル爭議モ本規定中ニ包含セラルル処我方方ニ於テハ日本本土ヲ協約ノ適用範囲外ニ置クノ希望ナルヲ以テ爭議ニ付テハ本土ニ関スルモノハ之ヲ除外セサルヘカラサルコトヲ主張シタルニ「バルフォア」ハ元來本条ハ爭議ノ解決方法ヲ規定スルモノナルカ故ニ特ニ日本本土ノミヲ明記シテ之ヲ其ノ適用範囲ヨリ除外スルノ規定ヲ設クルカ如キハ一般ニ対スル關係モ面白カラサルヘク

又濠州ノ如キモ其本土ニ関スル爭議カ本件ノ適用ヲ受クルニ拘ラス日本本土ニ於ケル爭議ハ適用ヲ受ケスト云フカ如キ區別ヲ設クルコトハ誤解ノ原因トモナルヘシト云ヒ元來日本ハ其本土ヲモ日英同盟ノ適用範囲内ニ含メタルニ今ヤ之ヲ除外セントセラルハ政策ノ變

更ニ基クモノナリヤト問ヘリ之ニ対シ我方ヨリハ日英同盟ノ規定中ニハ兩國爭議ノ処理ニ関スル規定ナキコトヲ指摘シ且米國ハ其大陸領土又英國ハ加奈陀本土ヲモ等シク包含セシムルモ差支ナシトノ意向ヲ有セラルルヤト反問シタルニ「ビニーズ」ハ米國太平洋岸ニ於ケル爭議ニ付本項ヲ適用スルコトハ毫モ之ヲ忌避セントスルモノニ非ス只明文ノ有無ニ拘ラス移民問題關稅問題ノ如キハ純然タル国内問題 (ドメスティック、クエツション) ナルヲ以テ適用範囲外タルハ勿論ナリト付言セリ然レトモ一旦太平洋ニ沿ヘル大陸地方ヲ包含セシムルコトトセハ直ニ支那智利等ノ参加ヲ拒絶スルコト困難トナリ隨テ協約ヲ四國ニ限ラントスルノ根底ヲ覆サルルコトトナルヘシト云ヒ「ビニアニ」モ仏蘭西トシテハ印度支那ヲ協約適用範囲内ニ入ルルコトハ兩國一般ノ熱心ニ要求スル処ナルヘキモ一度大陸ヲ入ルルノ例ヲ開ク結果ハ他ノ諸國ノ参加ヲ拒ミ得サルノミナラス支那西比利亞ノ如キ政狀不安定ナル地方ヲ適用範囲内ニ入ルルコトトナルヲ以テ特ニ印度支那ニ関スル主張ヲ差控ヘ居ル次第ナリト云ヘリ

右ノ次第二テ爭議ノ場合ニ於テ日本本土ヲ除外スルコトハ英米仏何レモ之ニ反対シ尚暫ク論争ノ末「ヒューズ」ヨリ國際法上内政問題ト認メラルル事項ハ之ヲ除外スル趣旨ノ規定ヲ設クルコトトセハ日本本土ヲ適用範圍内ニ置クモ日本ニ於テ異議ナカル可シト述ヘ英仏モ右ニテ折合ハンコトヲ切望シタルモ我方ハ之ニ同意セス更ニ一応熟考ノ上明日改メテ会合センコトヲ提議シ一同之ヲ諾セリ

(c)第一条中 they shall invite トアリテ締約国ハ一定ノ場合ニハ必ス「コンフェレンス」ノ議ニ附スル義務ヲ有スル処係争國ハ時トシテハ仲裁裁判ニ訴ヘ又ハ國際連盟ノ機關ノ審査ニ附託センコトヲ希望スル場合アルヘキヲ以テ「コンフェレンス」ノ議ニ附スルコトハ係争國相互ノ同意ヲ要スルコトトシ置ク方然ルヘキヤニ思考セラルル旨我方ヨリ提言シタルニ「ヒューズ」ハ本案ニ於テ新タニ which is not satisfactorily settled by diplomacy ノ句ヲ挿入シタル以上右ノ如キ爭議ノ平和的処理方法ヲ提議スルコトハ又外交ノ一方法ニシテ斯ノ如キ方法カ全部尽キタル場合ニ「コンフェ

ヲ提議シ右第二項ノ修正ニ付テハ元来太平洋問題ト云フ時ハ四国以外ノ諸國ニモ均シク利害關係ヲ有スル問題ト云フヲ得ヘキカ故ニ此ノ点ヨリ見レハ他國モ本協約ニ参加スルノ口実ヲ得ルヤモ測ラレザルモ既ニ「ブレアンブル」並ニ第一条第一項及第二条ノ規定ノ存スル限り他國ヨリ協約ニ参加センコトヲ申出スル理由ナルヘシ又太平洋問題ト云ヘハ爭議事件ノ發生地ヲ指定セサルカ故ニ日本本土ヲ除外スルヤ否ヤノ問題ヲ生セサルヘク之ト同時ニ内政問題カ除外セラルルコトハ当然ニシテ別ニ規定ヲ待タスシテ明ナルヘシトノ趣旨ヲ説明シタル所

「ヒューズ」モ大イニ満足ヲ表シ右趣意ハ極メテ適當ナルモ字句ニ付テハ尚ホ推敲ノ余地アルヘシトテ一同ノ間ニ種々意見ヲ交換シタル末 a controversy arising out of any Pacific question and involving their said rights トスルコトニ決定セリ「ヒューズ」ハ右説明字句ノ趣旨ヲ説明スヘキ仮想ノ場合ヲ拳ケ譬ヘハ加奈陀ニ於テ太平洋問題ニ關係ヲ有スル事項ニ関シ日英間ニ爭議ヲ生シタルトセンニ其ノ事項ニシテ純然タル

レンス」ニ附議スルモノナリ然ルニ之ニ対シ更ニ条件ヲ附スル時ハ本項ノ規定ハ著シク効力ヲ減殺スヘシト云ヘルニ依リ我方ニ於テモ強テ之ニ反対スルノ必要ナシト認メ其ノ儘ニ為シ置キタリ

三 十二月九日午前十時國務長官私邸四国代表者会合(出席者前日ニ同シ)

(d)先ツ「ヒューズ」ヨリ前日未決定ノ点ニ関スル我方講究ノ結果ヲ問ヒタルニ対シ我方ハ一般ノ世論殊ニ濠州新西蘭ノ人心ニ誤解ヲ抱カシムルカコトキ除外ノ規定ヲ設ケ又ハ四国以外ノ諸國カ加入ヲ求メ来ルノ口実ヲ与フルカ如キ協約ノ形式ヲ採ルコトハ共ニ之ヲ避クルノ必要アル点ニ付前記英米仏代表者モ夫々意見ヲ述ヘラレタルカ其ノ趣旨ハ我等ニ於テモ全然同感ヲ表スル所ニシテ又充分講究ヲ尽シタル旨ヲ述ヘタル上第一ニハ「ブレアンブル」中ノ insular possessions ヨリ日本本土ヲ除外セントノ主張ハ之ヲ撤回スヘキコト第二ニハ第一条中 a controversy on any matter in the above-mentioned region 云 a controversy on any matter bearing upon Pacific problem ト改メンコト

地方的性質ノモノナル時ハ直チニ四国会議ニ附議スヘキモノニ非ス只爭議カ漸次發展シテ太平洋ニ於ケル日本又ハ濠州若クハ「ニュージラランド」ノ領土權ノ安全ニ影響ヲ及ホスカ如キ事態ヲ生スルニ至ル時ハ甫メテ四国会議ヲ召集スルノ順序トナルヘシト説明セリ要スルニ太平洋問題ナル語ハ如何ナル事項ヲ指スモノナルヤニ付テハ適確ナル定義ヲ与フルコト困難ナルモ多少漠然タル所ニ妙味モ有リトノ趣意ニテ右ノ文字ヲ採用スルコトニ決定シタル次第ナリ

(e)其他ノ修正ハ何レモ単ニ微細ナル字句ノ変更ニシテ特ニ説明ヲ要スルモノナシ

(f)右ニテ案文ヲ決定シタル後「ヒューズ」ハ本件協約ハ追々外間ニ洩レ新聞紙上又臆測ニ基キ種々評論ヲ試ムル結果協約ニ対シ不利益ナル感触ヲ有スルノ虞アルヲ以テ是非共明日公開ノ本會議ヲ開キ之ヲ公表シタシト述ヘ「バルフォア」モ又急速發表ヲ強く主張シ一同之ニ賛成シ午後「ヒューズ」ヨリ會議參列各國首席全權ヲ各別ニ招キ内密ニ成文ヲ交付シテ充分ナル諒解ヲ得置キタル上明日午前本會議ヲ開クコトトセリ

(二)同日午後幣原「ビュース」「バルフォア」「ビュアニ」  
会合本会議開催ニ付最後ノ打合ヲナセル際「ビュース」  
ハ協約写ニinitialセンコトヲ求メタルヲ以テ我方ヨリ  
ハ幣原一名ニテ「イニシヤル」シ置ケリ

英仏ハ転電セリ

(別電)

ワシントン會議全權發内田外務大臣宛十二月十三日着電報會議  
第一八〇号

十二月七日加藤、ビュース、バルフォア三者会合ニ於テビニ  
ス提出ノ協約案文

會議第一八〇号

With a view to the preservation of the general  
peace and the maintenance of their rights with  
respect to their insular possessions and dominions the  
Signatory Powers agree as follows:

(1) They engage as between themselves to respect  
the said rights, and if there should develop between  
any two of the High Contracting Parties controver-  
sies on any matter in the above-mentioned region  
which is likely to affect the relations of harmonious

effect on the exchange of ratifications, which shall  
take place at Washington, and thereupon the agree-  
ment between Great Britain and Japan, which was  
concluded at London on July 13, 1911, shall terminate.

Zenzen.

22 10 年12月13日(着)

在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日英同盟消滅ニ際シ声明書發表ニ関スル政府

方針訓諭ノ件

第一二四〇号

在米大使宛貴電會議第一二四号ニ関シ

本件協商成立ノ上ハ日英同盟消滅スヘキ処右消滅ニ際シ同  
同盟過去ノ実績ヲ叙シ且ツ日英国交ノ敦厚ハ今後繼續増進  
セラルヘキ趣旨ヲ述ヘタル声明書ヲ両国政府ヨリ發表スル  
コト必要且ツ時宜ニ適シタルモノト思考セラレ右ニ関シテ  
ハ既ニ御準備有之コトト推察セラルルモ予メ英國政府ト協  
議ヲ遂ケ置ク方可然ト存セラルルニ就テハ右ニ対スル御方  
針何分ノ御回訓請フ  
在米大使ヘ転電セリ

accord now happily subsisting between them, they  
shall invite the other High Contracting Parties to a  
joint conference to which the whole subject will be  
referred for consideration and adjustment.

(2) If the said rights are threatened by the  
aggressive action of any other Power, the High  
Contracting Parties shall communicate with one  
another fully and frankly in order to arrive at an  
understanding as to the most efficient measures to  
be taken, jointly or separately, to meet the exigencies  
of the particular situation.

(3) This agreement shall remain in force for ten  
years from the time it shall take effect, and after the  
expiration of said period it shall continue to be in  
force subject to the right of any of the High Con-  
tracting Parties to terminate it upon one year's notice.

(4) This agreement shall be ratified as soon as  
possible in accordance with the constitutional meth-  
ods of the High Contracting Parties and shall take

23 10 年12月14日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国協商ニ関スル感想並ニ執リタル処置ニ

ツキ報告ノ件

會議第一八九号(大至急極秘)

(十二月十一日ワシントン發)

四国協商問題交渉ニ関スル本委員等ノ感想並本委員等ノ執  
リタル処置ノ内情左ノ通

一 元來日英同盟カ米國ヲ目的トスルモノニ非サルコトハ  
両国政府ノ屢次声明セル所ナルモ米國ニ於テハ万一同盟  
國ノ一方カ米國ト開戦スルカ如キコトアラハ他ノ一方ノ  
同盟國ハ条約上ノ義務如何ニ拘ハラス事実上其同盟國ニ  
有形又ハ無形ノ援助ヲ与フルニ至ルヘシトノ危惧ヲ抱ク  
ノミナラス太平洋及極東問題ニ付締盟國ハ政治上ハ勿論  
經濟上ニ於テモ現下ノ状態及將來ノ發展ニ鑑ミ少クトモ  
英國ト同一程度ノ利害ヲ有スルヲ知覺シ日英兩國間ニ特  
殊ノ密接ナル結合アルコトハ米國ニ取リテ不利益ナリト  
ノ感覺強烈ニシテ現ニ國務長官ハ從來一部ノ親近者又ハ

### 三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

有力ナル新聞記者ニ対シテモ暗ニ日英同盟ノ継続ヲ喜ハサルノ口吻ヲ示シタルコトアリタル趣ナルカ米政府ヨリ突然該同盟ノ廃棄ヲ提議スルコトハ両国間関係ニ於テ事甚タ機微ナルモノヲ感シ好時期ノ到ルヲ待チツアリタルモノノ如シ会々「バルフォア」当地着後間モ無ク三国協商ニ関スル同氏ノ私案ヲ「ヒューズ」ニ提出シ米政府ノ内意ヲ探リタルガ右私案ノ明文ニハ軍事同盟ヲ復活スルコトアルベキ場合ヲ予想シアリ「ヒューズ」ハ斯ノ如キ条項カ米國輿論ノ誤解ヲ招クヘキヲ恐レ且他ノ一方ニ於テ日本側ノ意嚮モ全然不明ナリシ為暫ク本問題ヲ考量中ナリシ折柄当方ヨリ幣原試案トシテ内示セル三国協商案ハ「ヒューズ」ヲ始メ「ロッヂ」及ビ「ルート」ヲシテ意ヲ決セシムルノ動機ヲ与ヘ急ニ本件ノ交渉ヲ進捗スルコトトナリタルモノト察セラル以上ノ消息ハ「ヒューズ」ノ十二月七日提出セル協商案ガ我方ノ試案ヲ骨子トセルニ依リテモ推測スルニ難カラズ

二 当国政府ニ於テ本件ノ考案ヲ熱心ニ歡迎セルコトハ「ヒューズ」ガ「バルフォア」ニ内話セル処ニ徴シ明瞭

五九〇

ナルノミナラズ進シテ純然タル条約ノ形式ニ依リ右協定ヲナスノ決心ヲ表シタルヲ以テ見レバ本案ガ当国世論ノ人氣ニ投ズベキコトニ付如何ニ確信ヲ有スルカヲ知ルベシ仏國參加問題ノ内情ニ至リテハ既ニ報セル処ニ依リ御承知ノ通ナリ

(五文書)

三 繼テ貴電會議一二四号ヲ按ズルニ帝國政府ガ本協約ノ適用範圍ヨリ日米兩國ノ本土ヲ除外センコトヲ希望セラルルハ全ク同協約ノ予想セル紛争發生地ガ米國本土タルト日本本土タルトニ依リテ實際上不公平ナル結果ヲ生ズベキコトヲ危慮セラルルニ依ルモノト諒知ス隨テ本委員等ハ其趣旨ヲ体シ及ブ限リ日本本土除外ノ議ヲ主張シタルモ英米仏委員ノ同意ヲ得ズ又局外者ヨリ之ヲ見ルモ何等カノ文書ヲ以テ日本本土除外ヲ明記スルコトハ其理由明瞭ナラズトシ為ニ種々ノ揣摩臆測ヲ生ズルハ免レ難キノミナラズ「バルフォア」ノ指摘スルガ如ク日英同盟ハ日本本土ノ領土權ガ侵迫セラルル場合ニ於テモ適用アルニ反シ今回ノ協約ニ於テ協約前文及第一条第一項並ニ第二条ノ適用ヨリ特ニ日本本土ヲ除外スルコトハ恐ラクハ一種ノ偏狹ナル感情論ニ外ナラザルベク斯ノ如キ見地ニ

拘泥シテ太平洋地方全局ノ安寧ト締約國間ノ親交トヲ確保スル大目的ヲ減殺スルハ不得策ニシテ到底世界一般ノ認識ヲ得難カルベシ又帝國政府ニ於テモ前記協約前文及第一条第一項及第二条ノ適用ニ付テハ強テ日本本土ノ除外ヲ主張セラルルノ御趣旨ニアラズト解シタルニ付十二月九日四國代表者會合ノ席上日本ハ特ニ日本本土ニ関スル除外ノ規定又ハ諒解ヲ求メザルコトヲ明言スルト共ニ

第一条第二項ニ付テハ紛争發生地ヲ指定スルコトヲ避ケ只問題ノ性質ニ依リ即チ太平洋問題ニ関スル事項ハ四國會議ニ附スルノ趣旨ヲ規定センコトヲ提議シ即チ太平洋問題ニ關係ナキ限リ日本本土ニ於ケル紛争ハ自然ニ協約ノ適用ヨリ除外セラルルコトナルベキヲ期待シタル次第ナリ之ニ對シ四國代表者間意見交換ノ結果採用セラレタル arising out of any Pacific question and involving their said rights ノ文句ハ意義明確ナラザルノ

嫌アルモ元來本協約ハ前記ノ大目的ニ出デタル純然タル政治的協約ニシテ仲裁裁判ニ関スル條約ノ如ク純然タル法律の性質ヲ有スルモノト異リ從テ其規定モ法理又ハ論理ノ正確ヲ期スルヨリモ寧ろ條約ノ適用上伸縮力アル

### 三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

四 將タ又本問題ノ商議ニ當リテハ「ヒューズ」及「バルフォア」ハ全然自己ノ確信ニ依リテ独斷決行シ「ビビアニ」ノ如キハ「ヒューズ」ヨリ始メテ本件提議ニ接スルヤ殆ンド本國政府ニ報告スルノ暇サヘナキ間ニ商議ハ着着進捗シテ最後ノ決定ニ贊同スルノ已ムヲ得ザルニ至リタル狀態ニ鑑ミ本邦委員ノミ一々請訓ヲ要スルコトヲ主張スルガ如キハ頗ル機宜ヲ失シ帝國ノ國際的地位ニ累ヲナスベキコトヲ信ジタルヲ以テ委細ノ訓令ヲ俟タズ斷然決定ニ參加スルコトトセルノ事情御諒察ノ上本委員等ノ執リタル処置御追認ヲ請フ

24

10年12月14日 内田外務大臣記者会見談要領

四國協定ニ関スル内田外務大臣記者会見談話ノ件

五九一

四国協定ニ就テハ未タ公電ニ接セサルモ本月十三日調印ヲ了シタル筈ナリ元來該協定ハ条約ノ形式ヲ執ルコトナリ居ルニ付締約國ノ批准ヲ必要トスルモノナルモ容易ニ批准ヲ了スヘシト信ス而シテ日英同盟ハ本協定成立ト共ニ廢棄トナルヘキモノナル処二十年ノ光輝アル歴史ヲ有スル同盟ノ廢棄ニ際シテハ愛惜ノ情ニ堪ヘサルナリ英國ニ於テモ亦同様ノ感想ヲ抱キ居ルコトナルヘシト信ス然レトモ日英同盟力極東ノ平和ヲ保障シタル精神ハ本協約之ヲ繼承シ平和貢獻ノ範圍益々広汎トナリタル次第ナリ

協定ノ文面ニ現ハレタル所ニヨレハ太平洋ニ於ケル四國ノ島嶼タル屬地及領土ニ關スル約定ナルモ其趣旨ハ締約國カ隔意ナキ了解ヲ遂ケ太平洋ノ平和ヲ確保スルト共ニ更ニ進シテ世界ノ平和ヲ維持セントスルモノニシテ協定ノ辞句ヨリモ其精神ニ重キヲ置クベキモノナリ又日英同盟力其適用範圍ヲ極東トシタルニ對シ本協約ハ之ヲ太平洋トシタリ支那ニ關シテハ過般四大綱ノ決議アリ尚ホ爾余ノ主義問題等ニ就キ目下審議中ナルヲ以テ是等ヲ包括シ不日支那ニ關スル新協定ノ成立ヲ見ルニ至ルヘシ

四国協定ハ第一条ニ於テ太平洋問題ニ關シ締約國相互間ニ

ニシテ連盟ノ精神ハ茲ニ更ニ拡充拡大セラレタルモノト觀ルヲ得ヘシ

「ヤップ」問題ニ關シ本協定ハ保留ヲナセリト新聞電報ノ所報アルモ之レ本協定報告ノ場合ニ於テ米國ノ立場ヲ明カニシタルモノナルヘク未タ公報ニ接セサル今日確言シ難キモ米國ノ保留ハ之ヲ協定ノ文面ニ表シタルモノニハアラサルヘシ蓋シ「ヤップ」問題ニ關シテハ其後日米兩國間ニ満足ナル解決ヲ遂ケタルヲ以テ四国協定ノ調印ニ際シ何等右留保ヲ為スノ必要ナキナリ而シテ米國ハ「ベルサイユ」條約批准拒否ノ結果トシテ委任統治ニ關シテハ關係諸國ト別ニ協定ヲ結フノ必要アリ乃チ其第一歩トシテ「ヤップ」ニ關スル日米間ノ問題ハ茲ニ解決ヲ告ケタルニ付爾余ノ連合國トノ間ニモ自然同様ノ手續ヲ見ルヘク赤道以南ノ旧獨領島嶼ニ關シテハ早晚英國トノ協定ヲ必要トスヘキモノ之レ英米間ノ問題ニシテ四国協約ニハ關係ナキ問題タラサルヘカラス云々

25 10年12月15日(着)

在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日英兩國政府同時聲明ヲ要セザル旨稟申ノ件

三 太平洋ニ關スル四国条約ノ成立

爭議ヲ生ジタル場合先ツ外交手段ニ依リテ平和的解決ノ途ヲ講セントスルモノニシテ万事ヲ外交手段ニヨリテ解決セントスル強キ決心ノ表示ナリ然レトモ凡ユル外交手段ヲ尽シテモ猶ホ且ツ解決ヲ遂ケ難キ時ハ最後ノ解決ヲ四國ノ協議ニ俟タントスルモノナリ

第二条ハ第三國ノ侵略の脅威ヲ被リタル場合之ニ応スル手段措置ニ就キ其都度意見ノ交換ヲ行ヒ以テ平和的手段ニヨリ解決セントスルモノナリ

元來本協約ハ平和維持ヲ目的トスル一種ノ平和同盟ニシテ干戈ニ訴フルコトヲ避ケントスルモノナリ從テ何等軍事行動ヲ予想スルモノニ非ス第三國ノ侵略的行爲ニ依リ脅威セラルル場合ハ共同又ハ各別ニ其ノ執ルヘキ最有效ナル措置ニ關シ了解ヲ遂ケン爲隔意ナク交渉スルモノニシテ協約國カ共同シテ軍事行動ニ出ツルカ如キハ協約ノ解釈上当然ニ予想サル所ニ非ラサルナリ強イテ軍事行動ヲ執ルカ如キ場合ヲ想像スレハ協商國カ隔意ナキ協議ノ上共同軍事行動ヲ執ルヲ最善トスルニ一致セル場合ナリトス

尚ホ本協定ト國際連盟トノ關係ハ日英仏ノ連盟加入國ヨリ看レハ連盟規約ノ上ニ更ニ本協定ヲ重ヌルニ至リタル次第

第一二四八号

(十二月十二日ロンドン發)

(二文書)

往電第一二四〇号ニ關シ批准期ノ相異等ニ顧ミ日英兩國政府同時聲明ヲ困難トスル場合モアルヘク本件聲明ハ必シモ兩國同様ナルヲ要セス但シ我が政府トシテハ適當ナル時期ニ前電所述ノ如キ趣旨ニテ聲明スルコト然ルヘシ依テ英國政府ニ對シ我が方ニ於テハ單獨ニテモ這聲明公表ノ所存ナル旨併セ申入ルコト可然ヤニ思考セラル(十二日)

26 10年12月15日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

第四回總會議ニ於ケル各國全權ノ四国協約ニ  
對スル評價報告ノ件

別電

ワシントン會議全權發内田外務大臣宛十二月十五日  
着電報會議第一八七号

第四回總會議ニ於ケル德川全權ノ演說

會議第一八六号

十二月十日午前十一時第四回 Plenary Session 開会「ヒューズ」ハ先ツ太平洋及極東委員會ニ於ケル議事ノ進行順調ナル旨ヲ告ゲテ左ノ議事大要ヲ報告シ次デ同委員會ヲ通過セル(「ルート」決議案(三)支那ニ於ケル治外法權撤廢ニ關

スル決議案(三)支那提議第八ニ関スル決議案(四)支那提議第五ニ関スル決議案等ニ就キ各国全權ヲ交互ニ呼びテ其正式承諾ヲ与ヘタリ次デ同氏ハ支那問題ニ関スル討議ハ今尚進行中ニシテ既ニ発表セラレタル此等決議ト共ニ究極ニ於テ関係国間ニ於ケル極東問題ニ関スル或種適當ナル諒解ニ達セムコトヲ希望スト述ベタル後茲ニ嚴格ニ議題ノ範圍内ニ属セザル事項ナリト雖早刻本會議ニ公知セシムベキ事項アリトテ「ロッジ」ヲ促シ「ロッジ」ハ起ツテ茲ニ世界ノ四大強國ガ太平洋ニ於テ領有セル又ハ屬領トシテ管治セル島嶼ニ関スル條約案ヲ本會議ニ提示スルハ予ノ最欣幸トセルトコナリ右案文タルヤ簡單ナレドモ其ノ世界平和ニ對シ有スル意義並重要ノ度ハ極メテ甚大ナルモノアリ(茲ニ日英米仏四國條約案全文ヲ朗読セリ)本條約ノ調印ハ米國ノ關スル限り今ヤ殆ド議決ヲ見ムトスル「ヤップ」島並赤道以北ノ委任統治諸島ノ地位ニ関スル日米商議ノ成立及赤道以南委任統治諸島ニ関スル留保ヲ條件トスルモノナリ將又其條約中ニアル爭議トハ國際法上全然各國ノ國內法權内ニ属スル問題ヲ包含セザルコトヲ注意スルヲ要ス云々ト述ベテ條約案文ノ規定スルトコロヲ説明シ其條項中ニハ條約ノ實

譽ヲ重シジ條約ノ実行ニ関シ各國人民ノ協力ニ訴ヘザルベカラズト結ビテ大喝采ヲ博セリ

「ビビアニ」次デ立チ「ロッジ」提示ノ條約案ヲ指シ仏國ハ批准ノ交換ノ翌日ヨリ本條約ノ規定スル義務ヲ負擔スベキコト恰モ條約ニ依リ生ズル權利ヲ行使スルガ如クナルベシト云ヒテ條約ノ内容ヲ述ベタル後其ノ條約案ノ成立ハ本會議ノ大ナル成功ナリト云ヒ休戰條約以來各國民ノ或者ガ戰爭中弘ヒタル偉大ナル犠牲ハ総ベテ無益ナリシヤ又戰後ニ於テ文明世界ノ狀態ニ何等變化ナキヤニ関シ疑惑ノ念ニ驅ラレ居リタル際本會議ノ召集ヲ見茲ニ本條約案ノ成立ヲ見ルハ本會議ノ成功タルト共ニ世界人民ヲシテ文明ノ進歩ヲ信ゼシムルモノナリ云々ト述ベ

次デ「バルフォア」ハ「ロッジ」「ビビアニ」両氏ノ所說ニ對シ何等附加スヘキ所ナシト雖トモ若シ一言云ハントセハソハ條約全体ニ関スル事ニ非ズシテ其中ノ一項ニシテ日英兩國ノ直接利害關係ヲ有スル点ナリトテ日英同盟廢棄條項ニ論及シ日英同盟ハ從來米國內ニ於テ猜疑非難ノ目標タリシモノナル事ハ余ノ熟知スル処ナルガ米國ノ此態度ハ当初吾人ノ驚異セシ処ナリ何トナレバ同盟締結者ニ於テハ同

施ニ當リ何等武力行使ノ規定ナキコトヲ指摘シテ聴衆ノ喝采ヲ博セリ

次デ同氏ハ戰爭防止ノ最上手段ハ戰爭原因ノ除去ニアリ本條約ハ連盟各國ガ外交手段共同考慮及互讓ノ方法ニ依リ總テノ真相ヲ解決セントスルモノニシテ其ノ企圖スル処ハ各國ノ誠實真率ナル意思ニ依頼シ依テ以テ廣大ナル地域ニ亘リ戰因ヲ除去セントスルニアリト云ヒ次デ太平洋ノ範圍ノ廣大ナルコトト其ノ島嶼ノ夥多ナルコト並其ノ將來發展ノ余地多キコトヨリシテ之等諸島ヲ領有スル締盟諸國間ノ今回ノ條約ガ世界平和ノ為重大ナル意義ヲ有スル所以ヲ述ベ吾人ハ大戰ヨリ戰慄スベキ教訓ヲ得タルヲ以テ戰爭ノ再発防止ハ吾人人類衷心ノ祈願ニシテ此ノ祈願ハ即チ本四國條約ノ目的トスル所ナリ去レバ吾人ハ各國ガ本條約ヲ實施セントスルハ誠意ニ信頼スルモノニシテ一朝爭議發生スルトモ本條約ヲ実行スルコト誠實ナルニ於テハ以テ戰爭ヲ防止スルヲ得ベキナリ從來此ノ種條約成立ヲ見タルコト一再ナラズト雖モ總テ失敗ニ歸セリ去レド爾來至ル所人心ニ偉大ナル變化アリ而シテ本條約ノ價值如何ハ締盟各國ノ意思如何ニ存ス去レハ吾人ニシテ本條約ニ加盟セバ(不明)及名

盟ガ米國ノ利益ニ触ルルガ如キ事ハ夢想ダニセザリシ所ナレバナリ米國ニ於テモ当初斯ク信シ居リタルモノト認メラルル処其後輿論ノ變化ヲ生ゼリ而シテ其原因ハ太平洋ニ於ケル國際關係緊張ノ狀態ニ外ナラズト信ズ元來日英同盟ハ極東ニ於ケル露獨ノ侵略的行動ノ為成立セシモノナルヲ以テ露獨ノ脅威去リタル今日ニ於テハ同盟ヲ必要トスル目的消滅セリト謂ハザルベカラズ然レドモ過去廿年間存続シ大戰後ニ裨益セシ本同盟ヲ廢棄スルハ容易ノ業ニアラズシテ條約ノ辭句以外ニ兩國ヲ結合スル或モノアリ而シテ結局英國ハ同盟ヲ繼續センカ同盟ノ目的消滅セシ今日他國ノ誤解ヲ招キ又之ヲ廢棄センカ又他ノ誤解ヲ受クルノ地位ニアリ果シテ然ラバ日英兩國ニ取り満足スヘキ唯一ノ解決方法如何ハ即チ此古クシテ廢用ニ歸シタル此同盟ヲ廢棄シ之ニ代フルニ太平洋ニ利害關係アル各國ヲ包含スル新シク且ツ有効ナル條約ヲ以テスルニアリ本四國條約ノ成立ニ對スル余ノ満足ハ到底言辭ニ之ヲ能クスル能ハズ日英同盟締結當時並ニ英仏協商締結當時余ハ偶々内閣ノ首班ニ在リ而シテ又余ハ就任以來英語國民間ノ親善友好關係存続ニ関スル不斷ニシテ熱心ナル唱道者ナルヲ以テ今日四國條約案ノ成立ニ

当り余ノ歡喜ハ諸氏ノ能ク認識セラルル処ナルベシ云々ト述ベタリ

次デ徳川ハ別電第一八七号ノ通り述べ之亦大喝采ヲ博セリ伊国全權「ジャンツエル」ハ太平洋ニ関スル四国条約案ノ公表ヲ見タルハ其ノ欣快トスルトコロニシテ世界平和ノ保障ヲ目的トスル措置ハ伊国ノ衷心賛同スルトコロナリトシ太平洋ニ於ケル平和ノ恒久的保障ナルベキ本条約ニ対シ伊国ハ全幅ノ信任ヲ置クモノナリト云ヒ和国全權「カルネビュック」ハ本条約案ノ成立ハ和蘭ニ於テ大ナル同情ヲ以テ迎ヘラルヘク本条約ノ成立ハ蘭領ニ隣接スル太平洋ニ於ケル平和安寧ヲ増進スルモノト認メラルヘシ而シテ本条約成立ノ結果支那關係諸決議ハ關係国間ノ政策ニ関スル一般了解中ニ全部合併セラル可ク而シテ斯クノ如キ了解ハ委員長ガ一般現状ニ関連シ述ヘラレタルガ如キ事項ニモ及フベシト述べ次テ協議ノ結果ハ先ツ本条約ノ成立ヲ讃シタル後支那全權ハ本条約ガ更ニ列国ニ満足ナル基礎ノ下ニ極東ノ状態ヲ調停シ一切ノ紛議ヲ平和的ニ処理スヘキ将来支那ヲ包含ム各国ノ會議ニ於テ満足セラレンコトヲ期待スト述ヘ白国全權「カルチュエ」ハ単ニ数言ノ讃辞ヲ述ヘ次テ葡全

plause). Japan will rejoice in this pledge of peace upon the Pacific Ocean (applause). As to the Anglo-Japanese Agreement which is soon to terminate, I desire to associate myself with the words of appreciation so ably expressed by our distinguished colleague Mr. Balfour (applause) with respect to the glorious service which that Agreement has done for the preservation of peace and liberty. (prolonged applause)

Zenken.

27 10 年12月15日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

#### 四国協約案通報ノ件

付記 十二月十日第四回總會議ニ於ケルロッキン演說

會議第一九〇号 (十二月十一日ワシントン發)

第四回總會議ニ於テ「ロッキン」ノ発表セル四国協約案別電  
(編註)  
第一九一号ノ通り

編註 ワシントン會議全權發内田外務大臣宛十二月十二日着電報  
會議第一七七号(二〇文書)ト同文

權「ダルト」モ簡單ナル賞讃ノ辞ヲ述ヘ最後ニ「ヒューズ」ハ恐ラク國際文書ニシテ本条約ニシテ之ヨリモ簡單ナルモノ無カルベシト雖モ本条約ノ一旦実施セラルルヤ吾人カ恒久平和確保ノ為爾來行ハレタル何物ニモ優ルベシト結ビ本會議ハ委員長ノ招集スヘキ時期迄休会スト宣セリ本電別電ト共ニ各大使及蘭西ヘ転電セリ

(別電)

ワシントン會議全權發内田外務大臣宛十二月十五日着電報會議  
第一八七号

第四回總會議ニ於ケル徳川全權ノ演說

會議第一八七号

#### ADDRESS

Mr. Chairman, and Gentlemen, although it is unnecessary to add to what has already been said by Senator Lodge, Mr. Viviani, and Mr. Balfour, I hope, Mr. Chairman, I shall be permitted to say a few words. The terms of the important pact assuring mutual security and friendship have just been made known. It is needless for me to say that all Japan will approve the consummation of the work (ap-

(中略)

十二月十日第四回總會議ニ於ケルロッキン演說

#### ADDRESS

I should be insensible, indeed, if I did not feel deeply gratified by the opportunity which has come to me to lay before the conference the draft of a treaty, the terms of which have been agreed upon by four of the great powers of the earth in regard to the islands of the Pacific, which they control, either as possessions or dominions. I will begin by reading to the conference the treaty, which is both brief and simple, and yet I am sure is full of meaning and importance to the world's peace. (以下四国条約案文省略)

The signing of this treaty is, on the part of the United States, subject to the making of a convention with Japan concerning the status of the island of Yap and what are termed the mandated islands in the Pacific Ocean north of the Equator, the

negotiations in regard to which are almost concluded, and also to the reservations with respect to what are termed the mandated islands in the Pacific Ocean south of the Equator.

It should also be observed that the controversies to which the proposed treaty refers do not embrace questions which, according to principles of international law, lie exclusively within the domestic jurisdiction of the respective powers.

The conference will perceive that I spoke correctly when I referred to the terms of the treaty as simple. To put it in a few words, the treaty provides that the four signatory powers will agree as between themselves to respect their insular possessions and dominions in the region of the Pacific, and that if any controversy should arise as to such rights all the high contracting parties shall be invited to a joint conference looking to the adjustment of such controversy. They agree to take similar action

in the case of aggression by any other power upon these insular possessions or dominions. The agreement is to remain in force for 10 years, and after ratification under the constitutional methods of the high contracting parties the existing agreement between Great Britain and Japan, which was concluded at London on July 13, 1911, shall terminate. And that is all. Each signer is bound to respect the rights of the others and before taking action in any controversy to consult with them. There is no provision for the use of force to carry out any of the terms of the agreement, and no military or naval sanction lurks anywhere in the background or under cover of these plain and direct clauses.

The surest way to prevent war is to remove the causes of war. This is an attempt to remove causes of war over a great area of the globe's surface by reliance upon the good faith and honest intentions of the nations which sign the treaty,

solving all differences through the processes of diplomacy and joint consideration and conciliation. No doubt we shall hear it said that the region to which this agreement applies is one most unlikely to give birth to serious disputes, and therefore an agreement of this character is of little consequence. History unhappily has shown that there is no corner of the earth so remote or so valueless that it is not capable of giving cause for controversy or even for war between the tribes and the nations of mankind. But the islands of the Pacific, although remote from the dwelling places of the mass of humanity, are far from valueless.

The islands of the southwestern Pacific extend over a vast space in that great ocean. They reach from the Marquesas on the east to the Philippines on the west; from the Aleutian Islands on the north nearly to the Antarctic Circle on the south. They are far more numerous than is generally realized. I

do not know what the total number is, but I am informed as to the Philippines, and it appears that this group alone contains over 3,100 islands, of which 1,600 have names. We have all probably heard of the remark of Robert Louis Stevenson, when on leaving one of the Pacific islands he was asked how he was going to Samoa. He replied that he should just go out and turn to the left. These islands are, comparatively speaking, so dense that we might describe them in the words of Browning as the

Sprinkled isles,

Lily on lily that o'erlace the sea—

And yet the region through which they are scattered is so vast that the isles of Greece and the Aegean Sea, so famous in history and in poetry, could easily be lost therein and continue unnoticed except by wandering seamen or stray adventurers. They range from Australia, continental in magnitude, to atolls where there are no dwellers

but the builders of the coral reefs or lonely rocks making the peaks of mountains which rise up from the ocean's floor through miles of water before they touch the air. To the western and the eastern world alike most of the islands of the southwestern Pacific are little known. There still lingers about them the charm so compelling and so fascinating which an undiscovered country has for the sons of men who are weary of main traveled roads and the trampled highways of trade and commerce which cover the surface of the patient earth.

Upon these islands still shines the glanor of romance in the stories of Melville and the writings of Robert Louis Stevenson, to whom the South Seas gave both a grave and a monument imperishable as his own fame. But the Pacific islands are much more than this. They possess certain qualities other than natural beauty and romantic charm, which to many minds are more enticing. The larger ones are rich in many ways, fertile in the gifts of

soil and climate and in other forms of riches desired by men, which extend from the untold mineral resources of Australia to the pearls which are brought from the depths of the ocean. There are among them all great areas of forest and of plain fit for the support and prosperity of civilized man. In a word they have a very great material value, largely undeveloped, and where this condition exists the desires of men will enter and conflicting human desires have throughout recorded history been breeders of war.

Thus far the wastes of the Pacific Ocean with all the crowding islands, except on the edges of the continents, have not been the scene of great wars; and yet not many years have passed since three great nations sent their warships to Samoa because there was a dispute in regard to those distant islands. Therefore an agreement among the nations controlling these islands has a very serious importance to

the peace of the world. We make the experiment here in this treaty of trying to assure peace in that immense region by trusting the preservation of its tranquillity to the good faith of the nations responsible for it. The world has just passed through a war the very memory of which makes us shudder. We all believe deep in our hearts that this hideous destruction of life, this suffering and ruin which still beset us, must not be permitted to come again if we can prevent it.

If the nations of the earth are still in the innermost recesses of their consciousness planning or dreaming of coming wars and longing for conquests, no treaties of partition and no alliances can stay them; but if, as I firmly hope, the world has learned a frightful lesson from the awful experiences of the Great War of 1914, then our surest appeal in order to prevent wars in the future must be to the hearts, the sympathies, the reason, and the higher impulses of man-

kind. Such an appeal we make to-day by this agreement among four great nations. We rely upon their good faith to carry out the terms of this instrument, knowing that by so doing they will prevent war should controversies ever arise among them. If this spirit prevails and rules we can have no better support than the faith of nations. For one I devoutly believe the spirit of the world is such that we can trust to the good faith and the high purposes which the treaty I have laid before you embodies and enshrines.

Agreements of this kind I know have often been made before, only to fail. But there has been a far-reaching change in the mental condition of men and women everywhere. That which really counts is the intention of the nations who make the agreement. In this hour of trial and darkness which has followed the war with Germany the spirit of the world is no longer the same. If we enter upon this agreement, which rests only upon the will and

honor of those who sign it, we at least make the great experiment and appeal to the men and women of the nations to help us sustain it in spirit and in truth.

28 10年12月15日(首) ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国条約案ニ対スル上院議員ノ態度及ビ新聞  
社説概要報告ノ件

會議第一九七号

太平洋条約案急転直下ノ勢ヲ以テ十日ノ本會議ニ於テ発表セラレタル為メ過日來新聞紙ニ表ハレタル断片的記事ニ依リ刺戟ヲ受ケツツアリタル米國ノ輿論ハ愈々多大ノ感想ニ打タレ十一日ノ諸新聞何レモ之ヲ特筆大書セリ尤モ発表後間モナキノ為メ多クハ記事ヲ掲載スルニ止マリ社説ヲ掲ケタルモノ少ナク又有力ナル政治家中明確ナル意見ヲ発表セルモノ甚タ稀ナリ左ニ取敢ヘス上院議員ノ態度及新聞紙ノ所説概要電報ス

(一)上院ノ態度

太平洋協定ハ条約ノ形式トナリタル為メ批准ノ關係上上

議員中逸早く纏マリタル所見ヲ公ニシタルハ有力ナル irreconcilable ノ一員 Reed ナルカ同氏ハ本条約ヲ以テ仮面セル同盟条約ナリトシ且ツ米國ハ四票ノ中僅ニ一票ヲ有スル關係上場合ニ依リテハ米國ノ(脱)タル支那又ハ露西亞ニ関シ戰爭ニ引キ出サルルコトトナルヘク斯卡ル treacherous ナル条約ニハ断然反對スヘシト公言セリ

(二)新聞社説概要

諸新聞紙ハ党派ノ如何ヲ問ハス何レモ新条約ノ成立ヲ重要視シ殊ニ從來米國人一般ヨリ猜疑ノ念ヲ以テ迎ヘラレ居リタル日英同盟ヲ消滅セシムルコトトナシタルニ對シ大満足ノ意ヲ表シ居レリ尤モ一二新聞中新条約ハ単ニ日英同盟消滅セシメタル消極的ノ効果アルニ過キスト述ヘタルモノアリ

一般ノ諸説ヲ綜合スルニ新条約ヲ以テ

(一)日米戰爭ノ杞憂ヲ一掃シ兩國ヲ接近セシムルモノアリ  
(二)四國カ太平洋諸島ニ有スル權利ヲ相互ニ尊重スルハ英國屬領ヲ安堵セシムルト同時ニ日米兩國カ将来之等諸島ニ海軍根拠地ヲ設ケサルヲ暗示シ兩國将来ノ親善關係ヲ増進スルコト多大ナリ

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

院ノ態度如何ハ甚タシク世上ノ注意ヲ喚起スルニ至リ「ビューズ」カ特ニ「ロジ」ヲシテ本条約案報告ノ任ニ當ラシメタルモ畢竟上院操縦ノ見地ニ出テタルモノナルヘク又調印未済ノ条約案ヲ急遽発表シタルハ上院議員ヲシテ断片的報告ニ基キ輕々シク其ノ立場ヲ「コンミット」セサラシメントノ用意ニ出テタルモノト一般ニ觀測セラレツツアリ十一日ノ諸新聞ヲ綜合スルニ共和黨ハ少数ノ irreconcilable (ボラー)ハ未タ意見ヲ発表セス)ヲ除外外悉ク本条約(脱)民主党ハ本条約第二条カ要スルニ國際連盟規約第十条適用ノ地域ヲ限定セルニ止マリ大体同黨ノ主張ト合致スルモノナリトノ見地ヨリシテ少数ノ irreconcilable ヲ除クノ外「アンダーウッド」指導ノ下ニ之亦悉ク賛成スルニ至ルヘク「ウィルソン」ノ態度如何ヲ懸念セル向少ナカラス本条約討議ノ際ニハ素ヨリ同黨ニ於テ「ベルサイユ」条約ニ對スル共和黨ノ反對ニ酬ユル為メ相當論ナスヘキモ本条約ニハ共和黨民主黨共ニ大イニ歡迎スヘキ日英同盟廢棄事項アリ且ツ共和黨ノ欲セサル政事の規定ナキ等ノ關係上結局少数ノ反對ニ依リ批准ヲ得ヘシトノ觀察一般ニ行ハレツツアリ上院

(三)海軍制限及ヒ極東ニ関スル協定ノ成立ヲ容易ナラシムヘシ等ノ觀察ハ大体一致シ居ルト新聞紙中殊ニ民主黨側ニ屬スルモノハ新条約第二条ヲ以テ連盟規約第二条ト實質的ニ同一ナリト論シ居レルニ對シ共和黨側新聞紙ハ連盟規約ハ各國相互ノ權利ヲ單ニ尊重スルノミナラス更ニ進テ之ヲ支持セントシ且之カ尊重及支持ノ方法ニ関シ米國ニ武力的援助ノ義務ヲモ負ハシメタルニ反シ新条約ハ單ニ各國カ相互ノ權利ヲ尊重スルニ止マリ武力的援助ノ義務ヲ米國ニ負ハシメサル点ニ於テ多大ノ相違アリト論シツツアリ

在欧洲各大使ヘ転電セリ

29 10年12月15日(首) ワシントン會議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

バルフォア演説ニ對スル壇原全權ノ感想承知  
シタキ旨バルフォア要望ノ件

別電 ワシントン會議全権内田外務大臣宛十二月十六日

着電報會議第二〇三号

バルフォア演説中ノ日英同盟ニ関スル部分報告ノ件

會議第二〇二号

十二月十日総会議ノ席上ニ於テ「バルフォア」氏ノ為シタル演説要領ハ往電會議第一八六号<sup>(二六文書)</sup>ノ通り主トシテ日英同盟ニ関スルモノナリシ処右會議後同氏ハ「ランブソン」氏ヲ特ニ埴原全権ノ下ニ遣ハシ右演説ガ日本側ニ与ヘタル感想ヲ承知シタキ旨申越シタルニ依リ埴原ハ「バ」氏ガ日英両国ノ緊密ナル關係及日英同盟ノ支持ニ関シ今日迄現サレタル行為並會議ノ際本件ニ関シ披瀝セラレタル誠意ハ日本側ニ於テモ充分了解シ深ク多トスル次第ニシテ仮令同盟ハ結了スルトモ兩國ノ歴史的友好關係ハ何等変ラザルノミナラズ更ニ一層増進セラル可キコトヲ日本側ニ於テモ切望スル旨述ベタル処「ランブソン」モ満足シテ引取りタルガ其ノ夜「グリドリアン」俱樂部ニ於ケル晚餐会ニ於テ加藤全権ハ「バルフォア」氏ニ対シ右同様ノ趣旨ニテ挨拶シタル処「バ」氏ハ大イニ悦ビ謝意ヲ繰返シ居リタリ尚前記総会ニ於ケル「バ」氏ノ演説ハ要領電報シタルモ更ニ御参考迄重複ヲ意トセズ日英同盟ニ関スル部分全文別電第二〇三号ヲ以テ電報ス

在英大使ヘ転電セリ

the United States and I think that from the historical point of view that attitude may at first cause surprise, for certainly nothing was further from thoughts of the original framers of the treaty between Japan and Great Britain than that it could touch in the remotest way, either for good or for evil, the interests of the United States. The United States seemed as remote from any subject touched in the original agreement as Chile or Peru.

I think that was the original view taken in the United States by all sections of opinion. To what is it that the change of opinion is due? I think it is due to the fact that the state of international tension did arise in the Pacific area and I hope I may incidentally say that it is now forever set at rest, but at all events it did arise in the area of the Pacific Ocean and critics in the United States began to say to themselves: Why is there this treaty between Japan and Great Britain? What further interest does it serve?

(別電)

ワシントン會議全權發内田外務大臣宛十二月十六日着電報會議第二〇三号  
バルフォア演説中ノ日英同盟ニ関スル部分報告ノ件  
會議第二〇三号

If I rise to occupy your attention for one or two moments, it is not to deal with the treaty in its entirety, but merely to say something about one clause in that treaty in which only my friends from Japan and the British delegation can regard themselves as immediately interested, although I think it touches in truth and in reality the interests of the whole world. You will all have noticed that Clause 4 provides that, when this treaty receives its ratification at the hands of the Signatory Powers, at that moment the treaty between Japan and Great Britain comes to an end. Now I am perfectly well aware that the treaty between Great Britain and Japan has been a cause of much searchings of heart of some suspicions or of a good deal of animadversion in important sections of opinion in

They call to mind the fact that it originally came into being on account of the aggressive attitude taken in the Far Eastern affairs by Russia and by Germany and they asked themselves: Is there any further danger from Russia? Is there any further peril to be feared from Germany? And when they answered that question, as of course, they were obliged to answer it in negative; when they perceived that the practical objects for which the Anglo-Japanese Alliance was brought into being no longer existed and that history had wiped them out, they said to themselves: Why then if this treaty continued may it not, in certain conceivable eventualities, prove hampering and injurious in case strained relations should become yet more strained?

I understand that point of view but there is another point of view which I want you to understand and which even those who disagree with it will sympathize with. There is no audience that I

would rather appeal to than an American audience on the part I am just going to mention. This treaty I remember was not a treaty that had to be renewed. It was a treaty that ran until it was formally denounced by one of two parties to it. It is true that the object for which the treaty had been created no longer required international attention.

But after all that treaty or its predecessor has been in existence within a few days of twenty years. It had served the great purpose in the two great wars. It had stood strain of common sacrifices, common anxieties, common efforts, common triumphs.

When the two nations have been united by that fiery ordeal, they can not at the end of it take off their hats one to the other and politely part as the two strangers part who travel together for a few hours in a railway train. Something more, something closer unites them than mere words of the treaty; and, as it were, gratuitously and without cause. To

tear up the written contract, although it serves no longer any valid or effective purpose, may lead to misunderstandings in one nation just as much as the maintenance of that treaty has led misunderstandings in another.

So that Great Britain found itself between the possibilities of two misunderstandings if they retained the treaty and misunderstanding if they denounced the treaty and we have long come to a conclusion that the only possible way out of this impasse, the only possible way of removing those suspicions and difficulties which are some of the greatest obstacles to that condition of a serene peace which is the only tolerable condition after all for the civilized people, the only solution was that we should annul, merge, destroy, as it were, this ancient and outworn and unnecessary agreement and to replace it by something new, something effective which should embrace all powers concerned in the vast area of the Pacific. I hope, at not too great length, I have

explained the frame of mind in which my Government approached this difficult problem. The solution is one which gives me a satisfaction which I find it impossible adequately to express in words.

在英大使ニ転電セリ

Zenzen.

30 10年12月15日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)

四国協約案前文ニ南ア連邦ヲ列挙シ居ラザル

理由ニツキ問合セノ件

會議第一八二号

(二〇文書)

貴電會議第一七七号及在本邦米国大使ヨリ入手セル四国協約案中其ニ其ノ前文ニ南阿連邦ヲ列挙シ居ラサル処貴電會議第二二六号ニ依レハ同連邦モ該協約ニ調印シ居レリ右ハ如何ナル事情ニ依ル次第ナリヤ電報アリタシ

31 10年12月16日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国條約ニ關スル米国新聞論調報告ノ件

會議第二〇四号

(二八文書)

往電第一九七号ニ関シ

三 太平洋ニ關スル四国條約ノ成立

六〇七

十二日主ナル新聞ハ社説ヲ掲ケ一斉ニ新條約ノ成立ヲ歡迎シ殊ニ日英同盟ノ消滅ニ満足ノ意ヲ表シ上院ニ於テ之ニ批准ヲ与フヘキモノナリト論シ居ルトコロ其中新條約ニ規定セル協調ノ精神ハ国家安定ノ必要ニシテ且米國ノ協力望メシキ他ノ地域ニモ拡張シ得ヘク将来ノ國際的協力ハ海軍縮小カ各國ノ攻撃力ヲ減少シタルヲ以テ道德ノ力ニ俟ツコト多シト論スルアリ……………(ニューヨーク・トリビューン)新條約カ太平洋上ニ於ケル戰爭ノ原因ヲ減少シ海軍制限及支那ニ關スル取極ノ成立ヲ容易ナラシムヘシト説クアリ(パブリック・レジャー)新條約第二条ハ各國連盟規約第十條ニ等シキモ新條約締結ノ目的ハ善良ニシテ内容モ亦欣然推奨スルニ足ルヲ以テ上院ハ速ニ之ヲ批准スヘシト論スルモノアリ(ニューヨーク・タイムズ)民主党ノ立場トシテハ共和黨ニ向ヒテ新條約第二条カ連盟規約第十條ト實質ニ於テ同様ナリト主張セサルヲ得サルヘキモ條約批准ニ當リテハ宜シク愛國心ト政治的論理ニ依リ之ニ賛成スヘキモノナリト論スルアリ(ニューヨーク・ウォールド)將又共和黨系新聞紙ハ勿論民主黨系ノ新聞紙モ新條約ノ成立ヲ以テ政府ノ成功ナルヲ默認スルト同時ニ之ヲ政争ノ具ニ供ス

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ヘカラスト警告シ居レリ尚加奈陀代表「ボルデン」ハ新条約ノ適用区域太平洋ニ限極セラルルモ条約ノ精神ハ四ヶ国間ニ於ケル総テノ争議問題ニ適用セラルヘキヲ切望スル旨意見ヲ発表セリ

各大使ヘ転電セリ

32 10年12月14日(着)

ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及ビ島嶼タル領地ニ関スル四国条約調印ノ件

付記

十二月十三日調印 太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ関スル四国条約

會議第二二六号

(十二月十三日ワシントン発)

本十三日午前十一時左記各国全権國務省ニ集合シ四国条約ニ調印シ尚ホ其ノ際別電會議第二二七号ニモ調印セリ(仏國全権 Sarraut 及 Jusseland ハ多分後ヨリ調印スルコトナルベシトノ事ナリ)

Hughes, Lodge, Underwood, Root, Balfour, Lee, Geddes, Borden(Canada), Pearce(Australia), Salmond(New Zealand), Balfour (South Africa), Sastri (India), Viviani

加藤、幣原、徳川、埴原  
在欧各大使ヘ転電セリ

編註 本電ハ本文書付記中ノ末尾ニアル声明ト同文

(付記)

太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ関スル四国条約

亜米利加合衆国、英帝国、仏蘭西国及日本国ハ一般ノ平和ヲ確保シ且太平洋方面ニ於ケル其ノ島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ関スル其ノ權利ヲ維持スルノ目的ヲ以テ

之カ為条約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク其ノ全権委員ヲ任命セリ

亜米利加合衆国大統領

合衆国人民「チャールス、エヴァンス、ヒューズ」

同 「ヘンリー、カボット、ロッジ」

同 「オスカー、ダブリュー、アンダウッド」

同 「エリヒュー、ルート」

大不列顛愛蘭連合王国及大不列顛海外領土皇帝印度皇帝陛下

亜米利加合衆国駐劄特命全権大使「ジュール、ジー、ジュラン」

日本国皇帝陛下

海軍大臣男爵加藤友三郎

亜米利加合衆国駐劄特命全権大使男爵幣原喜重郎

公爵徳川家達

外務次官埴原正直

右各委員ハ互ニ其ノ全権委任状ヲ示シ之カ良好妥当ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一条

締約国ハ互ニ太平洋方面ニ於ケル其ノ島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ関スル其ノ權利ヲ尊重スヘキコトヲ約ス  
締約国ノ何レカノ間ニ太平洋問題ニ起因シ且前記ノ權利ニ関スル争議ヲ生シ外交手段ニ依リテ満足ナル解決ヲ得ルコト能ハス且其ノ間ニ幸ニ現存スル円満ナル協調ニ影響ヲ及ホスノ虞アル場合ニ於テハ右締約国ハ共同會議ノ為他ノ締約国ヲ招請シ当該事件全部ヲ考量調整ノ目的ヲ以テ其ノ議ニ付スヘシ

第二条

仏蘭西共和国大統領  
前内閣議長下院議員「ルネ、ヴィヴィアニ」  
殖民大臣下院議員「アルベール、サロー」

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

前記ノ權利カ別国ノ侵略の行為ニ依リ脅威セラルルニ於テハ締約国ハ右特殊事態ノ急ニ応スル為共同ニ又ハ各別ニ執ルヘキ最有効ナル措置ニ関シ了解ヲ遂ケムカ為充分ニ且隔意ナク互ニ交渉スヘシ

### 第三条

本条約ハ実施ノ時ヨリ十年間効力ヲ有シ且右期間満了後ハ十二月前ノ予告ヲ以テ之ヲ終了セシムル各締約国ノ權利ノ留保ノ下ニ引続キ其ノ効力ヲ有ス

### 第四条

本条約ハ締約国ノ憲法上ノ手續ニ從ヒ成ルヘク速ニ批准セラルヘク且華盛頓ニ於テ行ハルヘキ批准書寄託ノ時ヨリ実施セラルヘシ千九百十一年七月十三日倫敦ニ於テ締結セラレタル大不列顛国及日本国間ノ協約ハ之ト同時ニ終了スルモノトス合衆国政府ハ批准書寄託ノ調書ノ認証謄本ヲ各署名国ニ送付スヘシ

本条約ハ仏蘭西語及英吉利語ヲ以テ本文トシ合衆国政府ノ記録ニ寄託保存セラルヘク其ノ認証謄本ハ同政府之ヲ各署名国ニ送付スヘシ

右証拠トシテ前記各全權委員ハ本条約ニ署名ス

### 眞原正直

(印)

The United States of America, the British Empire, France and Japan,

With a view to the preservation of the general peace and the maintenance of their rights in relation to their insular possessions and insular dominions in the region of the Pacific Ocean,

Have determined to conclude a Treaty to this effect and have appointed as their Plenipotentiaries:

The President of the United States of America:

Charles Evans Hughes,

Henry Cabot Lodge,

Oscar W. Underwood and

Elihu Root, citizens of the United States;

His Majesty the King of the United Kingdom of Great Britain and Ireland and of the British Dominions beyond the Seas, Emperor of India:

The Right Honourable Arthur James Balfour,

O.M., M.P., Lord President of His Privy Council;

千九百二十一年十二月十三日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス

チャールス、エヴァンス、ヒューズ (印)

ヘンリー、カボット、ロッジ (印)

オスカー、ダブリュー、アンダウッド (印)

エリヒュー、ルート (印)

アーサー、ジェームス、バルフォア (印)

リー、オヴ、フェアラム (印)

エー、シー、ゲデス (印)

アール、エル、ボーデン (印)

ジョー、エフ、ピアス (印)

ジョン、ダブリュー、サルモンド (印)

アーサー、ジェームス、バルフォア (印)

ヴィー、エス、スリニヴァサ、サストリ (印)

ルネ、ヴィヴィアニ (印)

アー、サロー (印)

ジュスラン (印)

加藤友三郎 (印)

幣原喜重郎 (印)

徳川家達 (印)

The Right Honourable Baron Lee of Fareham,  
G. B. E., K. C. B., First Lord of His Admiralty;  
The Right Honourable Sir Auckland Campbell  
Geddes, K. C. B., His Ambassador Extraord-  
inary and Plenipotentiary to the United States  
of America;

And

for the Dominion of Canada:

The Right Honourable Robert Laird Borden,

G. C. M. G., K. C.,

for the Commonwealth of Australia:

The Honourable George Foster Pearce, Minister

of Defence;

for the Dominion of New Zealand:

Sir John William Salmond, K. C., Judge of

the Supreme Court of New Zealand;

for the Union of South Africa:

The Right Honourable Arthur James Balfour,

O. M., M. P.;

for India :

The Right Honourable Valingman Sankararayan Srinivasa Sastri, Member of the Indian Council of State;

The President of the French Republic:

Mr. René Viviani, Deputy, Former President of the Council of Ministers;

Mr. Albert Sarraut, Deputy, Minister of the Colonies;

Mr. Jules J. Jusserand, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary to the United States of America, Grand Cross of the National Order of the Legion of Honour;

His Majesty the Emperor of Japan :

Baron Tomosaburo Kato, Minister for the Navy, Junii, a member of the First Class of the Imperial Order of the Grand Cordon of the Rising Sun with the Paulownia Flower:

Baron Kijuro Shidehara, His Ambassador Extra-

likely to affect the harmonious accord now happily subsisting between them, they shall invite the other High Contracting Parties to a joint conference to which the whole subject will be referred for consideration and adjustment.

## II.

If the said rights are threatened by the aggressive action of any other Power, the High Contracting Parties shall communicate with one another fully and frankly in order to arrive at an understanding as to the most efficient measures to be taken, jointly or separately, to meet the exigencies of the particular situation.

## III.

This Treaty shall remain in force for ten years from the time it shall take effect, and after the expiration of said period it shall continue to be in force subject to the right of any of the High Contracting Parties to terminate it upon twelve months'

ordinary and Plenipotentiary at Washington, Jushii, a member of the First Class of the Imperial Order of the Rising Sun; Prince Iyesato Tokugawa Vice-Minister, Junii, a member of the First Class of the Imperial Order of the Rising Sun; Mr Masanao Hanihara, Vice-Minister for Foreign Affairs, Jushii, a member of the Second Class of the Imperial Order of the Rising Sun; Who, having communicated their Full Powers, found in good and due form, have agreed as follows:

## I.

The High Contracting Parties agree as between themselves to respect their rights in relation to their insular possessions and insular dominions in the region of the Pacific Ocean.

If there should develop between any of the High Contracting Parties a controversy arising out of any Pacific question and involving their said rights which is not satisfactorily settled by diplomacy and is

notice.

## IV.

This Treaty shall be ratified as soon as possible in accordance with the constitutional methods of the High Contracting Parties and shall take effect on the deposit of ratifications, which shall take place at Washington, and thereupon the agreement between Great Britain and Japan, which was concluded at London on July 13, 1911, shall terminate. The Government of the United States will transmit to all the Signatory Powers a certified copy of the *procès-verbal* of the deposit of ratifications.

The present Treaty, in French and in English, shall remain deposited in the Archives of the Government of the United States, and duly certified copies thereof will be transmitted by that Government to each of the Signatory Powers.

In faith whereof the above named Plenipotentiaries have signed the present Treaty.

Done at the City of Washington, the thirteenth day of December, One Thousand Nine Hundred and Twenty-One.

|                        |         |
|------------------------|---------|
| CHARLES EVANS HUGHES   | [L. s.] |
| HENRY CABOT LODGE      | [L. s.] |
| OSCAR W. UNDERWOOD     | [L. s.] |
| ELIHU ROOT             | [L. s.] |
| ARTHUR JAMES BALFOUR   | [L. s.] |
| LEE OF FAREHAM         | [L. s.] |
| A. C. GEDDES           | [L. s.] |
| R. L. BORDEN           | [L. s.] |
| G. F. PEARCE           | [L. s.] |
| JOHN W. SALMOND        | [L. s.] |
| ARTHUR JAMES BALFOUR   | [L. s.] |
| V. S. SRINIVASA SASTRI | [L. s.] |
| RENÉ VIVIANI           | [L. s.] |
| A. SARRAUT             | [L. s.] |
| JUSERAND               | [L. s.] |
| T. KATO                | [L. s.] |

[L. s.] K. SHIDEHARA.  
[L. s.] TOKUGAWA IYESATO  
[L. s.] M. HANIHARA

本日亜米利加合衆国、英帝国、仏蘭西国及日本国間ノ条約ニ署名スルニ当リ各署名国ノ了解及意嚮ハ左ノ如クナルコトヲ茲ニ声明ス

一 本条約ハ太平洋ニ於ケル委任統治諸島ニ之ヲ適用ス但シ本条約ノ締結ハ之ヲ以テ亜米利加合衆国カ右委任統治ニ対シ同意ヲ与ヘタルモノト認ムルコトヲ得ス且亜米利加合衆国ト当該受任国トノ間ニ右委任統治諸島ニ関スル協定ノ締結ヲ妨クルモノニ非ス

二 第一条第二項ニ掲クル爭議ハ国際法ノ原則ニ依リ専ラ当該国ノ国内法權ニ属スル問題ヲ含ムモノト解スヘカラス

千九百二十一年十二月十三日「ヴァンストリクト、オヴ、コロシビア」華盛頓  
チャールズ、エヴァンス、ビューズ  
ヘンリー、カボット、ロッジ  
オスカー、ダブリュ、アンダウッド

エリビュ、ルード  
アーサー、ジェームス、バルフォア  
リー、オヴ、フェアラム  
エー、シー、ゲデス  
アール、エル、ボーラン  
ジ、エフ、ビマス  
ジョン、ダブリュ、サルモン  
アーサー、ジェームス、バルフォア  
ヴィー、エス、スリニヴァサ、サストリ  
ルネ、ヴィヴィアニ  
アー、サロー  
ジェスラン

加藤友三郎  
幣原喜重郎  
徳川家達  
埴原正直

In signing the Treaty this day between The United States of America, The British Empire, France and Japan, it is declared to be the understanding

and intent of the Signatory Powers:

1. That the Treaty shall apply to the Mandated Islands in the Pacific Ocean; provided, however, that the making of the Treaty shall not be deemed to be an assent on the part of The United States of America to the mandates and shall not preclude agreements between The United States of America and the Mandatory Powers respectively in relation to the mandated islands.

2. That the controversies to which the second paragraph of Article I refers shall not be taken to embrace questions which according to principles of international law lie exclusively within the domestic jurisdiction of the respective Powers.

Washington, D. C., December 13, 1921.

CHARLES EVANS HUGHES  
HENRY CABOT LODGE  
OSCAR W. UNDERWOOD  
ELIHU ROOT

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ARTHUR JAMES BALFOUR  
LEE OF FAREHAM  
A. C. GEDDES  
R. L. BORDEN  
G. F. PEARCE  
JOHN W. SALMOND  
ARTHUR JAMES BALFOUR  
V. S. SRINIVASA SASTRI  
RENÉ VIVIANI  
A. SARRAUT  
JUSSERAND  
T. KATO  
K. SHIDEHARA  
TOKUGAWA IYESATO  
M. HANIHARA

33

10年12月17日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン会議全権宛(電報)

時事新報電報ノ出所ニツキ取調方依頼ノ件

会議第一九七号

(欄外註記)

1' insular possessions 及 insular dominions ハ正面ノ  
文理解釈上ヨリ謂ハバ当然屬地又ハ領地タル島嶼ヲ指称  
シ從屬關係ノ主体タル本土ヲ包含スルモノニ非サルハ敢  
テ疑ヲ容ルルノ余地ナキ処ナリ且又本件ノ場合本土ヲ包  
含スルモノトセバ日本本土ハ其中ニ入ルニ拘ラズ朝鮮ハ  
入ラサルコトトナリ協約適用上奇妙ナル現象ヲ呈スルコ  
トトナルヘシ

二、實見ニ拠レバ日本本土ヲ除外セムトスルハ一種ノ偏執  
ナル感情論ニ外ナラザルベシトノコトナル処成程体面ニ  
関連シテ感情上ヨリ面白カラズトスル点モ有之ベキモ右  
感情問題ト離レ實際問題トシテモ面白カラザル点アリ例  
ヘバ日本本土ガ第三国ヨリ侵迫セラルル場合ニ於テ自衛  
権行使ヲ要スル緊急ノ場合ハ仮ニ之ヲ除クトスルモ其他  
ノ場合ハ協約第二条ニ基キ日本ヨリ英米仏ニ協議スベキ  
モ英米仏ハ同様ノ場合ニ日本其他ノ關係国ニ何等協議ヲ  
要セスシテ直ニ第三国ニ對抗スルヲ得ベシ日本ノミ斯克  
ノ如キ職務ヲ負担スルハ不均衡ノ責ヲ免レズ

三、日英同盟モ日本本土ヲ其適用範圍内ニ包含セシメタル  
ガ故今回ノ四国協約モ之ト同様ナリト別段差支ナカル

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

六一六

貴電會議第一〇九号冒頭御取調ノ結果ニ付テハ未タ電報ニ  
接セサル処時事新報特派員ハ十日貴地發電報ヲ以テ四国協  
商成立ノ經過ヲ詳報シ其ノ内「日本政府ハ日本ノ自由且合  
法的發展ヲ擁護スヘキ商業的一条項ヲ挿入シタリ」云々ト  
記述シ居レリ此ノ種交渉ノ内容カ外間ニ漏ルルコトハ甚タ  
面白カラサルニ付其ノ出所ニ付取調ヘ置カルルコト然ルヘ  
シト思考ス尚同特派員ハ右電報中ニ日本政府ハ締約国ノ連  
合協議ヲ行フニ当リ若シ必要ヲ認ムルトキハ第三国ノ参加  
ヲ求ムルコトトスヘシトノ条項挿入方ヲモ訓令シ為ニ幣原  
「バルフォア」覚書ハ著シク薄弱トナリタル為日本全権ハ  
再之ヲ修正スルノ必要ヲ感シ三全権協議ノ結果条約ヲシテ  
其ノ明文上一層有効ナルモノタラシムル為該条項ヲ削除ス  
ルニ決定セリトノ趣旨ヲモ記述シ居レリ

34

10年12月17日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン会議全権宛(電報)

四国条約適用地域ヨリ日本本土ノ除外ヲ主張

スル事由ニツキ意見回電方訓令ノ件

會議第一九八号 至急極秘

貴電一七九号及一八九号ニ関シ

ベシトノ議論ハ当方ノ同意シ兼ヌル処ナリ日英同盟ハ成  
程其適用範圍内ニ日本本土ヲ包含スルモ専ラ第三国ヨリ  
侵迫又ハ攻撃ヲ受ケタル場合ノミニ關スルモノニシテ今  
回ノ四国協約第一条規定ノ如ク締約国間限リノ爭議ノ場  
合ニモ日本本土ヲ包含スルモノニ非ズ締約国間限ノ爭議  
ノ場合ニ於テ本土ニ發生シタル該爭議ヲ協約国全般ノ共  
同会商ニ付スルノ職務ヲ日本ノミ負担スルカ如キハ我國  
民ノ感情之ヲ是認スルヲ得ザルベク殊ニ同盟ハ単ニ日英  
兩國間ノ關係ニ止リ而モ第三国ヨリ侵迫又ハ攻撃ヲ受ケ  
タル場合ニ日英兩國相互武力ヲ以テ支援スルノ職務ヲ負  
ヒ最モ密接ナル關係ヲ結フモノニシテ從テ日本本土ヲ其  
共同防禦地域ニ入ルルモ我方ノ立場ヨリ見レバ寧ロ利益  
ヲ得タルモノニシテ別段不利益ヲ伴フモノニ非ズ然ルニ  
四国協約ニ拠リ日本ト他ノ締約国トノ間ニ爭議發生スル  
場合ニ於テ日本ノミ其爭議發生地タル本土ヲ共同会商ノ  
適用地域ニ入ルルトセバ事件ニ依リテハ不利益ヲ蒙ルノ  
結果トナルコトモアルヘシ今回ノ四国協商ハ帝國政府  
ニ於テモ主義上固ヨリ歡迎スル処ニシテ折角閣下等ノ御  
尽力ニ依リ成立ニ至リタルハ欣幸トスル処ナルモ如何セ

六一七

ン以上三項ノ事由ハ事重大ニシテ何分此儘差置キ難ク旁之ガ善後策ヲ考慮シタル処元来帝国政府ハ濠州新西蘭両国ガ日英同盟ニ好感ヲ表シ居タルノ事実ニ顧ミ今回ノ協約適用範圍ニ右両国ヲ加ヘムトシタル迄ニテ是非両国ヲ加フルノ必要アルニ非ズ從ツテ右両国ヲ適用範圍ニ加フル以上日本本土ヲモ加フベシトノ議ヲ英米側ニ固執スルニ於テハ貴電第一七九号御来示ノ通り「ヒューズ」ガ日本本土ノ除外ニ反対セザル旨ヲ言明シタル行掛ニ顧ミ濠州新西蘭ヲ協約ノ適用範圍ニ加ヘザルコトトシテ日本本土モ之ヲ適用範圍ヨリ除外スルコトト致度就テハ以上ノ趣意篤ト御含ノ上本国政府ノ訓令ニ接シタル旨ヲ以テ至急關係国委員ニ可然御交渉相成様致度尤モ既ニ調印済ノ今日到底右ノ如キ開談ヲ為スコト不可能ナル情勢アル場合ニハ事態ノ重大ナルニ顧ミ何等カ善後措置ヲ講スルノ必要上至急貴見承知致度ニ付御考量ノ上何分ノ儀返電アリタシ

## (欄外註記)

調印済ノ今日斯ノ如キ提議ヲ為スコトハ政策上極メテ不利ナルモノアリ此際ハ一応全權ニ當時ノ事情ヲ確メ本土ヲ含ムヤ否ヤノ問題カ會議ニ於テ確定セルモノナリヤヲ實シタル上徐

ヲ惹起スルコトナキヲ保スヘカラス然ルニ貴電會議第一七九号ニ拠レハ「ヒューズ」ハ日本本土ヲ除外スルモ差支ナシト言明シタルコトニテモアリ又仏国側ニテモ此点ニ強ク反対スヘシトモ思ハレス本件ノ解決ハ結局「バルフォア」ノ態度如何ニ繫ル次第ナル処會議ノ庶幾スル所ハ主トシテ濠州及新西蘭ヲ包含セシムルコトニアルヘク而カモ之ニ伴ヒ日本本土ヲ加フルコトハ帝国政府トシテ到底承諾シ難キ所ナルカ故我方ニ於テハ濠州新西蘭ヲ協約ノ適用ヨリ除外スルト否トハ英国ノ意嚮ニ任セ是非トモ日本本土ヲ除外スルコトト致度シ申ス迄モナク今回折角四国協商ノ成立ヲ見乍ラ我國民ノ感情勃発ヨリシテ其価値ヲ失ハシムルカ如キ結果ヲ招クコトアリテハ甚タ面白カラサルカ故ニ今ニ於テ之カ善後策ヲ講シ置クコト極メテ肝要ナリト思考シ往電會議第一九八号ノ通訓令ニ及ヒタル次第ナルニ付其辺篤ト御含ミノ上何分ノ御尽力アリタク事態重大ナルニ顧ミ重ネテ申進ス

36 10年12月18日(着)

在英國林大使ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

日英同盟終了ニ際シテノ英國ヘノ措置方ニ関

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ニ対策ヲ講スルコト可然

35 10年12月17日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)

日本本土ヲ協約ノ適用区域ニ包含セシムルコ

トハ國民感情上容認シ難キ旨申達ノ件

會議第一九九号

往電會議第一九八号ニ関シ

本件ニ就テハ理屈ハ如何様ニモ立チ得ヘク又實際上ニ於テモ帝国ニ取り果シテ幾何ノ不利益ヲ伴フヘキヤハ今遽ニ予断シ難キモノアリト雖モ他ノ締約国ハ孰レモ其本土ヲ本協約ノ適用区域ニ包含セシムルコトナキニ拘ラス帝国独リ其本土ヲ入レ又濠州新西蘭ハ殆ト無防禦ノ状態ニアルカ故ニ之ヲ入ルルヲ可トスヘキモ日本本土ノ如ク充分ノ防禦アルモノヲ同一ニ律セントスルハ甚タ面白カラス是等ノ点ヨリ見テ日本本土ヲ入ルルコトハ我國民ノ感情上到底容認シ難カルヘク殊ニ本件ニ関シテハ他國全權ニ於テ日本本土ヲ包含セルコトニ了解シ居ル以上或ハ米國上院等ニ於テ其意味ノ説明現ハルルコトアルヤモ計リ難ク此事一度日本ニ伝ハルトキハ帝國議會ノ開会モ差迫レル今日為メニ意外ノ紛糾

## シ指示ノ件

第五〇七号

大臣発本使宛第六〇二号

貴電第一二四〇号ニ関シ折角御来示ノ次第アルモ十二月十日四国協商公表ノ際「バルフォア」ハ日英同盟ニ対スル其私見ヲ披瀝シ徳川全權ヨリ之ニ応答シ之ニテ一応同盟終了ニ関スル日英両國ノ挨拶ヲ了シタルモノト思考セラレ彼ノ本大臣発全權宛會議往電第一三三五号ノ通帝國政府ヨリ「バルフォア」ニ謝意ヲ表スルコトト相成リ居レル次第ニモ有之帝國政府トシテハ以上ノ措置ニテ大体御来示ノ趣旨ヲ達セルモノト思考ス尤英國政府ニ於テ進テ貴電第一二四〇号御来示ノ如キ声明ヲ為ス意向アルニ於テハ当方ニ於テモ素ヨリ何等異存ナキノミナラス喜ンテ贊同ノ上適當ナル応答ノ声明ヲ為シタキ意向ナルモ日英同盟ニ対スル英國民一般ノ態度ハ御承知ノ通ニテ殊ニ日英同盟ニ代リ新事態ニ最モ適応セリト認メラルル太平洋協商成立シ四国協力シテ其目的ノ達成ニ努メントスルニ当リ此際日本側ヨリ進テ御来示ノ如キ措置ヲ執ルハ如何ニモ未練カマシク且依然日英間ノ武力同盟ニ執着シ居レルカ如キ感ヲモ与フヘク旁々却テ面

六一九

白カラサルニ付勘クモ差向ノ処之ヲ見合ハスコト致シタル

37 10年12月18日(着) ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国条約ニ対スル米國上院ノ動向報告ノ件

會議第二二九号  
往電會議第一九七号ニ関シ

其後民主党員 Hitchcockハ四国条約ニ賛意ヲ表明シ次テ十二日上院ニ於テ本条約ニ関スル討議開始セラレ Borah先ツ演説ヲ試ミ海軍縮小ニ対スル國務長官ノ英断ヲ賞揚シタル上本条約ノ論評ニ入り同条約カ世界ノ四大陸海軍國ヲ加盟國トスル事實ト締約國ノ權利侵害ニ対スル最有力ナル救済方法カ從來武力の援助ニアリシ歴史の事實トヲ指摘シテ本条約ハ日英同盟ト同シク兵力の援助ヲ主眼トスルモノナリト論シ進シテ本条約第二条ニ基キ四國間ニ行ハルヘキ協議ニ際シ米國代表者ノ意思表示カ議會ノ活動ヲ德義的ニ拘束スル連盟規約第十条ニ於ケルト異ルナシト述ヘ同氏ノ本条約ニ対シ執ルヘキ最終ノ態度ハ結局會議ニ於ケル軍備問題及支那問題ノ反動如何ニ依リ決定セラルヘシト声明シ尚軍

通過スヘキヲ予想シ居レリ十二日ノNew York Timesハ上院外交委員十六名中十一名ハ批准ニ賛成スヘシト伝ヘ又十三日ノNew York Heraldハ上院議員中不在ノ者十六名(其多數ハ贊票ヲ投スヘシ)ヲ除キ批准賛成共和黨四十一民主黨十四合計五十五批准反対共和黨 Borah, Lafollette, 民主黨 Reed, Watson, Robinson 合計五名態度不明共和黨十名民主黨十名合計二十名ナルトノ予想ヲ試ミ居レリ在歐洲各大使ヘ転電セリ

38 10年12月18日(着) ワシントン會議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国協約ニ南ア連邦署名ノ件

會議第二三四号  
貴電會議第一八二号ニ関シ  
(十二月十五日ワシントン發)

今回ノ會議ニハ南阿連邦代表ハ列席セサル為メ協約原案ニハ同連邦ヲ列挙セサリシ次第ナルカ本協約ノ当事者ハ英帝國ニシテ印度代表者モ之ニ署名スル以上南阿連邦モ署名スルコト当然ナリトノ理由ニテ間際ニ至リ「バルフォア」ヨリ本國政府ノ訓令ヲ得タル上南阿連邦代表者トシテ署名シタル次第ナリ

備問題ニ言及シ主力艦ノ減少ハ単ニ經費ノ節約ヲ意味スルニ過キス主力艦ハ時代遅レトナリ將來最モ盛ニ使用セラルヘキモノハ潜水艇航空機及毒瓦斯ニアリ若シ之ニ対シ制限加ヘラレサルトキハ緊縮ノ目的ヲ達シタリト云フヲ得スト説明シ

潜水艇制限ニ関スル英國ノ主張ニ賛意ヲ表スルト同時ニ之ニ対スル仏國ノ態度ヲ批難シ仏國ノ主張ハ結局本条約締結國ヲ信賴セサルカ為ナリト述フ又支那問題ニ関シテハ支那カ本条約ニ関与スル価値無シト認メタル次第ヲ指摘シ本条約ハ締結國ノ私利ヲ目的トスル支那開拓ニ利用セラルコトアルヘシト警告セリ右討議ニ際シ民主黨ノ Reed, Robinson 等ハ Borah ニ加担スルノ形勢ヲ示メシ共和黨ノ Poindexter及ケ Kellogハ本条約ヲ擁護ヤリ又議員 Lafolletteハ十三日公表書ヲ以テ本条約ハ戦争ヲ防止スルヨリモ寧ロ之ヲ挑発スルモノナルコト及ヒ第二条ハ連盟規約第十条ト同一ナルコトヲ指摘シ本条約ヲ批准スルコトハ米國カ將來太平洋ノ爭議ニ参加スルヲ予メ承諾スルニ外ナラスト述ヘ盛ニ本条約ヲ罵倒セリ將タ又新聞紙ハ「ハースト」系ヲ除ク外其後引続キ本条約歡迎ノ意ヲ表シ概シテ容易ニ上院ヲ

尚調印ヲ經タル条約文ハ原案ト一二字句ノ差異アルニ付別ニ電報ス

39 10年12月18日(着) ワシントン會議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

十二月十五日ニューヨーク・タイムス掲載ノ

ワシントン特派員通信ニ関シ報告ノ件

會議第二三六号

太平洋条約適用区域ニ関シ今日迄新聞紙上何等論議ヲ見ザリシガ十二月十五日紐育「タイムス」第一面ニ右ニ関スル華盛頓特派員ノ通信掲載セラレ一般ノ注意ヲ喚起シタル模様アルニ付該通信大要左ニ電報ス

英米仏三国ハ新条約ニ依リ日本ノ領土保全ヲ保証セリ新条約ニシテ批准セラレンカ米國ハ嘗テ仏國ニ与フルコトヲ拒絶シタル領土保全ヲ日本ニ与フルコトナルヘシ新条約第一条ノ insular possessions and insular dominions ナル字句ハ日本本土其島嶼ヲ包含ス而シテ此解釈ハ新条約締結ニ参与シタル各國外交官及國務長官以下米國各全權ノ認ムルトコロナリ日本ハ英米仏ノ領土保全ヲ保証スルコトナク独リ三国ヲシテ自國ノ領土保全ヲ保証セシメタルハ將ニ日

英同盟廃棄ノ対償ヲ得タルモノナリ十二日上院ニ於テ新条約討議セラレタル際議員中右ノ如キ解釈ヲナシタルモノ一人モナク「ボラー」十四日ニ至リ漸ク自己ノ解釈ガ前記解釈ト異ナルヲ自白セリ太平洋条約ヲ巴里ニ於テ調印セラレタル英米仏三国条約ニ比較スルニ後者ハ単ニ仏国ヲ独逸ノ攻撃ニ対シ保護スル趣旨ナリシニ反シ前者ハ日本ヲ何レノ国ニ依ル攻撃ニ対シテモ保護スル点ニ於テ相違ス而シテ日本領土保全ノ保証ハ単ニ理論ニ止マラズ北部樺太ニ露軍ガ上陸スルガ如キ場合等ニ於テ適用ヲ見ルハ確タルベシ

40 10年12月18日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン会議全権宛(電報)

東京日日特電ノ四国条約適用ニ関スル記事ニ  
ツキ問合ノ件

付記 十二月十五日発東京日日新聞特電

会議第二〇〇号 至急

往電会議第一九八号ニ関シ  
(三四文書)

十五日貴地発東京日日特電ハ「四国協約ハ日本本土ニモ適用セラルルモノナル旨米国全権側ノ最確実ナル筋ヨリ発表サレ一大驚愕ヲ惹起シ紐育「タイムス」特派員ハ右協約ニ

攻撃を受けた場合他の三国が日本を保護するとの誓約を日本に与へて居る而して他の三国の領土に關して日本が斯の如き誓約を与へるやうな条項はない之は仏国が米国より得んと努めて得られなかったと同一性質の保障を日本が得たことを意味する

と言つて居る而して上院議員連は此文句がまさか日本本土を含むものと考へなかつたさうでボラー氏もさうは解釈しなかつたと言つて居る併し上記の解釈は十四日最も權威ある筋から出たものである尤も日本本土保護の必要ある場合米国の採る態度は自己の判断に隨ひ憲法の規定する方法手段に一致する事と解して居るのである何れにしても日本本土を含むものとして日本が若し本来太平洋に属する問題以外の原因で露国から戦争を仕掛けられたらどうする等と言ふ所論が行はれて居る斯んな次第であるから上院に於ける四国協商批准反対派は此一点に反対論を集めることと予期されて居る

(華盛頓電報) (十五日発國際直電) 四国条約中の「島嶼たる屬地」なる言葉には日本国を形成している島嶼が含まれる訳であるから右条約は日本帝国に対して直接の關係を

依り他ノ三国ハ日本本土ノ保護ヲ誓約シ居ルモ他ノ三国ノ本土ニ関シ日本ハ斯ノ如キ誓約ヲ与フルコトナシ之レ仏國ノ米国ヨリ得ムトシテ得ル能ハサリシ保障ト同一性質ノ保障ヲ日本ノ獲得セルコトヲ意味スト論シ居レリ又「ボラー」其ノ他上院議員ハ一般ニ該協約ノ適用範圍内ニハ日本本土ヲ含マサルモノト解シ居リタルヲ以テ上院ニ於ケル四国協約反対派ハ其ノ反対論ヲ此ノ一点ニ集中スヘシト予期セラ「ル」云々ト記載シ居ル処右ハ果シテ事実ナリヤ又此ノ種見解ハ相当有力ナル見解ナリヤ御電報アリタク尚今後此種ノ情勢ニ御注意ノ上隨時電報アリタシ

(付記)

十二月十五日発東京日日新聞特電

華盛頓特電(十五日發) 米国全権側の最も確実なる筋から四国協商中の「太平洋方面に於ける其島嶼たる屬地領土」なる文句は日本の遠隔島嶼と共に日本本土にも適用されるものであると発表されて大驚愕を起した米国では一般に四強国の遠隔屬領島嶼の意味に解して居たのである紐育タイムス華盛頓特派員は

協商は明かに日本が其帝國本土を形成する島嶼に対して

持つてゐるとの報道に対して加藤男爵は批評を加へる事を拒絶した男爵は曰く予は四国協商に対して何等の解釈を加へる事を欲しない若し解釈を加へれば直ぐに面倒な事が起るであろうと

41 10年12月20日(着)

ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本本土問題ニ関スル米國務長官ノ新聞記者

ヘノ談話報告ノ件

會議第二四九号

十二月十五日新聞記者ノ質問ニ対シ

(一)國務長官ハ日本本土ガ第二条ノ適用区域内ニ在ルヲ承認スルト同時ニ嘗テ上院ガ批准ヲ拒絶シタル英米仏三国同盟条約ト新条約トヲ類似視スルハ不都合ナリト述べ前者ハ米国ニ兵力的援助ノ義務ヲ負ハシムルニ反シ後者ハ何等援助方法ヲ指定セズ兩条約ハ之ニ規定スル援助ノ程度等シカラザル点ニ於テ重大ノ相違アリト力説シ

(二)英國全権ハ新条約ガ締結國ノ領土保全ヲ保証スルモノニ非ズ第二条ノ解釈ニ関シ保証ナル文字ノ使用セラルルハ遺憾ナリ新条約ハ若シ第二条ニ規定セル如キ事件發生シタル

時ハ四国ガ相互ニ其ノ事件ニ付談合センコトヲ約シタルニ過キズシテ右談合ノ結果孰ルベキ方法ニ関シテハ各国何等予メ保証ヲ与ヘタルコトナク此ノ点ニ関シテハ既ニ締約國間ニ明白ナル了解アリト説明セリ。(加藤全權ハ新聞記者ノ質問ニ対シ同条約ノ解釈ハ各国自由ニ之ヲ下スベシトアツサリト答ヘ置キタリ)。

前記談話ハ皆十六日ノ新聞ニ掲ゲラレタル処中ニ紐育「タイムス」ハ新条約ガ日本ノ領土保全ヲ約セルヤ否ヤハ一同条約第二条ノ解釈如何ニ在リト前置シ若シ同条ヲ

(一)日本ガ困難ナル事件ニ遭遇シ自然一國ノミヲ以テ之ヲ解釈シ得ザル場合他ノ三國ガ日本ヲ援助スベキモノト解スルトキハ日本ニ保障ヲ与ヘタルヤ明カナリ。又(三)三國カ事件ヲ審議シ日本ニ援助ヲ与フル価値アリト認メタル場合ニ限り之ヲ援助スルモノト解釈セハ保障ノ變形トナルヘク

(三)三國カ事ニ談合シ事件ノ輕重如何ニ拘ラス其陸海軍力ヲ使用セサルモノト解スル時ハ勿論保障ヲ与ヘタリト云フヲ得スト論シ「ニューヨーク・トリビューン」ハ新条約カ米國ニ兵力的援助ノ義務ヲ負ハシメタルニアラサルハ明ナルモ三國カ何故第二条ノ適用区域ヲ日本ニ限り其本土ニ迄延

## 第五一〇号

## 大臣宛第一二七一号

四國協約成立ニ対スル一般世人ノ感想ハ曩ニ報告シタル新聞論調ニ依リ大体察知シ得ヘキモ其後朝野ノ諸方面ノ有力者カ本官ニ親シク語レル処ヲ綜合スルニ其口吻ニ依リ之ヲ推測スルニ概シテ這次日英同盟ニ代フルニ新協約ヲ以テシ得タルニ大ニ安堵ノ念ヲ抱ケルモノノ如シ日英同盟ニ対シテハ兎角ノ非難攻撃無キニ非リシモ有識先覺者ハ過去ノ効果ニ顧ミ將又將來何等有事ノ日ニ於ケル運用ニ想到シ之ヲ弊履ヲ捨ツルカ如クニ棄ツルヲ好マス加フルニ日本ノ感情ヲモ慮カリ猥リニ其廃棄ヲ口ニスルヲ躊躇シ而モ一面米國ニ於ケル日英同盟反對説ノ尋常ナラサル在リ茲ニ英國ハ日米何レカヲ取ラサルヘカラサル苦境ニ在リタリ米國ノ同盟ニ対スル惡声ハ英國人ノ口ヨリシテ屢々本官等ノ耳ニ入リタル処ナルモ右ハ尚日本人ニ対スル幾分ノ遠慮ヨリシテ露骨ニ伝ヘラレタルモノニハ非ル可ク米國人カ英國人ニ対シテ致シタル同盟攻撃ハ極メテ辛辣激烈ナルモノナリシヤニ觀セラル右ハ蓋シ英國当局並ニ有力者ニ於テ英米ノ国交ヲ顧念スル事愈々深クシテ愈々此種深刻ナル非難ニ恐怖ヲ感

## 三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

長セシメタルヤハ明ニシ難シ察スルトコロ日本ハ海軍縮小案ニ同意スルニ先立チ米國カ將來日本ノ島嶼及本土ニ加フルコトアルヘキ攻撃ニ対シ仮令兵力的ナラストモ道德的ノ保障ヲ取付ケムコトヲ主張シ英國モ亦日本ノ同意ナクンハ日英同盟ヲ廢棄シ難キ事情及日本ノ右同盟廢棄ニ対スル同意ハ第二条ニ規定セル如キ特別ノ取扱ヲ受クルヤ如何ニ係レル事情ヲ述ヘテ日本ノ主張ヲ助ケ其結果同条ノ挿入ヲ見タルモノノ如シトノ記事ヲ掲載セリ尚上院議員「ボラー」ハ「ニューヨーク・アメリカン」ノ記者ニ対シ新条約第二条ニ「ニュージランド」及濠州ヲ包含セシメタルハ諒解シ難ク且条約起草者カ第二条ヲ諒解シテ日本本土ヲ包含セリト云フニ至リテハ上院カ批准ヲ拒絕スルコト明白ナリト語リ更ニWatsonハ白色人種ノ三國カ褐色人種ノ國ヲ援助セムトスルハ滑稽ナリト述ヘ其他(不明)及Reed等モ亦第二条ヲ非難セリトノ記事十六日ノ同紙ニ掲載セラレタリ在歐各大使ヘ転電セリ

42 10年12月22日(着)

在英國林大使ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

## 四国条約ニ対スル英國有力者ノ感想報告ノ件

スル事多ク四國協約カ幸ヒ之ヲ一掃シ得タルカ為特ニ喜悅安易セルニ徴シ之ヲ推察シ得ヘシ次ニ日本ノ華府會議乃至日英同盟ノ自然消滅ニ対スル態度モ又少カラス不安ノ憶測ヲ英國人ニ抱カシメタルモノノ如ク會々其杞慮ニ反シ我政策ノ互讓穩和ナル在リ平和維持ニ忠ニシテ列國トノ協調ヲ怠ラス新協約ノ提議ニ贊同シテ日英同盟ヲ之ニ吸収セシムルニ何等遲疑ノ情無カリシハ英國人ノ多トスル処ニシテ之ニモ又重荷ヲ下シタルノ感ヲ懷ケルモノト觀察セラル要之當國有力者カ私談其他ノ機會ニ本官ニ対シ四國協商成立ヲ祝スルハ尋常一片ノ辞令ノミト之ヲ聴取スヘキニ非ス其態度言辭衷心ノ満足ヲ表白スルモノト解セラレ四國協約ニ関スル我措置ハ日英從來ノ好誼ヲ維持シ且日本ニ対スル英國ノ好意ヲ贏チ得タルモノト言フヲ妨ケサル可シ

43 10年12月22日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)

## 四国条約ニ伊國加入方在本邦同國大使申出ノ件

會議第二二一号(極秘、至急)

十二月二十日在本邦伊國大使ハ本國政府ノ訓令ニ基ク旨ヲ以テ本大臣ヲ來訪シ今回成立シタル四國條約ニハ伊國ハ參

加シオラサル所同条約ハ一般平和ノ確保ヲモ目的トスルモノナルニ顧ミ又「ヴェルサイユ」条約ニ基キ主要連合國ノ一國タル伊國ノ位置ヨリスルモコレニ参加セン事ハ同國政府並國民ノ共ニ希望スル所ナルニ付之ニ対スル日本政府ノ意嚮ヲ承知シ度ク尚伊國政府ハ他ノ三國ニ対シ同様ノ申入ヲナシタルニ依リ在華府帝國全權ヘモ右伊國ノ希望ヲ伝知セシメラレ度旨申出タリ本大臣ハ之ニ対シ申出ノ趣旨ハヨク了解シタルモ只茲ニ一言シ度ハ今回ノ協商ヲ四國間ニ止メタル所以ハ是等諸國カ太平洋方面ニ島嶼ヲ有スル國ノ主ナルモノナルカ為ニシテ此上其範圍ヲ拡大スルトキハ南米諸國ヲモ加ヘサルヲ得サルニ至リ其結果自然協商ノ威力ヲ弱ムルコトナルヘク又日本トシテハ右四國ハ既存ノ日英同盟、日米協商及日仏協商ノ当事國タルノ事實ニモ重キヲ置キタル次第ナリ何レノ途本問題ニ付テハ他ノ三國ト篤ト協議ヲ要シ其上ニテ何分ノ回答ヲナスヘク伊國希望ノ次第ハ在華府帝國全權ニ早速電報シ置クベシト答ヘ置ケリ尚其際伊國大使ハ自分一個ノ感想ニテハ（此点ハ自分ノ所言トシテ引用セラレサル様致シ度ト断リ）伊國ハ必スシモ本協商ニ参加スルニ及ハサルヘシト思フモ本國政府ヨリ訓令ニ

ヲ發シテ四國條約ノ適用範圍中ニハ日本ノ主要島嶼ヲモ包含スルモノナリトスル米國全權ノ解釈ニハ反對セスト声明セリトテ前記電報ト矛盾ノ趣旨ヲ報シ居レリ大統領ノ意見ハ果シテ如何ナル趣旨ナリシヤ又大統領力意見ヲ發表スルニ至リタルハ如何ナル事情ニ依ルヤ電報アリタシ

45 10年12月22日（発）

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

日本本土ノ包含ハ主權ノ侵害ナリトノ國民新

聞説通報ノ件

會議第二二五号

(四四文書)

往電會議第二二四号ノ新聞電報ニ関連シ二十二日ノ國民新聞ハ「帝國ノ由々敷一大事空前絶後ノ大侮辱」ト題シ日本本土カ四國條約ノ適用区域内ニ含マルトノ米國側解釈事實ナリトセハ之レ日本カ紛議ノ發生シ易キ地域ト看做サレ英米仏ヨリハ対等以下ノ弱國ト目サレ將來紛議發生ノ場合ニハ帝國全土ヲ挙ケテ英米仏ノ裁断ニ委セサルヘカラサルコトトナリ帝國ノ極東ニ於ケル國際地位ヲ失ヒ且主權ノ侵害之ヨリ甚シキハナキ次第ナリ該條約ハ太平洋方面ニ於ケル其ノ島嶼タル屬地及領地トアリテ明ニ締約各國ニ於テ各自

三 太平洋ニ関スル四國條約ノ成立

接シタル儘茲ニ申出ツル次第ナリト述ヘタリ本件ニ就テハ何レ三國ニ於テモ容易ニ伊國ノ希望ニ応スル事ナカルヘシト思考スルモノ一応貴地ニ於ケル三國全權ト協議ヲ遂ケ其結果電報アリタシ

英仏伊ヘ電報アリタシ

44 10年12月22日（発）

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）四國條約適用区域ニ日本本土ヲ含ムヲ不可ト  
スルハーディング氏意見ニ關スル件

會議第二二四号

二十日貴地發國國際電報ニ依レハ大統領ハ四國協商ノ適用区域ニ関シ個人トシテノ意見ヲ發表シタルカ右ハ米國全權聲明ノ趣旨ト矛盾セルコトヲ報シ「ハ」氏ハ同條約ハ單ニ太平洋ニ於ケル屬領島嶼ニノミ適用スヘキモノニシテ日本ヲ構成スル主要島嶼ハ屬領ト云フヘキニ非スシテ一個ノ締約國タル地位ニ在ルモノナレハ同條約ハ米國本土ト同様日本ノ本國ヲ構成スル諸島ニハ適用スヘキニ非スト信シ居ル旨ヲ伝ヘ國際「ロイテル」及朝日特電モ同様ノ報道ヲナシオレル処他方ニ於テ同日貴地發國國際電報ハ「ハ」氏ハ陳述書

其ノ本土ノ存スルコトヲ前提トス帝國ノ本土ヲ包含セサルハ自明ノ理ナリ米國側解釈ニシテ事實ナリトセハ我國國民ハ鼓ヲ鳴ラシテ之ニ反對セサルヘカラス云々ト論シ居レリ御参考迄

46 10年12月22日（発）

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛（電報）

日本本土除外ニ關シヒューズ及ビバルフォア

ノ了解ヲ求ムベキ旨訓令ノ件

會議第二二六号

(三五文書)

往電會議第一九九号ニ関シ

(四一五書)

貴電會議第二四九号ニ拠レハ四國條約第二条ノ適用区域ニ関シテハ米國言論界ニ於テ追々論議セラルルニ至リタル模様ナルカ今後本問題ノ發展如何ニ依リテハ米國當局ノ立場モ余程困難トナルヘキニ付米國側ニ於テ案外容易ニ日本本土ノ除外ヲ承諾スルヤモ計リ難ク且又米國新聞等ニ依リ本件ニ關スル四國全權會談ノ内容詳細外間ニ漏レタル後却テ米國側ノ要求ニ依リ又ハ米國上院ノ留保等ニ依リ日本本土除外ノコトトナルカ如キコトアラハ種々ノ臆測ヲ生ミ我國民ノ感情上益々面白カラサル結果ヲ招クヤモ知レサルニ付

六二七

旁々問題ノ紛糾セサルニ先チ此際至急往電會議第一九八号ノ趣旨ニ依リ先以テ「ヒューズ」ニ懇談ヲ試ミラレ其ノ同意ヲ取付ケタル上日米共同ニテ「バルフォア」ノ了解ヲ求メラルル様致シタシ  
英仏へ転電アリタシ

47 10年12月24日(発)

内田外務大臣ヨリ  
在シドニー鈴木總領事宛(電報)

四国条約適用区域ニ関スルオーストラリアノ

輿論通報方訓令ノ件

第六〇号

四国条約ニ所謂 insular possessions ノ中ニ日本本土ヲ包含スルヤ否ヤニ関シ目下米國ニ於テ盛ニ論議セラレオル次第ハ新聞電報等ニヨリ御承知ノ事ト存スル処本問題ニ関スル貴地輿論ノ大要電報アリ度尚若シ本条約ノ適用区域ヨリ  
(1) 日本本土ヲ除外シ濠州及新西蘭ヲ包含セシムル場合  
(2) 日本本土、濠州及新西蘭ヲ悉ク除外スル場合ニ於テ濠州及新西蘭ハ如何ナル態度ニ出ツヘキ模様ナリヤ貴官ノ御観測回電アリタシ  
本電並返電在米大使へ転電アリタシ

ルノ理由ナカルヘク殊ニ米國ノ輿論斯ノ如キハ我國民ノ驟起スヘキ秋ナルヲ思ハサルヘカラス若シ四国条約調印ニ際シ日本本土包含ニ関スル諒解アリタリトセハ日本三千年來ノ歴史ニ照シ見免カスヘカサル國辱ナリ云々ト述ヘ又國民ハ「此ノ大屈辱ヲ承認セムトスルカ天人共ニ相容レサル危険思想ノ抱懷者我外務省」ト題シ國家ノ独立及尊嚴ハ利害ヨリモ名分ヲ重シトセサルヘカラス然ルニ利害ノ打算ノミニテ独立國ノ体面ヲ抛チ日本帝國カ英米仏三国ノ保護國トナルニ甘ンスルハ天人共ニ容レサル亡國思想ナリ國民ハ右危険思想ノ張本人タル日本政府殊ニ外務省ヲ取締ラサルヘカラスト記載セリ尚大阪毎日ハ社説ニ於テ四国条約適用区域ニ日本本土ヲ包含ストノ見解ハ暫ニ解釈上不都合ナルノミナラス實際ノ適用ニ付テ見ルモ極メテ不都合ナリ蓋日本ハ仏國ノ如ク本國ノ保全ニ付他國ノ保障ヲ必要トセサルヲ以テ結局本國ニ於ケル爭議ノ裁斷ヲ片務のニ英米仏三国ニ委託スルコトナルヘキヲ以テナリトノ趣旨ヲ論述セリ  
英仏へ転電アリタシ

48 10年12月24日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)

四国条約適用区域問題ニ関スル国内新聞論調

通報ノ件

會議第二三五号

四国条約適用区域問題ニ関シテハ外国電報等ニ依リ其ノ経緯追々日本ニ伝ハリ大分右ニ関スル批評の記事新聞紙上ニ表ハルルニ至リタル処其ノ中主ナルモノヲ掲クレハ日々ハ二十日貴地発特電トシテ加藤全權ハ最初日英米三巨頭會議ニ於テ日本本土ヲ包含ストノ英米兩國全權ノ解釈ニ反対シタルモ結局「バルフォア」氏ノ強要ニ依リ承諾スルニ至レリ云々ト述ヘ東京朝日ハ本問題ノ経緯ヲ叙シ英國カ日本本土ヲ引合ニ出シタルハ四国条約カ濠州本土ヲ保障スルモノナルコトノ論拠ヲ強メムカ為ナルカ外国側ヨリ日本ノ保障ヲ押売セムトスルニ日本ノ却テ之ヲ好マサルハ奇観ナリト述ヘタル十九日貴地発特電ヲ掲ケ万朝ハ「日本ノ國辱ナリ」ト題シ日本ハ地理上ヨリ見レハ太平洋上ノ島嶼ナルヲ免レスト雖法理上殊ニ政治上ヨリ見レハ独立ノ本土タルコト瞭カナリ然ルニ独リ日本ノミ本土ヲ挙ケテ三国ノ保障ヲ求ム

米國大統領公表書發表ノ経緯報告ノ件

別電

ワシントン會議全權宛内田外務大臣宛十二月二十四日着電報會議第二六五号

四国条約適用区域ニ関スル米國大統領ノ公表

會議第二六四号

大統領ハ二十日常例接見日ノ際一新聞記者ノ質問ニ對シ四國協約ノ島嶼中ニハ日本本土ヲ含マザルモノト解スル旨ヲ洩シタル為忽チ言論界ノ注意ヲ喚起シ多數ノ新聞記者更ニ國務長官ニ會見シ同長官ガ曩ニ日本本土ヲ含ムモノナリト言明シタルコトヲ指摘シ両者見解ノ一致セザル理由ヲ質問シタルニ長官ハ頗ル狼狽シ大統領ノ所言ニ對シテハ何等論議スルヲ得ズト逃ゲタル為「ロッチ」ガ新条約ニ付本會議ニ於テ報告演説ヲナシタル際多數ノ島嶼ヲ列挙シ乍ラ日本本土ニ言及セザリシ理由等ニ照シ益々疑惑ノ念ヲ高メ事態ノ重大トナリタルヲ以テ大統領ハ直ニ國務長官「ロッチ」「アンダーウッド」等ト協議ノ末同夜別電會議第二六五号ノ通り公表書ヲ發表シ米國全權ノ同意シタル日本々々ヲ含ムトノ見解ニ異議ナキ旨ヲ声明セリ

(別電)

ワシントン會議全權宛内田外務大臣宛十二月二十四日着電報會

49 10年12月25日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

議第二六五号

四国条約ノ適用区域ニ関スル米國大統領ノ公表

會議第二二六五号

(前段省略)

The President announced tonight that the difference in view in no wise will be permitted to embarrass the conference or the ratification of the Agreement.

He had assumed all along that spirit of the Conference contemplates the confidence which pledges respect of territory in every way which tends to promote lasting peace.

He has learned from the United States Declaration that they have agreed to construction which includes the homeland of Japan in the term of insular possessions and insular dominions, and has no objection to that construction.

Zenzen.

(右和訳文)

鍊ニ堪ヘ得タリ其ノ間二回大戦ノ勃発アリ条約ノ適用ヲ見ルニ至リタルモ何レモ極メテ満足ナル結果ヲ齎シタリ但条約カ茲ニ廢棄セラレントスルニ至リタルハ二ケノ理由ニ基ク即一ハ其ノ存在ヲ促シタル事態ノ消滅シタルコトニシテ他ハ現下ノ情勢之ニ代フルニ四国条約ヲ以テスルヲ有利トスルコト之ナリ四国条約ノ成立ハ実ニ日英同盟ノ成効ニ依ルモノト云フ可ク余ハ四国条約ヲ以テ始リタル新形勢ノ結果極東ノ平和ハ永久ニ保持セラレ且日英ノ友好ハ益々増進セラレンコトヲ希望ス」云々

51 10年12月23日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国条約反對論者ノ動向ニツキ報告ノ件

會議第二二七二号

(四九文書)

往電會議第二二六四号「ホワイト・ハウス」公表書ノ経緯ハ二十一日諸新聞紙ノ最重要欄ニ特記セラレ一般ニ此ノ不幸ナル出来事ニ依リ新条約ニ対スル反對熱昂マルベシトノ觀察ヲ下シ中ニハ大統領ニ於テ事ノ真相ヲ承知セザリシ筈ナシトノ非難ヲ加ヘ又ハ「バルフォア」ハ濠州及新西蘭トノ關係上日本本土ヲ含マシムルコトヲ主張セリトノ消息ヲ伝

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

六三〇

大統領ハ本タ見解ノ相違ガ會議若クハ協約ノ批准ヲ困難ナラシムルコトハ断ジテ認容スヘカラザル旨声明シタリ  
大統領ハ會議ノ精神ハ有ラユル方法ヲ以テ領土ノ尊重ヲ保障シ以テ恒久平和ノ促進ニ資スヘキ相互間ノ信頼ヲ図ルニ在リト終始想定シ居タリ

大統領ハ米國全權カ島嶼タル屬地及領地テフ語ニ日本本土ヲ包含ストノ解釈ニ同意シタルコトヲ同全權ヨリ伝知シ且右解釈ニ対シ何等異議ヲ有セズ

50 10年12月25日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国条約成立ノ尽力ニ対シバルフォアニ謝意

表明ノ件

會議第二二七二号 極秘

(七文書)

貴電會議第一三五号ニ関シテハ種々ノ事情ニ依リ「バルフォア」氏ニ申入ルル機会ナカリシカ十二月十九日加藤全權同氏ヲ往訪御電訓ノ趣旨ヲ敷衍シテ申伝ヘタル所同氏ハ深謝ノ後「余ハ日英兩國ノ密接ナル提携ハ極東平和ノ基礎タルコトヲ確信スルモノニシテ過去廿年日英親善ノ首唱者タリシコトハ正ニ記述ノ如シ日英同盟ハ過去廿年間能ク其試

フルモノアリ將タ又英仏全權側ニ於テハ新聞記者ノ質問ニ対シ間接直接ノ方法ニ依リ何レモ日本本土ヲ含ム次第ヲ言明シ(加藤ハ同日新聞記者会见ノ際依然何等「コンミット」セザル態度ヲ採レリ)尚上院議員「ボラー」ハ二十日新聞記者ニ向テ大統領國務長官(脱)ヲ指摘シテ要スルニ新条約ハ曖昧不確実ニシテ事変起リタル場合ニハ如何様ニモ解釈セラルベシト非難シ追テ適當ノ場合条文修正及解釈の留保案ヲ提議スル覚悟ナリト述べ尙ホ國務長官ノ見解ニシテ正確ナリトセバ新条約ハ日本ノ本土ヲ保護スル關係上軍事的同盟ノ性質ヲ有シ同条約攻撃者ニ新タニ一ノ辞柄ヲ与ヘタルモノナリト付言セリ又太平洋沿岸地方ニ於ケル排日運動者ハ最近上院ニ於ケル新条約反對議員ニ対シ批准阻止方ヲ慫慂シ来リ居リ加州選出議員「ジョンソン」ハ「ショートリッヂ」ト共ニ反對ヲ為スニ至ルベシトノ觀察ヲナス者アリ前記ノ次第二付去ル十六日「リード」ガ上院ニ於テ二時間ニ亘リ新条約ヲ攻撃シ同条約ハ山東ヲ強奪セル日本ヲ保護スルモノナリト迄切言シ次イデ共和黨新条約賛成議員間ニ今回ノ會議結果ヲ見ル迄論議ヲ見合ハスベシトノ打合せ成立シ新条約ニ関スル論評新聞紙上ニ薄ラギ

六三一

居ルガ今回ノ出来事ニ依リ本件再ビ言論界ヲ賑ハスニ至ルベシ

在欧各大使へ転電セリ

52 10月26日(着) ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国条約適用範圍ニ関シ意見具申ノ件

會議第二七六号

貴電第一九八号ニ関シ  
(三四文書)

(一) insular possessions ナル語ハ二様ニ解釈セラルル余地アルガ如ク日本ノ場合ニ付テ考フルニ日本本土ハ帝國ノ本体自身ニシテ帝國ノ領有スル地域ニ非ラズトノ解釈ハ確ニ貴見ノ如ク有力ナル論拠アルベシト雖モ帝國ヲ一ノ無形の国家ト見レバ日本本土ヲ以テ我国家ノ領有スル地域ト認ムル解釈モ必ズシモ理由ナキニ非ザルベシ

(二) 本邦ニ於テハ体面論トシテ協約四國中独リ日本ノミ其ノ本土ガ協約ノ適用ヲ受クルコトヲ不快トスル議論アルモ米國上院議員中ニハ協約ノ適用ヲ受クルコトヲ一ノ利益ト認メ日本独リ其ノ本土ニ付テモ此ノ利益ヲ享有スルモノトセバ他ノ三国ニ対シ不公平ナリトシテ米國委員ガ之ニ同意セ

述ヘ一同ノ了解ヲ得タリ然ラハ本文ノ權利ハ日英同盟協約中ニ用ヒラルル「領土權」ナル語ト全然同一ノ意義ナリヤ否ヤノ問題ニ付テハ「ヒューズ」ハ幣原ノ問ヒニ答ヘ元來「領土權」ト謂フモ國際法上解釈ノ一定セルモノニアラス大体ニ於テ本文ノ權利ハ「領土權」ト一致スヘキモ的確ニ同一ノ意義ナルコトヲ断言スルコトハ困難ナリ要スルニ領土ニ關係ヲ有スル一切ノ權利ヲ指スモノト了解ニ止メ置クコト適當ナルヘシト謂ヒ一同之ニ同意セル次第ナリ

(三) 貴電ニ依リニ帝國政府ニ於テハ國際紛争カ第一条第二項ノ規定スル四國共同會議ノ議ニ付セラルヘキヤ否ヤハ其ノ紛争發生地カ太平洋地方ニ於ケル insular possessions or insular dominions タルト否トニ依リテ決シ得ヘキモノト解釈セラルヤニ察セラルル処右ハ本條規定ノ趣旨ニアラスシテ四國共同會議ノ議ニ付センカ為ニハ其ノ紛争カ第一ニ太平洋問題ニ基クコト及第二ニ第一条第一項ノ權利(以上説明ノ便宜上仮ニ之ヲ「領土權」ト略称ス)ニ影響ヲ及ホスコト此ノ二条件ヲ具備スルコトヲ要ス然ルニ如何ナル事項ヲ太平洋問題ト称スルヤハ前電報告ノ通意義的確ナラサル所アリト雖何レニスルモ前記 insular possessions or

ルコトヲ攻撃スルモノアリ

(三) 協約第二条ノ場合ニ付テ之ヲ見ルニ本条ハ協約國中ノ二國ノ領土ニ関スル權利ガ第三國ノ侵略行動ニ依リ脅威ヲ感ズル場合ニ協約各國ガ協同又ハ各別ニ取ルベキ措置ニ関シ了解ヲ遂グル目的ヲ以テ相互ニ協議スベキコトヲ規定スルニ止マリ其ノ協議ニ先チ何國モ自衛權ヲ行使スルコトヲ得ズト云フガ如キ禁止の規定ニハ非ラズ且ツ実情ニ於テ一國ノ本土ニ対スル脅威ハ同時ニ其ノ屬地ニ対スル脅威トナルベク例ヘバ米國ガ脅威ヲ感ズル場合ニハ米國ノ屬地モ等シク脅威ヲ感ゼザルヲ得ズ殊ニ日本ニトリテハ本土ト台灣又ハ樺太トノ關係ハ更ニ密接ナルモノアリ之ヲ以テ見レバ本條ノ適用上ヨリ協約國ノ本土ヲ除外スルト否トハ單純ナル理論上ノ問題ニシテ何レモ其ノ本土ガ太平洋地方ニ屬地ヲ有スル限り当然本條ノ適用ヲ見ルニ至ルベク實際問題トシテ日本ノミ不均衡ノ責務ヲ負担スルモノトモ思ハレズ

(四) rights in relation to their insular possessions or insular dominions トアルハ一國カ右領土内ニ於テ享有スル權利ヲ謂フニアラスシテ同領土其ノ物ト關係ヲ有スル權利ヲ指スモノナリ右ハ本問題商議ノ際幣原ヨリ此ノ解釈ヲ

insular dominions ニ於テ發生スル問題ト雖太平洋問題ノ性質ヲ有セサルモノ多カルヘク(例ヘハ家屋稅問題ノ如キハ素ヨリ太平洋問題ニアラス)右領土以外ニ發生スル問題ニ付太平洋問題ノ性質ヲ有スルモノアルヘシ「バルフォア」ハ何國ノ領土ニモ屬セサル太平洋ノ公海ニ於テ重大ナル紛争發生スルコトアルヘキヲ予想シ之ヲ本條ノ規定中ニ包含セシムルノ必要ヲ述ヘタルガ太平洋問題ト謂ヘハ此種ノ事項ヲモ含ムヲ以テ之ニ満足セル次第ナリ

又「ヒューズ」「バルフォア」共ニ本規定適用ノ一例トシテ太平洋問題ガ加奈陀ニ於テ發生スル場合ヲ挙ゲタルヲ以テ見ルモ太平洋問題ガ特ニ前記 insular possessions or insular dominions 内ニ發生スル問題ヲ指スノ意味ニ非ラザルコト明カナリ從テ此ノ点ニ付テハ協約各國中独リ日本ノミ本土ニ対シテ特殊ノ責務ヲ負担スト云フガ如キ結果ヲ生ズル虞ナキニ似タリ次ニ四國協同會議ノ議ニ付セラルベキ紛争ノ第二条件トシテ其ノ紛争ガ延ヒテ所謂領土權ニ影響ヲ及ボスモノナルコトヲ要スルコト問題ガ日本本土ノ領土權ニ影響アルノ故ヲ以テ四國協同會議ガ日本ニ不利ナル形勢ヲ誘致スヘシト云フハ恐ラクハ英米仏悉ク日本ニ惡

意ヲ有スルコトノ予想ニ基クモノナルベク今日ノ國際關係ニ鑑ミ斯クノ如キ予想ハ根拠アルモノトモ信ゼラレズ之ヲ要スルニ前記二条件ヲ具備スル紛争ガ四国協同會議ノ議ニ付セラルルコトナリタリトテ日本独リ不利益ノ地位ニ立ツヲ憂慮スルノ理由ナキガ如シ

(イ)貴電ニ依レバ協約適用範囲内ニ濠州新西蘭ヲ加ヘサルコトトシ日本本土モ之ヲ除外スルコトトスベキ御意見ナルモ素ヨリ我見地ヨリスレバ濠州新西蘭ヲ適用範囲内ニ包含セシムル必要ナキモ右兩國ノ見地ヨリスレバ其ノ本土ガ適用範囲内ニ加ハルコトハ本協約ヲ歡迎スル唯一ノ動機ニシテ之ヲ除外スルノ儀ハ到底行ハレ難カルベク「バルフォア」ノ力説セルハ若シ日本本土除外ノ主張ガ自己ノ防禦力ニ信賴スル國家ノ威嚴ヲ理由トスルモノトセバ濠州新西蘭ヲ本條約ノ適用範囲内ニ置クコトハ其ノ兩國本土ニ防禦力ナキ為一ノ恩恵トシテ之ニ條約ノ保障ヲ与フルモノナルガ如ク日本ヨリ解セラルルノ結果ヲ来シ兩國人ノ自負心ヲ毀損スベシトノ点ニ在リ素ヨリ日本本土濠州又ハ新西蘭ノ本土トハ事實上其ノ防禦ノ實力ニ於テ同一視スベキモノニ非ラズト雖モ英國委員トシテハ公然此ノ事實ヲ承認スルコトヲ

英仏へ転電セリ

53 10年12月25日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本本土除外ニ関スル幣原ヒューズノ討議報

告ノ件

會議第二七七号 至急 (十二月二十三日ワシントン発)

往電第二七六号ニ関シ  
(五二文書)

十二月十九日幣原ハ國務長官ヲ訪ヒ先ツ当國上院議員ノ一派及新聞紙ニ於テ若シ本協約カ日本本土ニ適用アリトノ解釈正當ナラハ是レ日本ノ利益防衛ニ偏重ノ嫌アリトテ攻撃ヲ試ムルモノアルコトヲ指摘シ之ト同時ニ本邦ニ於テハ協約四國中日本独リ其ノ本土カ協約適用範囲内ニ置カルルコトヲ不面目且不公平ナリト考ヘ居ル向モアリ日米兩國ニ於テ全然正反對ノ見地ヨリ等シク日本本土ノ包含ニ對シ物議ヲ醸スニ至リタル事實ヲ擧ケ条文ノ解釈論トシテハ insular possessions ノ語カ本土ヲ含マスト解スルニ充分ナル論拠アルヲ信スル旨ヲ反覆説明シタル上此際日本本土ヲ除外スルコトニ解釈ヲ改定スルニ於テハ日米兩國双方ニ取リテ不快ナル論議ヲ避クルコトヲ得ヘク又之カ為當國ニ於テ本協約批准促進ニ資スル処アリトセハ一挙兩得ナル可シ

難シトスル立場ニアルモノト認メラル

(イ)惟フニ協約各國間ニ全然均衡ヲ保タンガ為メ均シク太平洋ニ面スル米國本土ヲモ協約ノ適用範囲内ニ包含セシムルコトヲ得バ或ハ一ノ解釈案ナルヤモ知ル可ラズト雖モ米國本土ハ太平洋大西兩洋ニ面スルガ上ニ協約ノ規定ヲ以テ米國本土ヲ縦斷シ其ノ若干州ノミヲ適用範囲ニ置カントスルガ如キハ到底行ハルベキコトニ非ズ

(イ)大体論トシテ觀察スルニ今ヤ太平洋方面ニ領土ヲ有スル四大大國ガ互ニ信賴シ相提携シテ同方面ノ和局維持ニ力ヲ尽サントスルニ當リ其ノ協約ノ適用範囲ヲ制限スベキ特殊ノ規定又ハ了解ヲ設ケントスルハ協約ノ精神ニ添ハザル所アリ殊ニ若シ其ノ適用又ハ了解ガ相互間ノ猜疑不信ヲ暗示スルモノナルニ於テハ殆ンド全然協約ノ価値ヲ減却スルノ嫌ナキ能ハズ從テ此ノ際前述ノ如ク事實上我ニ害ナキ限り協約ノ前途ニ故障ヲ来スノ虞アルガ如キ措置ハ之ヲ避ケラレシコト切望ニ堪ヘズ

(イ)本委員等ノ意見ハ貴訓ノ次第モアリタルニ付更ニ國務長官ト本件會議シタルガ其ノ結果ハ別ニ電報スベシ尚ホ追テ「バルフォア」トモ意見交換ノ答

トノ趣旨ヲ述ヘタリ「ヒューズ」ハ之ニ答ヘ先ツ大体論トシテ往電第二七六号第八項前段ト同一趣旨ノ意見ヲ熱心ニ説明シタル後自分ハ日本本土ノ包含カ事實上如何ナル不利ヲ日本ニ齎スヘキカヲ想像スルコト能ハサルノミナラス却テ日本ニ有利ナル可キコトヲ信シタル次第ナリ尤モ單ニ米國ノミノ見地ヨリスレバ日本本土ノ除外セラルルト否トハ濠州及新西蘭ニ関スル立場ハ亦諒トスヘキ処アリ將又米國上院議員中如何ナル條約ニ對シテモ批難ヲ加フルモノアルハ免カレ難ク自分ハ本協約ノ日本本土ニ適用セラルルコトニ付反對論ヲ試ムル一部ノ議員アルヲ耳ニシタルモ大局ヲ解セサル議員トシテ何等意ニ介シタルコトナシ本協約ハ結局大多數ヲ以テ上院ヲ通過スヘキコト疑ヲ容レスト言ヘリ幣原ハ之ニ對シ自分ハ insular possessions ナル語ノ單純ナル解釈論ニシテ此ノ文字カ日本本土ヲ包含セサルノ意義ヲ明ニセンコトヲ努ムルニ過キス過般本件交渉ノ際日本委員トシテ日本本土除外ノ主張ヲ拋棄シタルコトハ素ヨリ今日之ヲ否認セントスルノ意志ナキモ爾來日米兩國ノ一部ニ於テ釀成シタル物議ハ又之ヲ無視スルコトヲ得サルカ上ニ

新ニ米英仏三国委員ノ諒解ヲ以テ解釈ヲ改定スルモ一策ナリト信ス「バルフォア」ノ論シタル濠州新西蘭ノ問題ニ至リテハ別ニ之ニ処スル方法モ有ルヘシ但シ元来自分等ノ希望スル処ハ insular possessions ノ語カ当然ノ解釈トシテ日本本土ヲ含マサルコトヲ明カニセントスルニ止マリ濠州新西蘭カ協約ノ適用ヲ受クルハ insular possessions ノ範圍内ニ該当スルカ為メニ非ラス insular dominions トシテ適用セラルルモノナルカ故ニ日本本土カ insular possessions タルト否トハ濠州新西蘭ニ直接關係ナキ問題ト解スルヲ得可シト述ヘタルニ「ヒューズ」ハ右貴見ハ確カニ一ノ有力ナル論点ナリトテ首肯セリ次ニ幣原ハ米國上院議員等カ協約ノ規定ニ付抽象的批難ヲ試ムルハ自分ノ意ニ介セサル処ナルモ之ニ関連シテ恰モ日本カ協約ニ依リ不当ノ利益ヲ受クルモノナルカ如キ攻撃ヲナスハ黙過シ難キ処ナリト説キタルニ「ヒューズ」ハ貴意ハ克ク諒解セリ就テハ直ニ「ロッヂ」「アンダーウッド」両上院議員ヲ招キ上院ノ大体ノ意向ヲモ徴シタル上ニテ何分ノ回答ヲナスヘシト答ヘタリ

廿一日幣原ハ「ヒューズ」ノ招ニ応シ同官ヲ訪ヒタルニ「ヒューズ」ハ一昨午後「ロッヂ」「アンダーウッド」「ル

## 別電

ワシントン會議全權內田外務大臣宛十二月二十七日着電報會議第二八四号

十二月二十三日米國大統領記者接見ノ際ノ四国条約ニ関スル聲明

## 會議第二八三号

二十三日大統領新聞記者接見ノ際四国条約ニ関シ往電第二八四号「ステートメント」ヲ朗読シタル上更ニ記者連ノ質問ニ対シ其ノ名ヲ援用セサル了解ノ下ニ種々応答スルトコロアリタリ諸新聞ノ伝フルトコロ一様ナラサルモ確カナル報道ニヨリ大要左ノ通答ヘタル趣

(一)武力ヲ使用セサルコトニ付留保ヲナスヘシトノ説アルモ斯ルコトハ必要ナカルヘシ如何ナル大統領モ国会ノ同意ヲ經シテ兵ヲ動カスコトナカルヘシ

(二)四国条約ハ世界ノ平和ヲ目的トスルコトニ於テ國際連盟ノ趣旨ト一致スルモ兩者ハ全然無關係ナリ

(三)國際紛争解決上直ニ兵力ニ訴フルコトナクシテ先ツ關係國一堂ニ集マリ熟議ヲナスコト必要ナリ塙國塞耳比亜間ノ紛争モ斯ル方法ニ依リシナランニハ大戰ヲ避ケ得タリシナルヘシ今回ノ會議ノ目的トスルトコロハ兵力ニ訴フルニ先チ紛争ヲ解決スルノ方法ヲ協定セントスルニ在リ

約ノ前途頗ル憂慮ニ堪エスト述ヘタリ

以上ノ成行ニ徴スルニ大統領カ一旦不用意ニ日本本土除外ノ解釈ヲ述ヘタルコトハ計スモ累ヲ為シ已ニ右解釈ノ取消ヲ公表スルニ至リタル今日又々其ノ取消ヲ撤回スルカ如キハ大統領ノ威信上ヨリスルモ又米國政府ノ對議會策ヨリスルモ行ハレ得ヘキコトニ非スト察セラルル今ヤ上院議員ノ一派カ本問題ヲ利用シテ大統領及米國政府ヲ攻撃シ日本本土除外ノ留保ヲ以テ批准スヘシトノ説ヲ為スモノアルト共ニ他ノ一方ニ於テ支那側ハ元來本件四国協約ヲ悦ハス内密ニ批准反對ノ運動ニ着手シタリトノ情報アリ本問題ノ実質ニ関スル本委員等ノ意見ハ往電第二七六号ノ通りナルカ帝國政府ニ於テ尚前記協約ノ前途ニ関スル一切ノ危險ヲ冒シ飽迄モ日本本土除外ノ為措置ヲ講スルノ必要ヲ認メラルルコトアリトスルモ今日ハ其ノ時期ニ非ル可ク暫ク時局ノ推移ヲ俟タルコト肝要ナリト思考ス

英仏ハ転電セリ

54 10年12月27日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國大統領ノ新聞記者接見ニ於ケル応答ノ件

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

同条約ノ解釈上多少相違スルトコロアリトスルモ其ノ辺ハ重要視スルニ足ラス

(四)太平洋島嶼ニ関シ紛争起リ又ハ日本国ノ侵迫セラルルカ如キ場合関係国会議ヲ開キ平和の方法ニ依リ解決ヲハカルコト何ノ害アラシヤスルコトハ必要ニシテ而モ四国条約ノ趣旨トスルトコロナリ

在欧各大使ヘ転電セリ

(別電)

ワシントン会議全権内田外務大臣宛十二月二十七日着電報会議第二八四号

十二月二十三日米国大統領記者接見ノ際ノ四国条約ニ関スル声明

会議第二八四号

President Harding read the following statement at his reception of newspaper correspondents, Dec. 24: President will offer no comment on disputes which attempt to magnify the differing constructions on the Four Party Treaty. To him these are unimportant. Big things aimed at are understanding for peace and agreement to meet and discuss preservation of peace

when ever it is threatened. No alliance or entanglement is thought of, none will be negotiated. It would be better to rejoice over things accomplished than to dwell on differing views which can be of no great consequence. President is unwilling that unjustified charge that United States delegates are withholding information shall go unchallenged. He had full confidence, else he had not chosen them and he has full confidence now and is more than gratified over their efforts because they are working out greatest contribution to peace and good will which has ever marked Christmas time in which Christian era (説).

It is one thing to talk about ideals of peace but bigger thing is to seek actuality. This conference is doing in harmony with an overwhelming American sentiment and the world sentiment too and in full accord with cherished American traditions. Zenken.

(右和訳文)

大統領「ハーディング」ハ十二月廿四日新聞通信員ヲ引見

シ左ノ声明書ヲ朗読セリ

予ハ四国条約ニ関スル解釈上ノ異説ヲ誇大ナラシメントスル紛議ニ対シテハ何等言及セサルヘシ予ニ取リテハ斯ノ如キハ畢竟一些事ニ過キス標的タル大案件ハ平和ニ対スル諒解ト及平和カ脅威ヲ受ケタル場合相会シ平和維持ノ件ヲ協議スルニアリ同盟又ハ拘束ヲ設クルコトハ思慮ニ上リタル事ナク又此等案件ノ協議ニ上ルカ如キ事無カルヘシ故ニ大ナル効果ヲ齎シ得サル論争ニ従事センヨリハ達成サレタル事績ヲ慶賀スルニ如カス又予ハ合衆国委員カ報道ヲ抑止シツツアリトノ不当ナル非難ハ之ヲ観過スルヲ欲セス予ハ彼等ニ対シ充分ノ信任ヲ措クモノニシテ然ラスンハ何ンソ彼等ヲ選任センヤ而シテ予ハ今尚ホ充分ニ彼等ヲ信任シ且ハ彼等ノ努力ニ対シテ満腔ノ満足ヲ表スルモノナリ蓋シ彼等ハ常ニ基督降誕祭ノ季節ヲ画シタル平和ト好意ニ対シ最大貢獻ヲ遂ケツツアレハナリ平和ノ理想ニ就テ談論スルハ一事ナリ然レトモ現実ヲ求ムルハ更ニ大事ナリ本会議ハ横溢セル米国の感情ト又世界の感情ト協和ヲ保チ又米國ノ伝統的主義ト十分一致シテ行動ヲ執リツツアリ

55 10年12月27日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン会議全権宛(電報)

日本本土除外問題ニ関シ在本邦米国大使ト会

談ノ件

会議第二四八号

往電会議第二四七号会見ノ際在本邦米国大使ハ四国条約適用区域問題ニ言及シ此頃新聞紙等ニ換レハ本問題ハ日米兩國ニ於テ追々論議セラレ居ル模様ナルカ右ハ馬鹿ラシキ問題ナラスヤト述ヘタルヲ以テ本大臣ハ或ハ然ランモ日本ニ取リテハ極メテ重要ナル問題トナリツツアリ蓋シ日本本土ヲ同条約ノ適用区域内ニ入ルル何等必要アリトセハ格別ナルモ全然其必要ナキ上第一他ノ締約國ノ本土カ右区域内ニ入ラサルニ日本ノ本土ノミ含マルルコト第二英國ノ自治領タル濠州新西蘭ヲ包含セシムル為メ日本本土ヲモ之ト同一ノ地位ニ置キタルコト第三日本ノ防禦ハ日本自身之ニ当リ得ヘキコト等ノ面白カラサル点アルヲ以テ我國論ノ一部ニ於テ強ク反対シ居ル次第ナリ日本本土ノ包含ニ付テハ米國上院議員中ニモ相当反対者アリ上院ノ条約批准ニ際シ或ハ此ノ点ニ付留保ヲ付スルコトトナルヤモ計リ難キ模様ナル

カ日本ニ於テモ或ハ枢密院ニ諮詢ノ際留保ヲ付セラルルニ至ルヤモ計リ難ク且又今ヤ議會モ開会トナリ本問題ハ大人物議ノ種トナリ居ルニ付帝國政府ノ立場ハ誠ニ困難トナリ居ル次第ナリト述ヘタル処同大使モ之ヲ首肯シタル様見受ケラレタリ

56 10年12月28日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 日本本土除外問題ニ関スル幣原バルフォア会

## 談報告ノ件

第二八八号

(十二月二十六日ワシントン発)

(極秘)

往電第二七七号末項ニ関シ

十二月二十四日幣原ハ「バルフォア」ヲ訪ヒ四国協約問題ニ言及シ四国中独リ日本ノミ其ノ本土ニ協約ノ適用セラルルコトハ日米両国ニ於テ全然正反對ノ見地ヨリ等ク不滿ヲ招クニ至レル狀況ヲ説キ帝國政府トシテハ右日本本土包含ニ反對スル國民的感情ヲ無視スルコトヲ得サル立場ニ在ルコトヲ述ヘタル上往電第二七七号「ヒューズ」ト会见セル顛末ヲ詳細説明シ右ノ情形ハ腹藏ナク「バルフォア」ニ内

ナリ四国協約ノ崇高ナル目的ヲ遂行スルニ故障ヲ来タスカ如キコトアリテハ残念ニ堪ヘスト答ヘ日本人ノ感触ヨリスレハ日本本土カ包含セラルルトキハ国家ノ面目ニ関シ若シ他国ヨリ日本本土ヲ除外セムトスルトキハ之レ亦国家ノ面目ニ関スト云フ結果トナリ其ノ間ニ屬スル日本当局ノ地位ハ極メテ困難ナルコト察スルニ難カラスト付言セリ尚「バルフォア」ハ幣原ノ問ニ答ヘ当国上院カ本協約批准ノ見込ニ付テハ自分ノ性癖トシテ日々ノ新聞紙ヲ読マサルコトヲ常トスルカ故ニ新聞紙上如何ナル報道アルヤヲ知ラス社交上接触スル数名ノ米国人ヨリハ上院ニ於テ相当強キ批准反對論者アルヲ聞キタルモ右ハ果シテ如何ナル程度迄實際ノ消息ヲ伝フルヤ疑問ナリ「ヒューズ」ノ談トシテ今貴官ノ語ラレタル如ク「ロッジ」「アンダーウッド」殊ニ「ルー」ニシテ樂觀ヲ有スルモノトセハ先ツ之ニ信頼スルノ外無カルヘキカト思考スル旨ヲ述ヘタリ終リニ幣原ハ追テ米國政府ヨリ協約正文ノ認証謄本ヲ送付シ来ルトキハ英國政府ニ於テ直ニ批准ノ手續ヲ執ラルヘキヤト問ヒタルニ「バルフォア」ハ此ノ点ハ未タ思ヒ及ハサリシモ英國ノ関スル限り或ハ速ニ批准スルコト得策ナルヤモ知レス尤モ目

報シ置クヲ適當ト考ヘタル次第ナル旨ヲ申入レタリ「バルフォア」ハ以上内報ニ對スル謝意ヲ表シ本件ニ付テハ未タ「ヒューズ」ヨリ何等聞及ヒタルコトナシト云ヒ元來協約ノ適用範圍ヨリ一國ノ本土ヲ除外スヘキヤ否ヤハ畢竟一ノ空論(academic question)ニ止マリ國家ノ威嚴又ハ実益カ之カ為何等毀損セラルルコトアルヘシト云フカ如キハ自分ノ全ク想像シ得サル所ナリ英國トシテハ若シ本國自体ヲ右範圍内ニ加フルノ途アラハ欣然之ニ同意シタルナラム自分ハ英國ノ代表者トシテ濠州及新西蘭ノ國際的地位ニ累ヲ及ホササル限り日本本土除外問題カ如何ニ決定セラルルトモ毫モ異議ヲ有セスト答ヘタルニ付幣原ハ本件ヨリ insular possessions ナル語ノ單純ナル解釈問題トシテ考量スルニ於テハ濠州及新西蘭ノ國際的地位ニ何等累ヲ及ホスヘキ謂ハレ無カルヘシ蓋シ兩國ハ英國ノ insular dominions タルコト疑ヲ容ルルノ余地無ク insular possessions ノ解釈如何ニ關係無キヲ以テナリト説キタルニ「バルフォア」ハ貴意ハ能ク了解セリ要スルニ本問題ハ日米兩國当局者間ニ於テ適當ニ解決案ヲ定メラレタク自分ハ孰レニテモ異議ヲ唱ヘサルヘシ唯斯ノ如キ比較的枝葉ノ問題カ世上論議ノ焦点ト

下英國下院ハ休会中ナルカ故ニ英國政府ニ於テ如何ナル措置ニ出ツヘキヤ予想シ難シト言ヘリ之ニ對シ幣原ハ日本本土除外問題ニ付テハ或ハ米國上院ニ於テ批准ニ留保ヲ付スルノ議ヲ生スルコトモアルヘク若シ斯ノ如キ形勢ニ至ルトキハ之ニ先シテ insular possessions ナル語ノ解釈ヲ改定スルコトハ日本ニ取り絶對ニ必要ナルノミナラス米國政府ニ於テモ或ハ右改定ニ異議無キコトトナルヤモ計リ難シ從テ英國ノ批准モ今暫ク形勢ノ推移ヲ俟タルコト適當ナラスヤト述ヘタルニ「バルフォア」ハ夫レモ一理アリ何レ「ゲッデイス」トモ協議シ置クヘシト答ヘタリ当日「バルフォア」ノ談話ニ徴スルニ同氏ハ日本本土除外問題ヲ以テ実益ナク且枝葉ニ屬スルモノト認メ我方カ之ニ重キヲ措クコトニ對シテハ寧ロ意外ノ感ヲ懷キ居リタリト察セラル英仏ヘ電セリ

(英宛第七三七号)

57 10年12月28日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛(電報)海軍制限、四国条約及比山問題ニ関スル世  
論ノ動向通報ノ件

## 會議第二五一号 (極秘)

海軍制限四国条約及ヒ山東問題ニ関スル世論ノ趨向ハ累次ノ電報ニ依リ御承知ノ通りナル処廟議ニ参与セル向ニ於テモ此等問題ノ成行ニ付論難少カラス這般ノ消息ハ貴官等ノ御心得迄ニ一応申上ケ置クコト然ルヘシト認ムルニ依リ本官限りノ計トシテ左ニ概要内密申進ス

(一)海軍制限ニ関シ五五三ノ比率ニ落着キタルハ異論ナキモ其処ニ至リタル経路ニ付テハ多少ノ批難アリ

(二)然リト雖モ右ノ問題以上ニ物議ヲ生シ居ルハ四国協約中日本本土包含ノ問題ナリ該協約ヲ急遽調印シタル事情及ヒ日本本土ノ包含ノ為ニ生スヘキ實際上ノ利害等ハ必スシモ問題トセラレサルモ米國ニ於テ反対ナカルヘキ内容ナリシニ拘ハラス何故ニ除外ヲ固執セサリシヤ「ポゼッション」ノ字義ハ本土ヲ包含セサルニ拘ラス何故ニ特別ノ解釈ヲ誘起シタルヤ要スルニ日本本土ヲ包含セシムルコトハ日本ノ為何等ノ必要ナキニ之ヲ包含セシメタルハ畢竟濠州並ニ新西蘭土ヲ包含セシムル為ニ日本本土ヲ英國ノ領土ト同一ノ位置ニ取扱ヒタルモノニ外ナラス斯ノ如キ経路ヲ取り今日ノ結果ヲ見タルハ体面上及感情ハ甚

張ヲ一貫セル脈絡アリト雖モ即金払又ハ国庫債券払ノ如キハ根底ヨリ我主張ト相容レサルモノニシテ商議茲ニ至リタル為ニ我從來ノ主張ニ対スル誠意ヲ疑ハレ今後ノ立場ヲ薄弱ナラシメタルノ觀アルヲ以テ日本ハ常ニ掛引ヲ弄スルモノナリトノ感ヲ与ヘ今後ノ國際交渉上ニモ累ヲ及ホスモノナリ

58 10年12月28日 (発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全權宛 (電報)

## 四国条約適用区域問題ニ関スル日本ノ新聞論

## 調通報ノ件

會議第二五九号

(四八文書)

往電會議第二三五号以後ニ於ケル四国条約適用区域問題ニ関スル新聞論調ヲ觀ルニ日本本土方同条約ノ適用区域内ニ包含セラルルコトトナリタルハ英國側ノ強要ニ因ルモノナル処日英同盟ヲ失ヘル英國力新協商ニ依リ海外領土ノ保障ヲ得ムコトヲ欲スルハ尤モナルモ日本ハ英國ト立場ヲ異ニシ英國側ノ解釈ヲ鵜呑ニスルノ必要ナキノミナラス斯ノ如キ解釈ハ日本本土ヲ海外領土ト同一視スルモノニシテ其ノ誤ナルハ明ナリ然ルニ帝國全權ハ右解釈ニ同意ヲ与ヘ他國

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

タ面白カラストシ之ニ適用上ノ不利益ノ生スヘキ場合ノ想像ヲ加味シ種々ノ攻撃勢カラス一般世上ニ於テモ貴地ヨリノ新聞電報等ニ依リ内部ノ消息漸時判明セル為物議(不明)廟議ニ対スル影響ヲ与ヘツツアリ目下ノ形勢ニ依レハ樞密院ニ於テモ其儘ニテハ批准ニ同意セサルヤモ計リ難ク今後ノ成行ニ付憂慮セラレツツアリ尚米國上院ノ形勢目下樂觀シテ可ナリトスルモ同國政界ノ變化ハ容易ニ逆睹シ難ク若シ將來日本本土除外ノ留保ヲ付シ本条約ヲ批准スルカ如キコトアラハ日本ハ自力ヲ以テ貫徹シ得サリシ主張ヲ米國ニ依リテ成立セシムルコトトナリ結局我ニ獨立ノ定説ナク米國ニ屈從シタル觀ヲ呈シ非常ニ窮境ニ立ツニ至ルヘシトノ懸念モ渺カラス

(三)此際山東問題ニ関シ大讓歩ヲ余儀ナクセラルルニ於テハ益々國論ノ沸騰ヲ來タシ自然英米兩國トノ國交ニ累ヲ及ホスニ至ルヤモ計リ難キ狀勢ニ至ルヘキヲ以テ廟議ニ於テハ主義トシテ支那側ノ要求力不當ナルコトニ一致シタルノミナラス以上錯綜セル事態ノ推移ニ顧ミ往電第二三七号ノ通り決定シタル次第ナリ

(四)序ナカラ申シ添ヘ度キハ借款鐵道案ナラハ尚我從來ノ主

ノ利益ヲ計ラムカ為ニ獨立國タル帝國ノ大ナル不利ト不面目トヲ顧ミサリシハ不都合ナリトナスニ一致シ(日日、報知社説等)中外商業ハ此ノ際適用区域内ニ日本本土ヲ含マサルコトヲ明確ナラシメ置カムコトヲ希望シ又万朝ハ四国条約ノ如キハ仮令日本本土ヲ含マスト為スモ之ヲ破棄スルヲ可トス況ヤ日本ノ宗主權ヲ諸列強ノ問題タラシムルニ於テヲヤト痛論セリ尚國民ハ英米ノ解釈ニ追隨セハ政府ハ瓦解ノ外途無シト述ヘ且樞密院其ノ他ニ於ケル反対意見甚タ熾ンナルヲ伝ヘ其ノ他二三新聞モ同様ノ記事ヲ掲ケタリ英仏ヘ転電アリタシ

59 10年12月29日 (着)

在シドニー鈴木總領事ヨリ  
在米國幣原大使宛 (電報)

## 四国条約適用区域問題ニ対スルオーストラリ

## ア、ニュージールランドノ態度報告ノ件

第一〇号

大臣宛電報貴官御参考迄ニ転電方大臣ノ訓令ニ依リ転電ス大臣宛第一五四号

往電第六〇号ニ関シ今日迄ノ処当地及「メルボルン」各地ニ於テモ四国条約適用区域ニ関シテハ新聞紙上等ニ於テモ

六四三

未タ何等論評ヲ試ミタルモノナシ本件ニ関シテハ華府來電トシテ唯一回条約ノ適用区域ニ付テハ華府当局間ニ於テ意見ノ相違アリタルモ大統領ハ日本本土ヲモ包含セシムル解釈ヲ是認シタル旨ノ電報掲載セラレタルニ止リ一般ノ注意ヲ惹起スルニ至ラザリシモノト思ハルルカ今日午後ニ至リ日本政府ノ態度トシテ東京及ヒ「バンクーバー」ヨリ一二ノ來電アリ或ハ今後多少ノ論議ヲ見ルヤニモ察セラル然レトモ從來ノ經過ニ徴スルニ最初四国条約提案ノ報伝ハルヤ各新聞ハ累次電報ノ通り一斉ニ世界平和ノ為之ヲ慶賀シ特ニ四大海軍國ノ協力ニ依リ濠州ノ受クヘキ恩恵ノ甚大ナルヲ説キ初メヨリ日本本土ヲ適用区域外ニ置キ居ル次第ナレハ本件ハ深く当地方ノ人心ヲ動シ居ラス新蘭土又同様ノ状態ニアリト察セラルルヲ以テ(一)適用区域ヨリ日本本土ヲ除キ濠州及新蘭土ヲ包含セシムルモ民間ニ於テ重大ナル反対ヲ惹起スヘシトハ思ハレサルノミナラス既ニ条約成立後ノ今日濠州ノ受クヘキ利益ニ鑑ミ唯一途ニ体面問題ヲ云々スルハ之ヲ政略ニ利用セントスル一小部分ノ人士ニ限り大体ハ其利害關係ヲ度外視スル能ハサルヘシト観測セラレサルニ非ス殊ニ累次電報ノ通り日英同盟ノ德ヲ称揚シ戰時中日

日本本土除外ニ異議ナキコトヲ確メタルニ付本問題ニ付テハ日本ト米國トノ間ニ孰レニ決定セラルルトモ英國委員トシテ何等異議ヲ唱ヘサルヘシト云フニアリト告ケ進ンテ右ノ如ク英國側ニ於テ斯ノ如キ態度ヲ執ルコトナリタルニ付テハ本件除外問題ハ全ク新タナル局面ヲ生シタルモノト云フヘク又他ノ一方ニ於テ自分ハ上院ノ条約ニ対スル意嚮ヲ詳シク探リタルニ本協約カ上院ヲ通過スヘキコトハ疑ヲ容レサルト共ニ日本本土除外問題ニ付テハ之カ為メ条約全体ノ運命ヲ危クスルカ如キ影響ナカルヘキモ相當論議ノ焦點トナルコトハ免レ難カルヘシト予期セラルル処四国協約ニ依リ日本独リ利益ヲ專ニスト攻撃セラルルハ日本トシテハ忍ビ難シトノ意見ヲ述ヘラレタル点ヲモ篤ト顧慮シタル結果一ノ解決案ニ想到セリ即チ貴官ヨリ自分ニ日本本土除外ノ希望ヲ述ヘラレタル一ノ書面ヲ送ラレ之ニ対シ自分ヨリ英仏ノ代表者ニシテ同意セハ米國ノ関スル限り異議ナキ旨ノ回答ヲ為シ右往復文ヲ基礎トシテ四国条約付屬ノ一ノ約定ヲ新タニ締結スルコトトスヘシカクスレハ一面ニ於テハ日本本土除外ハ日本ノ希望ニ基クコト明カトナリ又他ノ一面ニ於テハ insular possessions ナル語ノ解釈ノ問題ニ

本ノ保護ヲ喜ヒ右同盟ハ消滅シタルニ非ス其ノ精神ハ新協約中ニ現存スルモノナリト論シ居ルカ如キハ(新蘭土代表「サルモンド」氏同様ノ公言ヲ為セリ)一般人心ノ傾向ヲ案スルニ足ルヘシト存ス尚本件ニ付テハ有力者ニ於テ何等イフ処ナキモ日本ト共ニ濠州及新蘭土ヲ除外セントスルニ於テハ前述ノ理由ニ依リ甚シキ反対ヲ惹起スヘク殊ニ軍備ノ負担ヲ軽減シ經濟界不振ノ今日之ヲ生産事業若クハ其ノ保護ニ充當セントノ議論盛ナル場合其真面目ナル方面ヨリ強力ナル反対ヲ生スヘシトモ觀察セラル今後ノ推移ハ隨時電報致スヘシ

60 10年12月29日(普)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国協約本土除外問題ニ関シヒューズヨリ付

屬約定ノ締結ヲ提案ノ件

第二九七号

極秘

(十二月二十八日ワシントン発)

十二月二十七日幣原ハ國務長官ノ招ニ応シ會見セル際「ヒューズ」ハ四国協約日本本土除外ノ問題ニ関シ「バルフォア」ヨリ談話アリタルカ要スルニ同氏ニ於テ濠州代表者カ

アラスシテ新タナル付屬ノ約定ナルコト明カトナルヘク隨テ条約ニ表ハレ居ル字句ノ解釈ニ付朝令暮改ノ譏モ之ヲ防遏スルコトヲ得ヘシ右ノ考案ハ未タ何人ニモ話シタルコトナク先ツ貴官ノ意見ヲ問ヒ同意ヲ得ハ他ニモ相談セント思考シ居ル次第ナルニ付腹藏ナキ意見ヲ述ヘラレタシト云ヘリ右ニ対シ幣原ハ特ニ日本本土ノミヲ特ニ指摘セスシテ一般的ノ字句ヲ用ヒ各締約國ノ本土 (mainland 又ハ main territory) ハ協約適用ノ範圍外ニ在ルモノナリト趣旨ノ文句ヲ用ヒル方或ハ望マシキヤニ考ヘラルト答ヘタルニ「ヒューズ」ハ右ノ趣旨ニ反対スル次第ニハアラサルモ mainland or main territory ト云フトキハ誤解ヲ生スルノ虞無シトセス例ヘハ米國ヨリ云ヘハ「ハワイ」ハ米國ノ國法上「テリトリ」ト称スルヲ以テ本協約カ「ハワイ」ヲ包含スルヤ否ノ問題ヲ生シ又英國ヨリ云ヘハ英帝國ノ構成部分中何レカ mainland ト云フヘキヤニ付種々問題ヲ生スヘク適當ナル Formula ニ付テハ更ニ攻究セラレ度シト云ヒ幣原ハ篤ト熟考スヘキ旨ヲ約セリ右字句ニ対スル攻究ノ結果ハ追テ上申スヘシ

英仏ハ電報セリ

61 10年12月30日(着)

ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 伊国加入問題ニ関シバルフォアト会談ノ件

會議第三〇〇号

(十二月二十九日ワシントン發)

往電會議第二九九号「バルフォア」ト会見ノ際同氏ハ四国協約ニ伊国加入ノ問題ニ付昨日伊国首席全権ノ来訪ヲ受ケ極メテ不愉快ナル談話ヲ交ヘタリ伊国全権ハ協約發表前正文ノ内示ヲ受ケ満足ノ意ヲ表シタルニ拘ハラス今ニ至リ強硬ニ加入ノ申込ヲ為シ来ルハ本国政府ヨリ訓令アリタルモノト想像セラル尤モ伊国カ今回ノ協約ヨリ除外セラレタルニ関シテハ同情スヘキ点ナキニ非ストテ幣原ニ向ツテ何等考案アリヤト質問セリ依テ幣原ハ貴電第二二二号伊国大使ノ閣下ニ対スル談話ニ言及シタル上伊国全権ノ立場ニハ同情ヲ表スル次第ナルモ實際問題トシテ伊国カ如何ニシテ協約ニ加入シ得ヘキカ想像スルコト能ハス伊国ハ太平洋ニ領土ヲ有セス從ツテ本協約ノ何レノ個条モ其ノ儘伊国ニ適用シ得ルモノナシ條約ヲ全然改定シ全ク別個ノ基礎ヲ見出スニ非サル以上伊国ノ加入ハ到底問題トナリ得ヘキモノニ非スト思考スト答ヘタルニ「バルフォア」ハ其ノ通ナリト云

へリ

英仏伊ヘ転電セリ

62 10年12月30日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン会議全権宛(電報)

## 本土除外問題解決ノ形式ニツキ訓訓方要請ノ件

會議第二六七号(至急)

(六〇文書)  
貴電第二九七号ニ関シ

本件解決ノ形式ニ付テハ当方ニ於テモ篤ト攻究スルノ要アルニ付先方ヘノ回答ニ先チ請訓セラレタシ

英仏ヘ転電アリタシ

63 10年12月29日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン会議全権宛(電報)

## 日本本土除外ノ了解取付方訓令ノ件

會議第二六八号 極秘至急

四国条約適用区域問題ニ関シ閣議及外交調査委員会ニ於テ審議ノ上左ノ通決定セリ

貴電會議第二七六号ヲ以テ縷々御意見御来示ノ次第アルモ日本本土包含ニ付テハ往電會議第一九八号羅列ノ如キ種々ノ故障アルノミナラス一旦日本本土包含説ニ同意シタル後

(五二文書)

(三四文書)

万一米国上院ニ於テ日本本土除外ノ留保ヲ付シ本條約ヲ批准スルカ如キコトアラハ日本ハ自力ヲ以テ貫徹シ得サリシ主張ヲ米國ニ依リテ成立セシムルコトナリ恰モ我ニ獨立ノ定見無ク終始米國ニ追隨スルノ觀ヲ呈シ國民ノ感情益々面白カラサル結果ヲ招クヘシ殊ニ帝國トシテハ朝野ヲ挙ケテ到底我本土ノ包含ヲ承認スルコト能ハス此際是非共日本本土除外ノ了解ヲ遂ケ度キ決心ナリ然ルニ米國ニ於テハ大統領ハ一旦日本本土除外ノ解釈ヲ述ヘ而カモ其後米國全權ト協議ノ結果右解釈ノ取消ヲ公表スルニ至リタル行懸アリ今又之ヲ變更スルコトハ米國トシテモ困難ナル事情アルヘキニ依リ貴官ハ米國國務長官ニ対シ今回本國政府ヨリ特ニ訓令ニ接シタルコトヲ前置セラレタル上十二月十九日及ヒ二十一日幣原全權ニ対スル同長官陳述ノ次第ハアルモ日本政府トシテハ固ヨリ日本本土除外ヲ絶對的ニ希望シ居リ殊ニ最近國論ノ反對日々其度ヲ加ヘ来レル為本土包含ニ関スル各國全權間ノ了解ヲ是認シ能ハサル次第ナリ

然ルニ十二月二十四日幣原大使ト「バルフォア」氏會談ノ際同氏ハ英帝國及新西蘭島ノ國際的地位ニ累ヲ及ホササル

## 三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

限り日本本土除外問題カ如何ニ決定セラルルトモ毫モ異議ナキニ依リ日米兩國当局者間ニ適當ニ解釈案ヲ定メラレ度キ旨言明シ今ヤ「ヒューズ」氏ノ懸念シ居タル英國側ノ故障モ消失シ此上ハ一ニ米國妥協ノ態度如何ニ依リ解決ヲ見ルヘキ順序トナリタル処國務長官ニ於テハ單ニ米國ノミノ見地ヨリスレハ日本本土ノ除外セラルルト否トハ米國ノ利害ニ何等障礙ヲ及ホスモノニ非サルコトヲ曩ニ言明セラレタル次第モアリ比際我主張ニ同意セラルル様希望ニ堪ヘサル旨本土包含ニ同意スルガ為メ生スヘキ故障等可然御説明ノ上重ネテ懇談ヲ遂ケラレ且場合ニ依リ本條約ノ如キハ各締約國ニ於テ何等蟠リナク解決スヘキ性質ノモノナルノミナラス本問題ノ為メ此上紛糾ヲ重ネ之レガ為メ一般平和ノ樹立ヲ目的トスル華府會議ノ使命ニ累ヲ及ホスコトナルニ於テハ甚タ面白カラサル旨ヲ付言セラレ尚ホ先方ノ承諾ヲ得ルニ於テハ此点ヲ明カニシ後日ノ疑義ヲ避クル為其旨公文ニ記シ置キタキ旨併セテ申入レラレ度シ右公文ノコトハ十二月八日四國全權會合ノ節「ヒューズ」自身ヨリ發議アリタル次第故先方モ定メシ異存ナキコトト思ハル

尚本件ハ諸般ノ事情ニ照ラシ急速解決ヲ要スルニ付貴電

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

(五三文書)  
第二七七号末段續述ノ次第二ヨリ米国大統領ノ威信及其ノ対議會策ヲ取繕フ必要上不得止場合ニハ本土包含ノ件ハ一旦我全権限リニテ承認シ置キタルモ帝国政府ノ訓令ニヨリ更ニ之ガ除外ノ了解ヲ遂ケタルモノナルノ意味ヲ發表スル事ニ打合セラレ差支ナシ

右英仏ヘ転電アリタシ

64 10年12月30日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全権宛(電報)

日本本土除外ニ関スル別約締結ニツキ措置方

訓令ノ件

會議第二六九号(極秘至急)

(六〇文書)  
往電會議第二六八号發電後貴電會議第二九七号接到シタルニ付折柄開會中ノ外交調査委員會ニ付議シタル処「ヒューズ」ノ提議ハ要スルニ「インシュラー、ポゼッションズ」ノ内ニ日本本土ヲ包含ストノ解釈ハ其儘トナシ置キ新ニ日本本土除外ノ別約ヲ締結セムスルモノナルカ如ク若シ然リトセハ四国条約自体ハ其適用区域ニ日本本土ヲ包含スルモノトシテ一旦成立スルコトトナルヘキニ依リ帝国政府ニ於テハ到底批准ノ手續ヲ為スコト能ハス反之若シ右別約ニ

六四八

シテ「インシュラー、ポゼッションズ」ノ内ニ本土ヲ包含セサル旨ノ趣旨ヲ以テ四国条約ノ解釈ヲ定ムルニ止マルモノナルニ於テハ該別約ノ形式ニ就テハ条約協定又ハ公文交換ノ何レニ依ルモ差支ナク但シ該別約ノ形式内容等ニ関シ「ヒューズ」ト御協議ノ上ハ決定前予メ請訓ヲ要スト云フニ一決シタリ就テハ右様御含ノ上至急可然取計ハレ度ク尚ホ仏国側トハ本問題ニ関シ是迄何等御接觸無之ヤニ見受ケラルル処仏国側ニ於テハ此種ノ事柄ニ付相当敏感ナルヘキヤニ推想セラルルニ付仏国側ニモ事体ヲ説明セラレ其了解ヲ求メ置カルル方事ノ進捗上得策ナルヘキニ付是亦可然御措置アリタシ

65 10年12月30日(発) 内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全権宛(電報)

四国条約適用区域問題ニ関スル内地新聞ノ論

調通報ノ件

會議第二七〇号

(五八文書)  
四国条約適用区域問題ニ関シテハ当地新聞ハ依然大体往電會議第二五九号ト大同小異ノ議論ヲ繰返シ居ル処三十日ノ時事ハ其ノ社説ニ於テ太平洋ノ実情ニ鑑ミ本問題ノ如キハ

条約ノ實際的効用ヨリ見レハ大ニ力爭スル程ノ価値アルモノニアラスト述ヘ日本本土包含ニ対スル日米兩國輿論ノ反對竝此ノ種問題ニ関スル極端ナル言動カ国交上ニ及ボス惡影響ヲ叙シ實際上ニ重要ナラサル解釈上ノ疑義ノ為メ有害ナル誤解ヲ生セシムルカ如キハ拙策ノ最大ナルモノトシテ

關係國ハ急速ニ其ノ了解ヲ一ニセムコトヲ期スヘシト述ヘ政府ニ於テ日本本土ヲ含マスト解スルハ当ヲ得タル解釈ナルヲ以テ速ニ其ノ旨ヲ一般ニ宣言シ無用有害ナル物論ノ種子ヲ絶ツト共ニ此ノ方針ニ依リ四國間ノ完全ナル了解ヲ遂クルニ至ラムコトヲ切望スト論シ同日ノ万朝ハ「忘年トハ何カ」ト題スル社説中ニ於テ華府ニ於テ大屈辱ヲ受ケタル大正十年ノ如キハ忘ルルヘカラスト論セリ

66 10年12月30日(発) 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

日英同盟終結ニ関スル在本邦英國大使トノ往復書簡通知ノ件

別電一

十二月三十日内田外務大臣發在米國幣原大使宛電

報第六一九号

日英同盟終結ニ関スル在本邦英國大使ヨリ内田外務大臣宛書簡

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

二 十二月三十日内田外務大臣發在米國幣原大使宛電  
報第六二〇号

日英同盟終結ニ関スル内田外務大臣ヨリ在本邦英國大使宛書簡

第六一八号

在本邦英國大使ハ日英同盟ニ関シ十二月十七日附書翰ヲ以テ別電第六一九号ノ通り英國政府ノ挨拶ヲ伝達シ来リタルヲ以テ本大臣ハ二十七日書翰ヲ以テ別電第六二〇号訳文ノ通り帝國政府ノ挨拶ヲ同大使迄申入レ置キタリ

尚右往復文書ハ追テ適當ノ機會(例ヘハ米國ノ四国条約批准ノ上)ヲ俟テ英國政府ト交渉ノ上兩國政府同時ニ發表シタキ意向ナルニ付御含ミ置キアリタシ

別電ト共ニ欧州各大使ヘ郵送セリ

(別電一)

十二月三十日内田外務大臣發在米國幣原大使宛電報第六一九号  
日英同盟終結ニ関スル在本邦英國大使ヨリ内田外務大臣宛書簡

第六一九号

On the occasion of the signing of the quadruple treaty at Washington, His Majesty's Government desire

to record their sense of the valuable service which the Anglo-Japanese Alliance has rendered during nearly twenty years. They highly appreciate the loyalty shown by Your Excellency's Government to the close ties and obligations created by this Alliance, and they are profoundly gratified to see an Agreement which worked so well in the past, develop into a larger instrument of wider scope which will perpetuate the traditional friendship of our two countries and, in doing so, improve the good relations existing between all the four powers whose interests are predominant in the Pacific. Trusting that Your Excellency will share these sentiments, etc.

(別書11)

十二月三十日内田外務大臣発在米國幣原大使宛電報第六二〇号  
日英同盟終結ニ関スル内田外務大臣ヨリ在本邦英國大使宛書簡

第六二〇号

以書翰致啓上候陳者今般華盛頓ニ於テ四国条約ノ調印成リ  
日英同盟將ニ終レセムトスルニ當リ貴國政府カ過去二十年

and sincere words of appreciation transmitted through your Excellency in recollection of the valuable service rendered by the Anglo-Japanese Alliance, which is approaching its termination as consequence of signature quadruple treaty at Washington. The Japanese Government will always remember that the Alliance has constantly served as a bond of cordial relationship between the two countries and has played an important role in the preservation of the peace of the world. It is especially gratifying to the Government and the whole nation of Japan that through the trying moments of two great wars in the past, the Alliance has been loyally and scrupulously observed, not only in its letter, but also in its spirit, thus making invaluable contributions to the cause of justice and humanity, and has secured to both nations general recognition of their sincerity and fidelity with consequent enhancement of their prestige throughout the world. It is most sincerely hoped that the magnani-

間ニ於ケル該同盟ノ顯著ナル効績ヲ回想シ懇篤眞率ナル挨拶ノ辞ヲ帝國政府ニ寄セラレタルハ同政府ノ名ニ於テ本大臣ノ深ク感謝スル所ニ有之候

日英同盟カ久シク貴我兩國親交ノ連鎖ト爲リテ世界平和ノ維持ニ寄与スル所甚大ナリシコトハ帝國政府ノ永久ニ忘ルル能ハサル所ニ有之殊ニ本同盟カ過去ノ二大戦役ニ於ケル試験ニ際シ當ニ其ノ文字ニ於テノミナラス其ノ精神ニ於テモ忠実ニ嚴守セラレ其ノ結果正義人道ノ爲多大ノ貢獻ヲ爲シ兩國ノ信義ト威望トヲ普ク中外ニ宣揚スルヲ得タルハ帝國政府及國民ノ特ニ満足トスル所ニ有之候

帝國政府ハ茲ニ改メテ日英同盟ノ根柢タリシ兩國國民ノ高邁ナル精神ヲ追懷シ此ノ精神カ將來永遠ニ世界平和ノ基調トナリ殊ニ四國協商ノ指針タラムコトヲ衷心冀望致候  
此段回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

(右英文)

In the name of the Japanese Government, I have the honour to express most profound gratitude to His Britannic Majesty's Government for the cordial

mous spirit which has, to our proud recollection, been maintained by the two nations as a foundation of the Alliance, will remain as a basis of the permanent peace of the world, and, especially, as a guiding principle of the quadruple treaty.

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
67 11年1月1日(着)

四國協約適用地域ヨリノ日本本土除外論ニ対  
スル米國各紙ノ論調報告ノ件

會議第三二四号

我國ニ於テ四國協約ヨリ日本本土ヲ除外セムコトヲ希望シ居ル消息自然外間ニ洩レ結局四國間ニ公文交換ノ方法ニ依リ右解釈ノ一定ヲ見ルニ到ル可シトノ報道伝ヘラルルニ到リタル処二十八日新聞記者会見ノ際右ニ関シ種々質問アリ埴原ヨリ日本ノ輿論ハ日本本土包含ヲ以テ國家ノ威信ニ関スルモノト認メ強硬ニ反対シ居ル次第ヲ答ヘ置キタルニ二十九日ノ諸新聞ハ右会見記事ヲ掲載シ「ニューヨーク・タイムス」ハ特ニ社説ヲ掲ケ日本ニ於テ本土除外ヲ主張スルハ立派ナル態度ナリ日本ニシテ此ノ態度ヲ以テ山東問題ニ臨

マハ會議ノ進行ヲ助クヘシト述ヘ民主黨機關紙「ニューヨーク・ウォールド」モ同日社説ニ於テ「ロツヂ」カ当初日本本土包含ノ事實ヲ告ケサリシコトヲ攻撃シ日本カ今回本土除外ヲ主張シタル為メ四国協約ニ対スル反对者ヲシテ有力ナル辞柄ヲ失ハシメ以テ同条約ノ廢滅ヲ防キ米國ノ面目ヲ保ツコトヲ得ヘク重大ナル危機ハ日本ニ依リ救ハレタリト論シ更ニ三十日社説ヲ以テ日本ハ本土除外ヲ主張スルコトニ依リ負担ノ伴ハサル利益ヲ放棄セルモノナリトテ日本ノ態度ヲ賞揚シ「ベルサイユ」条約ヲ拒絕シ乍ラ該条約ニ基ク利益ノミヲ得ムトスル共和黨政府ノ態度ヲ非難セリ又三十日ノ「ニューヨーク・トリビューン」ハ社説ニ於テ日本本土除外ノ件ハ日本及米國ニ於ケル輿論ノ趨勢ニ鑑ミ何等カノ協定ヲ見ルニ到ルヘシ本件ハ元來國際の見地ヨリハ寧ロ兩國ニ於ケル内政上重要ナル事柄ニ付キ兩國國民ヲ満足セシムヘキ日本本土除外ノ協定ニ対シ同意ヲ与フルコト然ルヘシト論シタリ

在欧州各大使ヘ転電セリ

68 11年1月2日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

含ストノ解釈ヲ其ノ儘トシ新タニ日本本土除外ノ別約ヲ締結スルトキハ「四国条約自体ハ其適用範圍ニ日本本土ヲ包含スルモノトシテ一旦成立スルコトナルヘキニ依リ批准ノ手續ヲ為スコト能ハス」トアリ然ルニ日本本土ヲ適用区域内ニ包含セシムル了解ヲ以テ四国全權カ条約ニ調印シタルハ既成ノ事實ニシテ今更此ノ事實ヲ否定スルコトヲ得サルハ勿論他ノ一方ニ於テ本協約カ批准寄託ニ依リテ効力ヲ發生スルコトハ第四条ノ明記スル所ニシテ日本本土除外ノ協定ハ固ヨリ帝國ノ批准手續ニ先立チ之ヲ為ス筈(条約ノ認証謄本ハ漸ク両三日前國務省ヨリ接到直ニ郵送シタルモ東京着ハ一月末ナルヘク然ルニ除外ノ協定ハ数日中ニ之ヲ終ヘタキ考)ナルニ付日本本土ヲ適用範圍内ニ包含スヘキ協約ノ条項ハ全然効力ヲ生スルコトナクシテ終ルヘキ筋合ナリ日本本土包含ノ明確ナル了解ヲ以テ条約ニ調印シタルハ全然本委員等ノ責任ニ屬シ帝國政府トシテハ前記ノ如キ了解ニ基ク協約条項ノ効力發生ヲ事前ニ防止スルノ手段ヲ執ラルル次第ナルカ故ニ批准ノ手續ヲ為サルニ支障アルヘキ理由ナシト信ス

三、insular possessions ナル語ノ解釈ノミヲ改訂スルコト

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

日本本土除外ニ関スル日米交換公文ノ作成ニ  
ツキ稟請ノ件

別電一

ワシントン會議全權内田外務大臣宛一月二日着  
電報會議第三二六号

在米國幣原大使ヨリ米國務長官宛公文案

二

ワシントン會議全權内田外務大臣宛一月二日着  
電報會議第三二七号

四国本条約ニ付屬スベキ協定案

會議第三二五号

(大至急)

貴電會議第二六九号ニ関シ

一、十二月三十一日幣原「ヒューズ」ト会見シ全然個人ノ資格ニテ意見ヲ交換シタル末追テ幣原ヨリ大使ノ資格ヲ以テ別電甲号案文ノ書面ヲ國務長官ニ宛テ同官ヨリハ米國ノ關スル限リ異議ナキ旨ノ回答ヲ送り來ルコトニ一応打合ヲ遂ケタリ尤モ本使公文ノ字句確定前予メ帝國政府ニ請訓シテ其ノ承認ヲ受クルノ必要アルニ付右案文ハ差当リ幣原一個ノ試案ニ止マリ帝國政府ニ於テ之ヲ修正スルコトアルヘキ旨「ヒューズ」ノ了解ヲ得置キタリ就テハ何分ノ儀大至急御回訓ヲ請フ

二、貴電ニ依レハ insular possessions ノ内ニ日本本土ヲ包

ニ依リ本件ヲ解決セムトスルトキハ米國当局トシテハ意義ノ兩様ニ解セラルヘキ曖昧ナル條約ニ調印シタルコトナリ上院ノ協約反对論者ニ口実ヲ与ヘ批准ヲ困難ナラシムヘシトテ「ヒューズ」ハ之ニ同意セス尚同氏ノ説明ニ依レハ insular possessions ナル語ノ解釈ニ付國際法ノ權威タル「ルート」ニ調査ヲ依頼シタルニ「ルート」ハ右二語カ法律上ノ解釈トシテ当然日本本土ヲ包含スルコト一点ノ疑モ容レストノ意見ナリト云フ

四、同日「バルフォア」ニ邂逅ノ際別電案文ヲ内示セルニ同氏ハ一読ノ上何等異存ナシト云ヘリ仏國全權ニモ固ヨリ成ルヘク速ニ内談シ置ク考ナリ

五、前記第一項ノ公文ヲ米國政府ト交換シタル上(一)更ニ同文ノ公文ヲ英仏兩國代表者ト交換スルコトニ依リ問題ノ解決トナスカ或ハ(二)別ニ四国間ニ本条約ニ付屬スヘキ單簡ナル一ノ協定別電乙号ノ如キモノヲ設クルヤハ各關係國代表者ト意見交換ノ上ニテ決定スルコトト致度尤モ別電乙号ノ如キ協定ヲ四国間ニ調印スル場合ニ於テモ日米兩國間ニ別電甲号ノ公文ヲ交換シ置クコトハ右協定カ日本ノ發意ニ出テタル確實ノ証拠トシテ必要ナルヘシ

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

(別電一)

ワシントン会議全権内田外務大臣宛一月二日着電報会議第三二六号

在米国幣原大使ヨリ米国務長官宛公文案

会議第三二六号 別電 甲号(大至急)

Sir;

Referring to the question of the applicability to Japan proper of the term "insular possessions and insular dominions" used in the quadruple Treaty Signed in December 13, 1921, I have the honor to inquire, under instructions from my Government, whether there is any objection, so far as the United States is concerned, to the exclusion of Japan proper from the application of the term above quoted.

Accept, Sir. etc.

Zenken.

(右和訳文)

以書翰致啓上候陳者千九百二十一年十二月十三日調印ノ四国条約中ニ使用セル「島嶼タル屬地及領地」ナル用語ヲ日本本土ニ適用シ得ヘキヤ否ヤノ問題ニ関シ本官ハ米國ノ関

六五四

スル限リ上記ノ用語ノ適用ヨリ日本本土ヲ除外スルコトニ御異議無カルベキヤ承知致度本國政府ノ訓令ニ基キ右及照会候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

(別電二)

ワシントン会議全権内田外務大臣宛一月二日着電報会議第三二七号

四国本条約ニ付屬スベキ協定案

會議第三二七号 別電 乙号(大至急)

The United States of America, the British Empire, France and Japan, through their respective plenipotentiaries, have agreed upon the following stipulation supplementary to the treaty signed among them on December 13, 1921:

The term "insular possessions and insular dominions" used in the aforesaid treaty shall not be held to include the islands composing Japan proper.

Zenken.

(右和訳文)

亜米利加合衆國、英帝國、仏蘭西國及日本國ハ各々其全權

ニ依リ千九百二十一年十二月十三日右四国間ニ調印セラレタル条約ニ対スル左記ノ追加協定ニ同意セリ  
前記条約ニ使用セラレタル「島嶼タル屬地及領地」ナル用語ハ日本本土ヲ成ス島嶼ヲ包含スルモノト解釈セラルルコトナカルベシ

69

ワシントン会議全権ヨリ  
11年1月4日(着) 内田外務大臣宛(電報)

オランダ首席全権ヨリ太平洋方面ニ於ケル領

土權ノ相互尊重ニ関スルハ八カ国宣言案ヲ提案

ノ件

別電

ワシントン会議全権内田外務大臣宛一月四日着電  
報會議第三三二号

太平洋方面ニ於ケル領土權ノ相互尊重ニ関スルハ八カ  
国宣言案

會議第三三二一号

蘭國首席全権「カルネベック」ハ四国条約カ日英同盟ノ代リトシテ出来タル事態ヲ了解シ之ニ加入センコトハ申出テサルモ之ト同時ニ太平洋ニ重要ナル屬地ヲ有スル蘭國トシテハ右屬地ニ関シ何等カノ形式ニテ外國ヨリ保障ヲ得サル時ハ蘭國民ヲ失望セシメ外務大臣トシテノ立場モ困難ナリト

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ナシ此際蘭國ヲ包含スル一ノ協商ヲ遂ケタシトノ考ヲ以テ四国条約調印後間モナク本委員等ニ右ノ事情ヲ打開ケテ我意向ヲ探リ居リタリ同氏当初ノ考案ハ本會議參列國全体ノ間ニ極東及太平洋方面ニ於ケル領土權尊重ノ協定ヲ遂ケントスルニ在リテ之ニ対シテハ「カルネベック」來訪ノ際幣原一箇ノ意見トシテ第一ニ領土權尊重ノ点ハ既ニ國際連盟規約ニ規定アリ從テ參列九ヶ國間ニ協定ヲ結フ事ニ依リ蘭國ノ得ヘキ實益ハ単ニ連盟ノ一員タラサル米國ノ保障ニ止マルヘシ第二ニ蘭領印度ニ付列國ヨリ保障ヲ受クルハ恰モ蘭領印度ヲ以テ支那ト同一ノ地位ニ置クモノナルガ如キ感想ヲ蘭國民ニ与フルノ虞ナキヤトノ趣旨ヲ述ヘ置キタリ然ル処「カルネベック」ハ自國內政上ノ立場ヨリシテ当初ノ考ヲ抛タス十二月三十一日幣原ニ邂逅ノ際「ルート」ト相談シテ作製シタルモノナリトテ別電ノ案文ヲ内示セリ其際「カルネベック」ハ第一ニ伊太利等ハ極東ニ何等領土ヲ有セサルモ之ヲ除外スルコトハ同國等ノ國民の感情ヲ刺戟スヘキヲ以テ「國民ヲ通シテ太平洋方面ニ利益ヲ有ス」トノ見地ヨリ之ヲ入ルルコトトセリ第二ニ支那ニ付テハ其ノ領土主權其ノ他ノ尊重ニ付別ニ一ノ協約又ハ宣言ヲ為スノ案アル

六五五

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ニ依リ重複ヲ避クル為メ之ヲ除外セリト説明セリ  
本件ハ今後如何ニ發展スルヤ未定ナルモ早晚會議ノ問題ト  
シテ現ハルヘシト想像セラルルニ付何分ノ御意見至急御回  
示ヲ請フ

本電別電ト共ニ在欧州各大使在蘭西公使ヘ転電セリ

(別電)

フシントン會議全權發内田外務大臣宛一月四日着電報會議第三  
三二二号

太平洋方面ニ於ケル領土權ノ相互尊重ニ関スルハカ国宣言案

會議第三三二二号

The United States of America, Belgium, the  
British Empire, France, Italy, Japan, Netherlands and  
Portugal unite in the following declaration:

1. Each of the Powers aforesaid being the possession  
of territory or having through its nationals interests  
in the region of the Pacific Ocean, and being  
animated by the desire to promote good neighbor  
hood and enduring friendship among themselves.
2. Recognizing that their common policy with rela-  
tion to the Far East without any aggressive tenden-

cies aims at the peaceful maintenance of their  
respective rights.

3. Having taken notice of the declaration signed on  
this day by each of them as well as by the Re-  
public of China with regard to the independence  
sovereignty and territorial integrity of China and  
to their conduct in respect thereto.

4. Believing that a frank and unequivocal declara-  
tion of their common policy in respect also of  
their interests in the regions of the Pacific other  
than China will tend to promote a just sense of  
mutual confidence and security among the nations.
5. They declare that they are firmly resolved to  
respect and observe the territorial rights of each  
other in the regions above described.

Zenzen.

(右和訳文)

亜米利加合衆国白耳義国英帝国仏蘭西国伊太利国日本国和  
蘭国及葡萄牙国ハ左ノ宣言ヲ為スコトニ一致ス

日本本土除外ニ関スル付属協定修正案

會議第二八一号

(六八文書)

貴電會議第三二二五号御来示ノ次第ハ帝國政府ニ於テ篤ト攻  
究ヲ遂ケタルカ

(六八文書)

一 本件ノ解決方法トシテハ結局貴電第三二七号ノ条約付  
属協定ヲ設クルコトトシ且此協定ハ本条約ト同一ノ効力ヲ  
有スルモノナルコトヲ明記スルコト最モ適當ト思考スルニ  
付右様御処置アリタシ

二 貴電第二六九号ノ(一)ニ拠レハ日本本土包含ノ諒解  
ヲ以テ四国全權力条約ニ調印シタルハ既成ノ事実ナルカ故  
ニ此点ハ其儘トナシ置クノ外ナク別ニ付属協定ニ依リ右諒  
解ニ基ク協約条項ノ効力發生ヲ防止スルトキハ批准ノ手続  
上支障ナカルヘシトノコトナルモ予テノ訓令ニ依リ御承知  
ノ通帝國政府ハ日本本土ヲ協約適用区域外ニ置クノ主旨ナ  
リシヲ以テ帝國政府ノ関スル限りハ当初ヨリ此考ヲ以テ一  
貫シタルコトニスルニ非サレハ批准手続ヲ取計ヒ難キ事情  
アルニ付右御含ノ上貴電第三二二六号ノ「ヒューズ」宛公文  
ハ前記付属協定ノ案ト合致セシメ別電會議第二八二号ノ通  
修正スル様御取計アリタシ

70 11年1月4日(発)

内田外務大臣ヨリ

ワシントン會議全權宛(電報)

日本本土除外ニ関シ付属協定設定方訓令ノ件

別電

一月四日内田外務大臣発ワシントン會議全權宛電報

會議第二八二号

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

六五八

(別電)

一月四日内田外務大臣発ワシントン会議全権宛電報會議第二八二号

日本本土除外ニ関スル付屬協定修正案

會議第二八二号 別電

Referring to the question of the applicability to Japan proper of the term "insular possessions and insular dominions" used in the Quadruple Treaty signed on December 13, 1921, I have the honour to inquire, under instructions from my Government, whether there is any objection, so far as the United States is concerned, to the Term above mentioned being held not to include the islands composing Japan proper.

71 11年1月4日 (発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全権宛(電報)

日本本土除外ニ関スル日本政府ノ立場ニツキ

國務長官ノ了解ヲ求ムルヨウ要請ノ件

會議第二八二号(至急)

往電第二八一号ニ関シ

外務大臣伯爵 内田康哉

内閣總理大臣子爵 高橋是清殿

國際條約ニ於ケル帝國本土又ハ内地ノ解釈ニ関シ

閣議申請ノ件

別紙本件閣議案ハ法制局トモ協議シ其同意ヲ經タルモノニ有之候在華府全權ヘ電訓ノ要アルニ付至急右ニ関シ閣議御決定相成度此段稟申候 敬具

國際條約ニ関シ帝國本土又ハ内地ノ解釈ヲ一定ス

ル件

従来國際條約ノ適用地域ニ関シ帝國本土又ハ内地中ニハ台灣朝鮮等ハ慣行上之ヲ包含セシメサルモノトシテ取扱来リ現ニ最近万国郵便關係條約及労働關係條約ニ於テモ同一ノ主義ヲ執リタル次第ニ候処今回華府會議ニ於テ協定セラレントスル協約中ニハ初メテ「日本本土」又ハ「日本内地」トモ訳スヘキ Japan proper ナル用語ヲ掲クルコトニ相成從テ此際右用語ノ解釈ヲ明ニ確定スルノ必要ヲ生シ候就テハ「帝國ノ本土又ハ内地」トハ我國従来ノ慣行通り國際條約ノ關係ニ於テハ今日現ニ内地トシテ認メ居ル地域ヲ指スモノトシ台灣朝鮮樺太ハ本土又ハ内地ニ包含セサルモノ

三 太平洋ニ関スル四国條約ノ成立

本件ハ今後ノ成行如何ニ依リテハ内政問題トナリ條約ノ批准ヲ困難ナラシムルコト無キヲ保シ難キ事情アルニ付帝國政府トシテハ終始日本本土除外ノ主旨ヲ以テ一貫シタルモ偶々辭語ノ解釈上問題ヲ生シタル為メ別約ヲ設ケ其ノ主旨ヲ明カ為ラシメタルモノナリトシテ批准手續ヲ為ス積リナリ就テハ此ノ点ニ付「ヒューズ」ニ於テモ帝國政府ノ立場ヲ諒トシ右ニ異議ヲ唱フルコト無キ様其ノ了解ヲ求メラレ度ク尤モ米國政府ニ於テ對議會等ノ關係上必要アルニ於テハ條約調印當時ノ事情ヲ有リノ儘説明セラル、トモ帝國政府ニ於テハ異存無ク要スルニ斯カル矛盾ハ兩國政府ノ立場ノ異ルヨリ生スル已ム無キ事態ナルニ付其ノ辺十分説明ヲ尽クシ先方ノ了解ヲ得ル様御尽力相成リ度前電補足ノ為メ申進ス

72 11年1月6日

内田外務大臣ヨリ  
高橋内閣總理大臣宛

日本本土又ハ内地ナル語句ノ解釈ニ関シ閣議

申請ノ件

機密第一号

大正十一年一月六日

(関東州、帝國ノ受任地タル南洋諸島ハ勿論)トスルコトニ解釈ヲ一定シ今回華府會議ニ於テ締結セラルヘキ諸協約ハ右ノ原則ニ依リ解釋運用スルト共ニ将来國際條約締結ニ際シ同シク之ヲ基準トスルコトニ致度シ

編註 一月七日閣議決定

太平洋防備協定ノ適用範圍ニ関スル件

國際條約ノ關係ニ於テハ Japan proper ナル用語ハ我國從來ノ慣行通り今日現ニ内地トシテ同一ノ法制ヲ布ケル地域ヲ指スモノトスルコトニ今回廟議決定シタルヲ以テ過般日英米三国間ニ成立シタル海軍制限仮協定ノ太平洋防備ニ関スル條項中 islands composing Japan proper ナル字義ニ就テハ左ノ通り解釋ヲ定メ且之ニ関連スル必要ナル措置ヲ執ルコトト致シ度シ

一 前記防備ニ関スル條項ノ適用ヲ受クヘキ島嶼ハ台灣及澎湖島ノミナルコト

二 奄美大島及小笠原父島ハ右條項ノ適用ヲ受クヘキ範圍ニ属セサルモ帝國政府ハ右二島ノ防備ニ関シ自発的行爲トシテ現状ヲ維持シ築造工事ヲ中止スルコト

三 以上ノ趣旨ハ必要ニ応シ帝國政府ヨリ声明スルコト

六五九

## (欄外註記)

一月七日ノ閣議ニ於テ本件決定ニ先立テ華府會議ニ問合ハスコト可然決定ノ由

73 11年1月11日(着)

在オランダ国田付公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国協約ニ関シオランダ全権カルネベーク同  
国テレグラマーフ新聞通信員ニ語リタル談話報  
告ノ件

第一号

(一月十日ヘーグ発)

蘭国全権「カルネベーク」カ米國ヲ去ルニ臨ミ当國「テレグラマーフ」新聞通信員ニ語リタリト同紙ニ記載セル通信中大要左ノ數節アリ

日本從來ノ政策ニ就テハ各國代表者ニ於テ之ガ了解ニ相当ノ困難ヲ感シタル次第ナルカ數世紀ニ亘リ日本ト友好關係ヲ保チ來レル蘭國ハ同會議ニ於テ主要ナル支那問題ニ對シ相當説明ヲ与フル好機會ヲ得タリ極東問題ノ解決ハ独リ日本ノ協力ニ俟タル可カラス而シテ同問題ニ関スル日本ノ政策ヲ考察スルニ方リテハ支那内部ニ於ケル政治經濟及財政狀態ノ不安ハ決シテ之ヲ度外視スルコトヲ得ス

太平洋ニ関スル四国協約ニ関シテ同氏ハ蘭國カ右協約ニ入ル可キ様招請ヲ受ク可シトハ始メヨリ期待セサリシ所ナリ右協約カ相當努力ノ結果ナルハ勿論ナルモ右以外他ニ方法アリタルヤニモ考ヘラレサルニアラス兎モ角右四国協約ハ蘭領東印度ニ近接スル諸國間ノ平和ヲ保障スルモノナルカ故ニ總体ニ之ヲ贊成スト云ヘリ尚右協約ニ就イテ氏ハ其成立ス可キヤ否ヤヲ疑フモ本件ニ関スル華府會議ノ結果ニ就イテハ蘭國亦自ラ利スル所アル可キヲ疑ハスト云ヘリ

米ヘ転電

74 11年1月12日(着)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全権宛(電報)

オランダ首席全権ノ八ヶ国宣言案ヲ不成立ニ  
導クヨウ指示ノ件

第二九八号(至急)

(一月十一日ワシントン発)

貴電第三三二一号ニ関シ御承知ノ通和蘭ハ蘭領東印度ニ関シ常ニ帝國ニ對シ一種ノ疑心ヲ有シ居ルヲ以テ本件ノ如キ協商ノ成立ヲ希望スルモノナルヘク從テ「カーネベーク」ハ本国内政上ノ立場ヨリ之ヲ提議シタルモノト思ハルル所該案ニ依レハ伊白ノ如ク極東及太平洋ニ領土ヲ有セサル國ヲ

モ参加セシムルコトナリ且若シ本件協商ニ所謂「テリトリアン、ライツ」中ニ日本本土ヲ包含スルモノトセハ日本ハ其本土ノ安全ニ對スル保障ヲ本件協商ニ求ムル形トナリテ面白カラサルノミナラス(尤米國本土モ同時ニ包含セララルコトトナルトスルモ實際上米國ノ關係ハ極メテ稀薄ナルヘシ)本件ノ如キ協商成立スルニ於テハ自然四国條約ノ効力ヲ薄弱ナラシムヘキニ依リ帝國政府トシテハ本件協商ノ成立ヲ希望セサル次第ナリ尚又英米兩國ニ於テモ未タ真面目ニ之ヲ取扱ハサル様ニ思ハルルノミナラス「カーナベック」自身モ既ニ歸國ノ途ニ上リタル今日或ハ問題トナルコトナクシテ終ルヤモ計リ難キモ今後ノ成行ニ付テハ充分注視セラレ成ルヘク其成立セサル様仕向ケラルルト同時ニ其経過ニ付テハ隨時電報セラレタシ

75 11年1月12日(着)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全権宛(電報)

會議折衝ニ於ケル我政府ノ態度ニツキ指示ノ件

會議第三〇六号 至急極秘

會議開始以來閣下等ニ於テ昼夜内外ノ折衝ニ苦心ヲ重ネ居ラル、次第ハ政府ニ於テモ深ク之ヲ諒察スル処ナルガ申ス迄モナク各種案件中帝國ニ取り極メテ重大ナル利害關係ヲ

有スルモノ渺カラザル処從來ノ経過ニ顧ミルニ他國側ニ於テハ或ハ全權ノ出発又ハ其他ノ理由ヲ以テ我方ニ迫リ為之我方ヲシテ十分ナル考慮ヲ遂クルノ余裕ナカラシムルノ嫌アリタル場合モ有之又今回ノ會議ヲ機トシテ是非其話ヲ纏メムトセバ勢ヒ多大ノ犠牲ヲ余儀ナクセラル、場合モ可有之然ルニ政府トシテハ國家重大問題ヲ処理スルニ當リ独リ現在ノミナラス將來ニ於ケル利害得失ヲ篤ト考慮スルヲ要スルハ勿論國民ノ感情其他ノ關係ヲモ顧慮スルノ必要アルハ爰ニ言及スル迄モ無之政府トシテハ当初訓令ニ及ヒタル通り今回ノ會議ヲシテ功果アラシメ帝國ノ國際間ニ於ケル地歩ヲ向上セシメ度所存ニテ從テ得出来丈妥協交譲ノ精神ヲ以テ措置シツツアル次第ハ御承知ノ通りナルガ妥協交譲モ自ラ程度アルハ申ス迄モ無之旁々閣下等ノ努力ト苦衷トハ諒察スル処ナルモ單ニ他國側ノ都合ニ依リ急速決定スルガ如キ又ハ程度ヲ超ユルノ讓歩ヲ敢テシテ迄モ此際話ヲ纏メムトスルガ如キハ之ヲ避ケ度意向ナルニ付固ヨリ御如才ハナキモ此辺篤ト御留意ノ上此上其御尽瘁アラム事ヲ希望ス

76 11年1月15日(着)

ワシントン會議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

## 困難ナル状況下任務遂行ノ所信表明ノ件

會議第四一七号(至急極秘)(一月十四日ワシントン発)  
 貴電第三〇五号同第三〇六号御訓令ノ趣敬承會議ニ於ケル  
 各種案件中我國ニトリ極メテ重大ナル利害關係ヲ有スルモ  
 ノ少カラザルノ事實ハ本全權等ニ於テモ篤ト承知致シ居リ  
 微力乍ラ日夜最善ヲ尽シテ重任ニ背カザラムコトヲ期シ居  
 ル次第ニ有之苟モ国家重大問題ヲ処理スルニ當リ深ク其利  
 害得失及国民感情ヲ考慮スルコトナク妄リニ他ノ都合ニ追  
 從セムトスルガ如キハ不敏乍ラ本全權等ノ念頭ニ浮バザル  
 トコロナリ唯本會議ノ如キハ普通ノ外交案件ノ交渉ト趣ヲ  
 異ニシ欧米諸國ノ全權委員孰レモ自己ノ責任ヲ以テ各種ノ  
 案件ニ對スル意見ヲ即決スルヲ常トス加之昨今會議内外ノ  
 情勢ニ照ラシ遲延ノ為ニ自然ニ生ズルコトアルベキ不測ノ  
 故障ヲ避ケムトスルハ当地ニ於ケル會議關係各方面ニ於ケ  
 ル有識者一般ノ希望ナリ然ルニ日本独リ此大勢ニ反シ事毎  
 ニ請訓ノ必要アリトシテ少カラザル時日ノ猶予ヲ要求スル  
 コトハ實際困難ナル場合アルノミナラズ仮ニ其困難ハ忍ブ  
 トスルモ為ニ之迄我政府ノ賢明公正ナル方針ト各方面トノ  
 理解アル協力トニ依リ当會議開会以來欧米特ニ米國方面ニ

## ノ結果付屬協約案ノ修正ニ関シ請訓ノ件

別電

ワシントン會議全權發内田外務大臣宛一月十六日着  
 電報會議第四二五号  
 四国条約適用地域問題ニ関スル付屬協約案

會議第四二四号(大至急極秘)(一月十五日ワシントン發)  
 四国条約適用地域問題ニ就テハ其後幣原ヨリ「ヒューズ」  
 ト會議ノ際一兩回言及セルトコロアリタルモ双方共日夜多  
 忙ノ為懇談ノ機會ヲ得ス一月十四日ニ至リ國務省ニ於テ會  
 見シ先ツ幣原ヨリ付屬協約案トシテ別電案ヲ提出シタル上  
 大要左ノ通意見ノ交換ヲ遂ケタリ

一、「ヒューズ」ハ本文中 shall not be held to include  
 トアルハ明ニ insular possessions and insular domin-  
 ions ナル字句ノ解釈ヲ定ムルコトヲ示スモノニシテ即  
 チ二個ノ全然異リタル意味ニ解釈スルノ余地アルカ如キ  
 漠然タル字句ヲ條約中ニ用ヒタルコトヲ公然告白スルコ  
 トトナルヘク之カ為條約反對論者ニ口実ヲ与ヘ当國上院  
 ニ於ケル條約批准決議ニ惡影響ヲ及ホスヘシトノ前説ヲ  
 繰返シタルニ付幣原ヨリ右「ヒューズ」ノ意見ハ日本政  
 府ヲシテ極メテ困難ナル立場ニ立たシムルモノナリトテ

於テ著シク改善シ来リタル對日感情ヲ逆転セシメ再ビ我國  
 ニ對スル無用有害ノ疑惑ヲ誘起シ引ヒテ差當リ當會議ニ於  
 テハ勿論更ニ將來ニ亘リ我國國際の立場ニ累ヲ殘スノ虞少カ  
 ラサルヲ憂慮セザルヲ得ズ元來政府ハ今回ノ會議ヲ利用シ  
 テ日米ノ國交ヲ改善シ併セテ我一般ノ國際關係ヲ有利ナラ  
 シムルヲ本全權等ノ最重要ナル任務ノ一トシテ訓令セラレ  
 タルニ顧ミ本全權等ハ我國家耐久ノ利益ト威嚴トニ反セザ  
 ル限り右任務ノ遂行ニ百方苦慮シツツアル次第ニシテ之ガ  
 為請訓ノ暇ナキモノニ就テハ充分責任ヲ覺悟シ臨機必要ノ  
 裁量ニ依リ機宜ノ処置ヲ執リ来リタルハ万已ムヲ得ザルニ  
 出デタルコト御賢察ヲ請フノ外ナシ本全權等不才ニシテ終  
 ニ今回ノ如キ嚴重ノ御訓令ヲ煩ハスニ至リタルハ恐縮ニ堪  
 ヘズ右御訓令ノ趣旨ハ謹テ之ヲ奉ズルト同時ニ又徒ニ大勢  
 ニ逆行シ若クハ遷延機宜ヲ失シ國家百年ノ憂ヲ殘スガ如キ  
 コトハ飽迄之ヲ避クルニ努ムルコト本全權等ノ義務ナリト  
 確信ス

77 11年1月16日(着)

ワシントン會議全權ヨリ  
 内田外務大臣宛(電報)

## 四国条約適用地域問題ニツキヒューズト會談

貴電ノ事實ヲ詳細説明セリ「ヒューズ」ハ同情ヲ以テ此  
 説明ヲ聴取リ我等ハ共ニ意外ノ難局ニ陥リタリ即チ若シ  
 條約文ノ解釈ヲ定ムルノ方針ヲ執ル時ハ米國上院ノ批准  
 決議ニ累ヲ及ホスヲ免レス若シ又新付屬協約ヨリ日本本  
 土ヲ除外スルノ方針ヲ執ル時ハ日本ニ於ケル批准手續ニ  
 妨アリ就テハ兩者ノ折衷トシテ shall not be held to  
 include shall not include ト協定シテハ如何蓋シ單  
 簡ニ insular possessions and insular dominions ナル  
 字句カ日本本土ヲ含マスト云フ時ハ右字句ノ解釈ヲ定メ  
 タリトモ見ラルヘク又他ノ一方ヨリスレハ此協定ニ依リ  
 日本本土ヲ除外セリトモ見ラルヘシ此折衷案ニ依リ日米  
 兩國共ニ適當ノ裁量ヲ用ヒテ夫々自國ノ批准ヲ促進スル  
 ノ外ナキカ如シト云ヘリ幣原ハ右「ヒューズ」ノ提案ニ  
 一応ノ理由アリト思考セルヲ以テ尚熟考スヘキ旨ヲ約シ  
 置キタリ

二、次ニ「ヒューズ」ハ Islands composing Japan proper  
 ナル字ニ注意シ例ヘハ小笠原島ノ如キ遠隔ノ島嶼カ「ジ  
 ャパン、プロパー」ノ一部タリトハ元來自分等ノ夢ニモ  
 思ヒ及ハサリシ所ナルカ此点ハ過般海軍防備問題ニ關連  
 シテ料ラスモ問題トナリ初メテ日本側ノ解釈ヲ聞キ一驚

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

ヲ喫シタル次第ナルカ恐ラクハ欧米一般ニ「ジャバン、プロパー」ノ内ニ小笠原島ノ如キ遠隔ノ島嶼ヲ含ムモノト了解スルモノハ稀ナルベシ素ヨリ四国条約ノ適用地域ニ小笠原島又ハ琉球諸島ヲ包含スルト否トハ米國ノ利害ニ関スルモノニアラス唯世人一般ニ誤解ヲ来スノ虞アル「ジャバン、プロパー」ナル語ヲ新協約ニ用ユルコトハ既ニ一旦海軍防備問題ニ関シ議論ヲ生シタル今日又々必ス物議ヲ惹起スヘシ就テハ新協約中ニハ其ノ實際ノ適用上一点ノ疑問ヲ生セサル字句ヲ精選スルコトヲ要ス之カ為ニハ日本本土ヲ構成スル諸島ノ名称ヲ一々列記スルカ或ハ経緯度ヲ以テ日本本土ノ地域ヲ限定スルコトモ一案ナルヘシト云ヘルニ付幣原ハ日本本土諸島ノ名称ヲ列記スルカ如キハ徒ニ洪瀚ナル規定ヲ設クルモノニシテ不能ナルヘク又経緯度ヲ以テ日本本土ノ地域ヲ限定スルノ案モ却テ日本國民ノ感情ヲ益々刺戟スルニ止マリ是又到底行ハレ難シト答ヘタルニ「ヒューズ」ハ之ヲ首肯シ自分ノ最モ重キヲ置クハ世人一般ノ誤解ヲ防クニ足ルヘキ明確ナル字句ヲ用ユルニアリ其ノ字句ニ至リテハ貴官ニ於テ適當ニ起案セラレンコトヲ望ムト述ヘタリ

不利ナル結果ヲ来スコトヲ危惧スルノ理由ナカルヘク却ツテ我ニ有益ナル場合モアルヘシ又第二案ハ日本ニ関スル限リ条約適用地域ヲ列挙スルモノナルヲ以テ体裁上幾分力耳障ノ感アルモ日本本土全部ヲ除外スルノ点ニ於テ我世論ヲ満足セシムルニ足ルコトト思考ス此点ニ付何分ノ儀折返シ御回訓ヲ請フ

(別電)

ワシントン會議全權内田外務大臣宛 一月十六日着電報會議第三四二五号

四国条約適用地域問題ニ関スル付屬協約案

會議第四二五号 (大至急)

The United States of America, the British Empire, France and Japan, have through their respective plenipotentiaries, agreed upon the following stipulations supplementary to the treaty signed among them at Washington on December 13, 1921.

The term "insular possessions and insular dominions" used in the aforesaid treaty shall not be held to include the islands composing Japan proper.

This agreement shall have the same force and

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

六六四

三、本件付屬協約ヲ四国首席全權會議ノ議ニ付スルニ先チ我方ヨリ「ヒューズ」ニ送ルヘキ公文案ニ付テハ貴電會議第二八二号別電末段ノ字句ヲ前記付屬協約ノ字句ニ合致スル様修正ヲ要スルノ外「ヒューズ」ニ於テ何等異議ナキコトヲ確メタリ

以上「ヒューズ」ト会谈ノ結果本委員等ノ熟考スル所ニテハ付屬協約本文案中 The term "insular possessions and insular dominions" used in the aforesaid treaty 以下 Japan proper 迄ヲ左記二案ノ何レカニ修正スルノ外ナカルヘシ

(第一案) shall not include the four main islands of Japan proper.

(第二案) shall, in its application to Japan, include only Saghalien, Formosa and the Pescadore Group, and the island under the mandate of Japan.

右ノ中第一案ニ依レハ千島小笠原島琉球諸島等ハ布哇比律寶濠州「ニュージラランド」ト等シク条約適用地域内ニ入ルコトナルヲ以テ或ハ尚ホ我一部世論ノ不滿ヲ全ク除クニ足ラサルヤモ計リ難キモ文字簡單ニシテ事実上毫モ我ニ

effect as the treaty to which it is supplementary.

Zenzen.

(右和訳文)

亜米利加合衆國、英帝國、仏蘭西國及日本國ハ各々其ノ全權ニ依リ千九百二十一年十二月十三日華盛頓ニ於テ右四國間ニ調印セラレタル條約ニ對スル左記ノ追加協定ニ同意セリ

(欄外註記)

前記條約ニ使用セラレタル「島嶼タル屬地及領地」ナル用語ハ日本本土ヲ構成スル島嶼ヲ包含スルモノト解釈セラルルコトナカルベシ

本協定ハ前記條約ノ追加トシテ之ト同一ノ効力及効果ヲ有スルモノトス

(欄外註記)

「第一案 日本本土中四大島嶼ヲ包含セサルモノトス  
第二案 日本ニ對スル適用ニ於テハ単ニ薩加連、台灣及澎湖諸島並日本ノ委任統治ニ屬スル諸島ノミヲ包含スルモノトス」

78

11年1月19日(着) ワシントン會議全權ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

六六五

太平洋方面ニ於ケル領土権ノ相互尊重ノ八カ国

宣言案ニ関スルヒューズノ談話報告ノ件

別電

ワシントン会議全権発内田外務大臣宛一月十八日着  
電報會議第四四号

カルネベックガ新タニヒューズニ提出シタル八カ国

宣言案

會議第四四三号

(一月十八日ワシントン発)

(六九文書)

往電會議第三三二号ニ関シ

幣原一月十四日「ヒューズ」ト面会ノ節和蘭ノ希望スル協定  
案ノ成行ニ付質問シタルニ「ヒューズ」ハ曩ニ「カルネベ  
ック」ガ提出セル宣言案ハ到底米國上院通過ノ望ナキ旨ヲ  
「カルネベック」ニ説示シ置キタルニ「カ」ハ歸國ノ前日  
「ヒューズ」ヲ来訪シ別電會議第四四四号案ノ如キ公文ヲ在  
海牙四國代表者ヨリ更ニ蘭國政府ニ送ラレンコトヲ希望ス  
ル旨ヲ申出デタルガ自分トシテハ如斯キ公文ナラバ特ニ必  
要又ハ有益トモ思考セザルモ亦去リトテ何等反対スベキモ  
ノニモ非ラズ且「カルネベック」ノ立場モ同情スベキ所有  
リト思ハルルニ付之ニ同情シタキ意嚮ナリト言ヘリ尚一月  
十六日幣原ニ邂逅ノ際「ヒューズ」ハ右公文案中 forestall  
any conclusion to be reached to prevent any inference that

region of the Pacific Ocean therefore not being  
included in the agreement referred to, the Govern-  
ment of the United States of America, anxious to  
forestall any conclusion contrary to the spirit of the  
treaty, desires to declare that it is firmly resolved  
to respect the rights of the Netherlands in relation  
to their insular possessions in the region of the  
Pacific Ocean.

在欧州各大使  
在蘭西各公使

へ転電セリ

Zenken.

(右和訳文)

亜米利加合衆國ハ千九百二十一年 月 日ヲ以テ英帝國、  
仏蘭西國、日本國ト大局ノ平和ヲ確保シ且ツ太平洋方面ニ  
於ケル各自ノ島嶼タル屬地及ヒ領地ニ関スル各自ノ權利ヲ  
維持スル目的ヲ以テ条約ヲ締結セリ各締約國ハ是ニ依リテ  
此等ノ屬地及ヒ領地ニ関スル各自ノ權利ヲ尊重スルコトヲ  
相互ニ約定セリ

和蘭國ハ前記条約ノ署名國ニ非ス又從テ太平洋方面ニ於ケ  
ル和蘭國ノ屬地ハ前述ノ約定中ニ包含セラレサルニ依リ亞

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

語ニ改ムルコト適當ナルベシトノ意見ヲ内話セリ追テ本件  
ハ蘭國委員ヨリ申出ズルコトモ有ルベキニ付何分ノ御意見  
至急電報ヲ請フ(終)

在欧各大使在蘭西各公使へ転電セリ

(別電)

ワシントン會議全権発内田外務大臣宛一月十八日着電報會議第  
四四四号

カルネベックガ新タニヒューズニ提出シタル八カ国宣言案

會議第四四四号 別電

The United States of America have concluded  
on.....1921 with the British Empire, France and  
Japan a treaty with a view to the preservation of  
the general peace and the maintenance of their  
rights in relation to their insular possessions and  
insular dominions in the region of the Pacific Ocean.  
They have agreed thereby as between themselves to  
respect their rights in relation to these possessions  
and dominions.

The Netherlands not being a signatory to the  
said treaty and the Netherlands possessions in the

米利加合衆國政府ハ何等該条約ノ精神ニ反スル論結ノ生ス  
ルヲ予防スルコトヲ切望シ太平洋方面ニ於ケル和蘭國ノ島  
嶼タル屬地ニ関スル同國ノ權利ヲ尊重スルコトヲ固ク決意  
セル旨宣言セント欲ス

79 11年1月20日(発)

内田外務大臣ヨリ  
ワシントン會議全権宛(電報)

適用地域列挙案ニ同意方訓令ノ件

會議第三三四号

(七七文書)

貴電第四二四号末段ニ関シ第二案適用地域列挙案ニ依リ話  
ヲ纏ムルコトニ同意スヘキニ付其御含ヲ以テ至急取纏メラ  
レタシ

(欄外註記) 大正十一年一月二十日外交調査会決定

80 11年1月27日(着)

ワシントン會議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

幣原提示ノ四国条約付属協定案ニ対シ英米仏

全権回答ノ件

會議第五一八号

(七九文書)

貴電會議第三三四号ニ関シ

一月二十四日午前幣原ヨリ「ヒューズ」ニ対シ會議第四二二

(七七文書)

四号第二案ヲ提示シ置キタルニ同日午後「ヒューズ」ハ米  
国側ニ於テモ「バルフォア」氏ニ於テモ右案ニ同意ナリト  
語レリ尚仏国側ニ就テハ貴電第二六九号接受後間モ無ク幣  
原ヨリ「ジュスラン」ニ対シ本問題ニ対スル意嚮ヲ問ヒタ  
ルニ「ジュ」氏ハ自分トシテハ趣旨ニ異存無キモ一応本  
政府ノ意嚮ヲ確メ置ク可シト答ヘタルカ二十四日午後「ヒ  
ューズ」ヨリ「ジュスラン」及「サロー」諸氏ニ乙号案ヲ  
示シタルニ両氏ハ自分ノ関スル限り之ニ異存無キモ本  
府ヨリ未タ何等意嚮ヲ回報シ来ラサルニ付キ電報ニテ問  
合ノ上確答シ度シト述ヘタル趣「ヒューズ」ヨリ通知有リ  
タリ（前記会議第四二四号ハ往電会議第三二五号別電乙号  
ナリ）  
英仏ヘ転電セリ

81 11年1月27日（着）  
ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

オランダ、ポルトガル兩國ニ対シ太平洋方面  
ニ於ケル領土權ノ相互尊重ニ関スル宣言ノ公  
文送付ニヒューズ異議ナキ旨表明ノ件  
會議第五二〇号

83 11年1月27日（着）  
ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

日本本土除外ニジュスラン仏全權同意ノ件  
會議第五三五号  
往電會議第五一八号ニ関シ

今二十五日「ジュスラン」幣原ニ対シ本土除外ニ対シテハ  
自分等全權ノ責任ヲ以テ調印スヘシト申出テタルニ付キ幣  
原ヨリ其ノ旨「ヒューズ」ニ通知シタルニ「ヒューズ」ハ  
然ラハ至急調印ノコトニ取運フヘシト云ヘリ尚往電會議第  
五二〇号葡萄牙ヘノ通告ハ仏国ニ於テ同意ナル旨「ジュス  
ラン」ハ語レリ  
英仏ヘ転電セリ

84 11年2月4日（発）  
内田外務大臣ヨリ  
在オランダ国田付公使宛（電報）

領土權尊重ニ関スル宣言文オランダ、ポルトガ  
ル兩國ニ送付方訓令ノ件

第四号（至急）  
華府會議全權発本大臣宛會議第四四三号及第五二二号ニ関  
シ  
（七八文書）  
第四四四号公文ハ第五二二号ノ修正ヲ為サス原文ノ儘蘭国

往電會議第四四三号ニ関シ二十四日「ヒューズ」ハ幣原ニ  
対シ米国政府ハ蘭国ニ対スル公文送付ニ異議ナシ又英仏側  
ノ意嚮ヲ確メタルニ兩國共同意ノ趣ナリト語リ尚ホ蘭国ニ  
対シ右公文ヲ送ル以上葡萄牙ニ対シテモ同様ノ通告ヲナス  
コト至当ナルヘシト語レリ以上ニ関シ至急何分ノ御意見電  
報ヲ請フ  
在欧州各大使ヘ転電シ蘭西ヘ郵報セリ

82 11年1月27日（着）  
ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

領土權ノ尊重ニ関スル宣言ノ公文ニオランダ  
ノ原案採用方ヒューズ希望ノ件  
會議第五二二号  
往電第四四三号ニ関シ  
（七八文書）

「カルネベック」提案中 to forestall any conclusion ナ  
ル句ヲ改ムルコトハ余リニ微細ナルコトナルニ付矢張「カ  
ルネベック」ノ原案ヲモ其儘採用スルコトトシタキ旨「ヒ  
ューズ」ヨリ話アリタリ

及葡国政府ヘ夫々当該国駐在四国公使ヨリ送致スルコトニ  
今回協定ヲ見タルニ付責任国駐在英仏米三国公使ト連絡ヲ  
取至急右様取計ラハレタシ  
右本大臣ノ訓令トシテ在西公使ヘ転電シ参考トシテ在欧米  
各大使ヘ転電アリタク尚ホ在西公使ヘハ華府全權來電第五  
二二二号ヲモ転電セラレタシ

85 11年2月9日（発）  
内田外務大臣ヨリ  
ワシントン会議全権宛（電報）

伊国政府四国条約加入ヲ切望ノ件  
會議第四〇七号

二月六日別用ヲ以テ來訪ノ際伊国大使ハ本大臣ニ向ヒ伊国  
ノ四国条約加入問題ノ成行ハ御承知ノ通りナル処伊国政府  
ハ是非トモ之ヲ実現シ度キ希望ニテ伊国ハ太平洋ニ領土ヲ  
有セサルモ旧独領植民地カ一括シテ一旦五大国ニ讓渡セラ  
レタル關係上委任統治ノ島嶼ニ付テハ他ノ四国同様其平和  
維持ニ關係ヲ有スル次第ナリ又其ノ加入ノ方法トシテハ必  
スシモ四国条約ニ加入調印スルニ及ハス四国ヨリ伊国ニ公  
文ヲ送り伊国加入ノコトトナスモ差支ナク実ハ在華府伊国  
全權ヨリ本件ニ付「ヒューズ」ニ懇談ヲ試ミタル処先方ハ

当初躊躇ノ色アリタルカ結局日英兩國ニ於テ異存無クハ強ヒテ反対セサル意嚮ヲ漏シタリトノコトニ付帝國政府ノ同意ヲ切望スト述ヘタリ依テ本大臣ハ本件ニ付テハ考量スヘキ旨ヲ告ケ置キタルカ「ヒューズ」ニ於テ果シテ右様ノ言明ヲ伊国全權ニ与ヘタルコトアリヤ御問合ノ上結果回答アリ度シ本電為參考英仏伊ヘ転電アリ度シ

86 11年2月11日(着) 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英國國王ノ勅語ニ対スル同国外務大臣ノ奉答

ニツキ報告ノ件

第六九号

(二月九日ロンドン発)

往電第六六号ニ関シ

上下両院トモ七日直ニ勅語奉答ニ関スル討議ヲ開始シタルガ外務大臣ハ上院ニ於ケル演說中四国協定ニ関シ日英同盟從來ノ効果ヲ讚美シタル後 Nevertheless it was felt in many quarters with force that the Alliance had served its purpose. The conditions which called it into being originally had ceased to exist and undoubtedly its continuance set up a formidable barrier

to the friendship between the United States and Japan just as also in an indirect sense it was a barrier to a complete harmony between the United States and ourselves. That barrier has now been removed.云々ト一節アリ新協定ノ日英關係ニ及スベキ影響ニハ何等言及セズ又下院ニ於ケル首相ノ演說中ニハ華府會議ノ成果ニ関スル一節ハアルモ四国協定ト日英同盟等トノ關係ニハ一切言及セザリキ蓋シ皇帝ノ勅語ハ充分推蔽ヲ經タル最「フォーマル」ナル政府ノ宣言ト認ムベク首相外相ノ演說ハ自然論点多岐詳細ニ亘リ且一字一句推蔽ヲ遂ゲタルモノニモ非ズ就中首相ノ分ハ主トシテ政府ニ対スル攻撃ヲ弁明反駁スル方面ニ力ヲ用ヒタルガ為事茲ニ至リタルニ過ギズトハ存ゼラルルモ一面偶々日英同盟ニ対スル英國現政府筋乃至國民ノ意向ガ不知不識ノ間ニ表示シタルモノトモ觀察セラルルニ付御參考迄電報ス

87 11年2月11日(着) 在オランダ國田付公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

領土權尊重ニ関スル宣言文オランダ外相ニ交

付ノ件

付記

太平洋方面ニ於ケルオランダノ島嶼タル屬地ノ權利尊重ニ関スル声明

第一一号

(二月十日ヘーグ発)

貴電第五号ニ関シ帝國政府ノ宣言文ハ全權閣下宛會議第(七八文書)四四四号中冒頭米國政府トアルヲ The Japanese Empire ト改メ他ハ何等ノ變更ヲ加ヘス之ヲ別紙トシテ別ニ認メタル二月五日付外務大臣宛公文ニ添付シ大臣ニ交付シタリ尚ホ右我方公文ハ在蘭英國公使宣言ト同文ナリ但シ同公使ハ宣言文ヲ書簡文中ヘ挿入セリ御參考迄申添ユ委細郵報

(付記)

太平洋方面ニ於ケル蘭國島嶼タル屬地權利尊重ニ関スル声明  
日本國ハ亜米利加合衆國、英帝國及仏西 國トノ間ニ一般ノ平和ヲ確保シ且太平洋方面ニ於ケル各自ノ島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ関スル其ノ權利ヲ維持スルノ目的ヲ以テ千九百二十一年十二月十三日條約ヲ締結シ之ニ依リ締約國ハ互ニ右屬地及領地ニ関スル其ノ權利ヲ尊重スルコトヲ協定セリ

和蘭國ハ前記條約ノ署名國ニ非ス從テ太平洋方面ニ於ケル同國ノ屬地ハ前記協定中ニ包含セラレサルニ因リ日本國政

三 太平洋ニ関スル四国條約ノ成立

府ハ該條約ノ精神ニ反スル断定ノ生スル余地ナカラシメムコトヲ望ミ太平洋方面ニ於ケル和蘭國ノ島嶼タル屬地ニ関スル同國ノ權利ヲ尊重スルコトヲ固ク決意シタル旨茲ニ声明セムト欲ス

(右英文)

Japan has concluded on December 13th, 1921, with the United States of America, the British Empire and France a treaty with a view to the preservation of the general peace and the maintenance of their rights in relation to their insular possessions and insular dominions in the region of the Pacific Ocean. They have agreed thereby as between themselves to respect their rights in relation to these possessions and dominions.

The Netherlands not being a signatory of the said treaty and the Netherlands possessions in the region of the Pacific Ocean therefore not being included in the agreement referred to, the Government of Japan, anxious to forestall any conclusion

contrary to the spirit of the treaty, desires to declare that it is firmly resolved to respect the rights of the Netherlands in relation to her insular possessions in the region of the Pacific Ocean.

88 11年2月12日(着) ワシントン会議全権ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国協約付属協定ノ用語ニ関シ國務長官宛書  
簡手交ノ件

別電 ワシントン会議全権内田外務大臣宛二月十二日着  
電報會議第六五一号  
四国条約中ニ使用セル島嶼タル屬地及ビ領土ナル用  
語ニ関スル國務長官宛書簡

會議第六五〇号

四国協約附屬協定ニ関シ二月九日別電第六五一号ノ通り國務長官宛書面ヲ手交セリ日附ハ追加条約調印ノ日即チ二月六日ヲ用ヒ「ビュース」ヨリモ同日附ニテ回答文ヲ送付シ来ル筈  
在欧州各大使在蘭西公使ヘ転電セリ

(別電)  
ワシントン會議全権内田外務大臣宛二月十五日着電報會議第六五一号

(Signed) K. Shidehara.  
Honorable Charles E. Hughes,  
Secretary of State.

Zenzen.

(右和訳文)

以書翰致啓上候陳者千九百二十一年十二月十三日華盛頓ニ於テ調印セラレタル四国条約中ニ使用セル「島嶼タル屬地及領地」ナル用語ヲ日本本土ニ適用シ得ベキヤ否ヤノ問題ニ関シ本使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ前記用語ハ日本ニ対スル適用ニ於テハ単ニ樺太(即薩哈噠島ノ南部)、台湾及澎湖島並日本ノ委任統治ニ属スル諸島ノミヲ包含スヘキ趣旨ノ同条約追加協定ヲ締結スルコトニ付合衆国ノ関スル限り異議ナカルヘキヤ照会スルノ光栄ヲ有シ候  
右照会申進旁本使ハ玆ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

千九百二十二年二月六日

幣原喜重郎

國務長官「チャールス・イー・ヒュース」閣下

89 11年2月13日(発) 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

四国条約中ニ使用セル島嶼タル屬地及ビ領土ナル用語ニ関スル  
國務長官宛書簡

會議第六五一号

Sir:

Referring to the question of the applicability to Japan Proper of the term "insular possessions and insular dominions" used in the Quadruple Treaty signed at Washington on December 13, 1921, I have the honor to inquire, under instructions from my Government, whether there is any objection, so far as the United States is concerned, to the conclusion of an agreement supplementary to the said Treaty, to the effect that the term above quoted shall, in its application to Japan, include only Karafuto (or the southern portion of the Island of Sakhalin), Formosa and the Pescadores, and the islands under the mandate of Japan.  
Accept, Sir, the renewed assurances of my highest consideration.

米國政府ノ批准ヲ俟チ我方四国条約ノ批准手續ヲ了シタキ意向通達ノ件

第四一三号

四国条約カ關係国ニ於テ批准セラレサルカ又ハ批准セラルル場合ニ於テモ其ノ留保条件ノ如何ニ依リテハ海軍制限条約其ノ他帝國ノ對外關係ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキニ付帝國政府トシテハ尠クトモ米國上院ノ批准ヲ俟テ該条約ノ批准手續ヲ了シタキ考ナリ就テハ四国条約批准問題ニ対スル貴任國政府ノ態度、議會ノ形勢、一般輿論ノ傾向等ハ申ス迄モナキコトナカラ充分御注意ノ上隨時電報アリタシ  
右本大臣訓令トシテ英仏ヘ転電アリタシ

90 11年2月15日(着) 在スペイン國広沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

太平洋方面ニ於ケル領土權尊重ニ関スル宣言

文ヲポルトガル政府ニ送付ノ件

付記 太平洋方面ニ於ケルポルトガル國ノ島嶼タル屬地ノ權利尊重ニ関スル声明

第一一号 (二月十三日マドリッド発)  
在蘭公使宛電第四五号ニ付在米全権發往電第四四四号ノ

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

公文ハ二月十二日付ヲ以テ葡国政府ニ送致セリ右公文提出同日迄延引シタルハ在「リスボン」英國公使ト連絡ヲ取ルガ為メニシテ同公使ノ回答ニ依レバ本使共打合せノ上二月四日葡国政府ニ該公文ヲ提出スベキ旨訓令ニ接シタルモ該訓令ハ二月三日午後到達シ不幸ニシテ本使ト打合せノ暇ナカリシ為メ仏、米公使ト同日各別ニ提出ヲ了シタル趣ナリ右英米仏壤大使ハ転電セリ

編註 在スペイン国広沢公使ハ在ポルトガル国公使ヲ兼任

(付記)

太平洋方面ニ於ケルポルトガル国ノ島嶼タル屬地ノ權利尊重ニ関スル声明

日本国ハ亜米利加合衆国、英帝国及仏蘭西国トノ間ニ、一般ノ平和ヲ確保シ且太平洋方面ニ於ケル各自ノ島嶼タル屬地及島嶼タル領地ニ関スル其ノ權利ヲ維持スルノ目的ヲ以テ千九百二十一年十二月十三日条約ヲ締結シ之ニ依リ締約国ハ互ニ右屬地及領地ニ関スル其ノ權利ヲ尊重スルコトヲ協定セリ

葡萄牙国ハ前記条約ノ署名国ニ非ス從テ太平洋方面ニ於ケル同国ノ屬地ハ前記協定中ニ包含セラレサルニ因リ日本国

spirit of the treaty, desires to declare that it is firmly resolved to respect the rights of Portugal in relation to her insular possessions in the region of the Pacific Ocean.

91 11年2月15日(着)

在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国協約付屬協定ノ用語ニ関スル國務長官三

リノ回答送付越ノ件

別電 在米國幣原大使宛内田外務大臣宛二月十五日着電報

第二一號

四国条約中ニ使用セル島嶼タル屬地及ビ領地ナル用語ニ関スル國務長官ヨリノ回答

第二一〇號

(ハハ文書)

會議往電第六五〇號末段ニ関シ「ビュース」ヨリ六日付ニテ別電第二一號ノ通回答シ来レリ

往復文書郵送

英仏ハ転電セリ

(別電)

在米國幣原大使宛内田外務大臣宛二月十五日着電報第二一號

四国条約中ニ使用セル島嶼タル屬地及ビ領地ナル用語ニ関スル國務長官ヨリノ回答

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

政府ハ該条約ノ精神ニ反スル断定ノ生スル余地ナカラシメムコトヲ望ミ太平洋方面ニ於ケル葡萄牙国ノ島嶼タル屬地ニ関スル同国ノ權利ヲ尊重スルコトヲ固ク決意シタル旨茲ニ声明セムト欲ス

(右英文)

Japan has concluded on December 13th, 1921, with the United States of America, the British Empire and France a treaty with a view to the preservation of the general peace and the maintenance of their rights in relation to their insular possessions and insular dominions in the region of the Pacific Ocean. They have agreed thereby as between themselves to respect their rights in relation to these possessions and dominions.

Portugal not being a signatory of the said treaty and Portuguese possessions in the region of the Pacific Ocean therefore not being included in the agreement referred to, the Government of Japan, anxious to forestall any conclusion contrary to the

第二一一號

Excellency:—

I have the honor to acknowledge the receipt of your Excellency's Note under this date, referring to the question of the applicability to Japan Proper of the term "insular possessions and insular dominions" used in the Quadruple Treaty signed at Washington on December 13, 1921, and inquiring, under instructions from your Government, whether there is any objection, so far as the United States is concerned, to the conclusion of an agreement supplementary to the said Treaty, to the effect that the term above quoted shall, in its application to Japan, include only Karafuto (or the southern portion of the Island of Sakhalin), Formosa and the Pescadores, and the islands under the mandate of Japan.

I have the honor to state that there is no objection on the part of the Government of the United States to the making of a supplementary

agreement to the effect stated in your Note.  
Accept, Excellency, the renewed assurance of  
my highest consideration.

(Signed) Charles E. Hughes

His Excellency

Baron Kijuro Shidehara,

Ambassador of Japan.

(右和訳文)

以書翰致啓上候陳者本日付貴翰ヲ以テ千九百二十一年十二月十三日華盛頓ニ於テ調印セラレタル四国条約中ニ使用セル「島嶼タル屬地及領地」ナル用語ヲ日本本土ニ適用シ得ヘキヤ否ヤノ問題ニ関シ本国政府ノ訓令ニ基キ前記用語ハ日本ニ対スル適用ニ於テハ単ニ樺太(即薩哈噠島ノ南部)、台灣及澎湖島並日本ノ委任統治ニ属スル諸島ノミヲ包含スヘキ趣旨ノ同条約追加協定ヲ締結スルコトニ付合衆国ノ関スル限り異議ナカルヘキヤ照会セラルル旨御申越相成致敬承候

本官ハ貴翰ニ記載セラレタル趣旨ノ追加協定ヲ締結スルコトニ付合衆国政府ニ於テ何等異存ナキ旨申進スルノ光榮ヲ

ヒタルトコロナルニ付米國ニ於テ右加入問題詮議ノ歩ヲ進ムルコトヲ得サル旨ヲ述ヘタルニ伊國全權ハ然ラハ日英兩國力異議ヲ唱ヘサルニ於テハ米國ノ関スル限り別ニ異議ナキヤト追及シタルヲ以テ自分ハ若シ日英カ伊國ノ加入ヲ希望スルニ於テハ米國モ之ニ反対セサルヘシト(If they desired it, the United States would not oppose it.)

極メテ輕ク応酬シタルコトアルモ前述ノ如ク事實上伊國加入ヲ承諾スルニ困難ナル事情ハ其當時明瞭ニ指摘シ置キタル次第ナリ尤モ伊國ノ申出中考量ニ値スヘキ点アリトセハ旧独領諸島カ五大國ノ為ニ放棄セラレタルコトニ在ルモ夫レトテ伊國ハ國際連盟ヲ通シテ既ニ夫々委任統治ニ同意ヲ与ヘタル今日伊國トシテハ今更旧独領諸島ノ關係ヲ援用スルコトヲ得ヘキ筋合ニアラサルカ如シト言ヘリ

右「ヒューズ」ノ説明ニ対シ本使ハ在本邦伊國大使ニ於テ伊國ハ委任統治諸島ノ平和維持ニ付利害關係ヲ有スル旨ヲ述ヘタル由ノ処連盟規約ニ依リ被委任統治諸島ノ平和維持ニ利害關係ヲ有スルモノハ五大國ニ限ラサルヘク又伊國ハ右諸島ノ統治國タラサル限り本件条約ニ加入スルモ事實上他ノ四國ト相互ノ二同一ノ權利義務ヲ有スルコトヲ得サル

有シ候

右回答申進旁本官ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

敬具

一九二二年二月六日

合衆国政府國務長官 ヒューズ

日本國特命全權大使 幣原喜重郎閣下

92 11年2月20日(着) 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

伊國ノ四国条約加入希望ニ関スルヒューズト

同國大使ノ意向ニ関スル件

第三二号

(八五文書)  
貴電會議第四〇七号ニ関シ

二月十一日「ヒューズ」ニ面会ノ際本使ハ在本邦伊國大使ヨリ閣下ニ申出ノ次第ヲ述ヘ同氏ニ於テ本件ニ関シ如何ナル言明ヲ伊國全權ニ与ヘラレタルヤヲ尋ネタル処「ヒューズ」ハ之ニ答ヘ過日伊國全權ヨリ伊國加入ノ申入アリタルニ付自分ハ太平洋ニ領土ヲ有セサル伊國カ四國協約ニ加入スルハ困難ナル事情アルコトヲ指摘シ尚日英二國全權ニ於テモ伊國ノ加入ニ異議アルコトハ「バルフォア」ヨリ聞及

ハ明瞭ナリ斯クノ如キ場合ニハ和蘭モ亦過般交換濟ノ公文ノミヲ以テ満足セス等シク加入ノ希望ヲ申出ツルコトアルヘク他ノ諸國モ統々同一ノ申出ヲ為ス時ハ之ヲ拒絶スルノ理由ナキニ至リ終ニ本件条約ノ特質ハ漸次消失スルコトトナルヘシト述ヘタルニ「ヒューズ」ハ全ク同感ナリト言ヒ前記伊國全權ニ対スル不用意ノ答弁ニ付繰返シ弁解スルトコロアリタリ

英仏独伊ヘ転電セリ

93 11年2月21日(着) 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及ビ島嶼タル領地ニ関スル四国条約追加協定報告ノ件

付記 二月六日署名調印

太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及ビ島嶼タル領地ニ関スル四国条約追加協定

第三五号

貴電第五二号ニ関シ

(編註)  
四国条約追加協定別電第三六号ノ通り調印者ハ四国条約調印者ヨリ「ヴィヴィアニ」徳川ヲ除キタルモノニ同シ

英仏大使へ転電セリ

編註 本電ハ本文書付記ノ四国条約追加協定ト同文ニ付省略  
(付記)

二月六日署名調印

太平洋方面ニ於ケル島嶼タル屬地及ビ島嶼タル領地ニ関スル四  
国条約追加協定

亜米利加合衆国、英帝国、仏蘭西国及日本国ハ千九百二十  
一年十二月十三日華盛頓ニ於テ署名シタル四国条約ノ追加  
タル左ノ条項ヲ各其ノ全権委員ニ依リ協定シタリ

前記条約ニ使用セラレタル「島嶼タル屬地及島嶼タル領地」  
ナル語ハ之ヲ日本国ニ適用スルニ付テハ単ニ樺太(即チ薩  
哈噠島ノ南部)、台湾及澎湖列島並日本国ノ委任統治ノ下  
ニ在ル諸島ノミヲ包含スルモノトス

本協定ハ前記条約ニ追加トシテ之ト同一ノ効力ヲ有ス

千九百二十一年十二月十三日ノ前記条約中批准ニ関スル第  
四条ノ規定ハ本協定ニ之ヲ適用ス本協定ハ仏蘭西語及英吉  
利語ヲ以テ本文トシ合衆国政府ノ記録ニ寄託保存セラルヘ  
ク其ノ認証謄本ハ同政府之ヲ他ノ各締約国ニ送付スヘシ  
右証拠トシテ前記各全権委員ハ本協定ニ署名ス  
千九百二十二年二月六日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス

spective Plenipotentiaries, agreed upon the following  
stipulations supplementary to the Quadruple Treaty  
signed at Washington on December 13, 1921:

The term "insular possessions and insular do-  
minions" used in the aforesaid Treaty shall, in its  
application to Japan, include only Karafuto (or the  
Southern portion of the island of Sakhalin), Formosa  
and the Pescadores, and the islands under the  
mandate of Japan.

The present agreement shall have the same  
force and effect as the said Treaty to which it is  
supplementary.

The provisions of Article IV of the aforesaid  
Treaty of December 13, 1921, relating to ratification  
shall be applicable to the present Agreement, which  
in French and English shall remain deposited in the  
Archives of the Government of the United States,  
and duly certified copies thereof shall be transmitted  
by that Government to each of the other Contracting

チアールス、エヴァンス、ヒューズ (印)  
ヘンリー、カボット、ロッジ (印)  
オスカー、ダブリュー、アングアウッド (印)  
エリヒュー、ルート (印)  
アーサー、ジェームス、バルフォア (印)  
リー、オヴ、フェアラム (印)  
エー、シー、ゲデス (印)  
アール、エル、ボーデン (印)  
ジー、エフ、ピアス (印)  
ジョン、ダブリュー、サルモンド (印)  
アーサー、ジェームス、バルフォア (印)  
ヴィー、エス、スリニヴァサ、サストリ (印)  
アー、サロー (印)  
ジュスラン (印)  
加藤友三郎 (印)  
幣原喜重郎 (印)  
埴原正直 (印)

(右英文)

The United States of America, the British  
Empire, France and Japan have, through their re-

Powers.

In faith whereof the respective Plenipotenti-  
aries have signed the present Agreement.

Done at the City of Washington, the sixth day  
of February, One Thousand Nine Hundred and Twen-  
ty-two.

|                        |         |
|------------------------|---------|
| CHARLES EVANS HUGHES   | [L. s.] |
| HENRY CABOT LODGE      | [L. s.] |
| OSCAR W. UNDERWOOD     | [L. s.] |
| ELIHU ROOT             | [L. s.] |
| ARTHUR JAMES BALFOUR   | [L. s.] |
| LEE OF FAREHAM         | [L. s.] |
| A. C. GEDDES           | [L. s.] |
| R. L. BORDEN           | [L. s.] |
| G. F. PEARCE           | [L. s.] |
| JOHN W. SALMOND        | [L. s.] |
| ARTHUR JAMES BALFOUR   | [L. s.] |
| V. S. SRINIVASA SASTRI | [L. s.] |
| A SARRAUT              | [L. s.] |

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

JUSSERAND [L.S.]  
T. KATO [L.S.]  
K. SHIDEHARA [L.S.]  
M. HANIHARA [L.S.]

94 11年2月22日(薈) 内田外務大臣ヨリ  
在英国外務大臣宛(電報)

伊国ノ四国条約加入ニ同意シ難キ旨在本邦英  
国大使ニ回答ノ件

第七八号

二月二十日在本邦英国外務大臣来訪本國政府ノ訓令ニ基キ伊国ノ四国条約加入問題ニ関シ帝國政府ノ腹藏ナキ所見ヲ承知シタク固ヨリ之カ為日本ニ責任ヲ負ハシムルカ如キコトナカルヘシト申出テ且英政府ノ見解トシテハ伊国ヲ加入セシムルコトハ面白カラス第一同國ノ如ク利害關係少ナキ國ヲ加入セシムルニ於テハ四国条約ノ特質ヲ失ハシムヘク第二英政府ハ四国条約ヲ日英同盟ノ延長ト解シ居ル關係モアリ第三伊国ヲ加フルニ於テハ蘭葡兩國ヲモ加ヘサルヲ得サルニ至ルヘク之ヲ要スルニ締約國少數ナレハ夫レ丈ケ効力アル次第ナリト述ヘタリ本大臣ハ全然同感ナル旨ヲ答ヘ

六八一

(九二文書)  
且在米大使来電第三二二号ノ要領ヲ述ヘ置キタリ就テハ日英米三国ヨリ伊国側ニ對シ同様ノ回答ヲ殆ト同時ニ与フルコト然ルヘク右回答ハ要スルニ折角ノ申出ナカラ既ニ四國間ニ於テ確約ノ成立セル今日伊国ヲ加フルニ於テハ蘭葡兩國ヲモ加ヘサルヲ得サルヘク斯クテハ四国条約ノ趣旨漠然タルニ至ルヘキヲ以テ遺憾ナカラ同意シ難キ旨ヲ以テスレハ可ナルヘシト思考スルニ付貴官ハ右趣旨ヲ含ミ英政府當局ト回答振ニ付打合ヲ遂ケラレ結果回電アリ度シ尚右回答振ニ付米國政府トモ同様打合ヲ遂クル為在米英国外務大臣ニ對シ幣原大使ト連絡ヲトリ措置スル様電訓セラレ度キ旨併セテ申入置カレ度シ

米仏伊ヘ転電アリ度シ

95 11年2月25日(薈) 在英国外務大臣ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

伊国ノ四国条約加入申入レ拒否ノ回答ニツキ

英国外務次官補ト打合ノ件

第九七号 (二月二十三日ロンドン發)

(九四文書)  
貴電第七八号ニ関シ

今二十三日午前本使外務次官補「チレル」ヲ訪ヒ打合ハセ

タル処次官補ハ英政府ニ於テモ御来示ノ如キ趣旨ニテ回答スルニ異議ナク多分二十四日在当地伊国大使ニ口頭(或ハ簡單ナル覚書ヲ添フルヤモ知レス)ニテ申伝フルコト取計ヒ尚在米英国外務大臣ニ對シテハ右貴電後段ノ通訓令スヘシト約シタリ(二十三日)

米仏伊ヘ転電セリ

96 11年3月3日(薈) 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

米國政府ノ對伊回答振リ報告方訓電ノ件

第八四号

(九五文書)  
在英大使来電第九七号末段ニ関シ

既ニ英国外務大臣ト御協議済ナリヤ米國政府ノ回答振分リ次第至急電報アリタシ

97 11年3月10日(薈) 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

四国条約ト石井・ランシング協定トノ關係ニ  
關スル米國大統領ノ回答報告ノ件

別電 在米國幣原大使宛内田外務大臣宛三月十日着電報第

一一〇号

三月八日付右米國大統領回答

三 太平洋ニ関スル四国条約ノ成立

第一〇九号

往電第一〇一一号ニ関シ八日付大統領ノ回答別電第一一〇号

ノ通り

英仏ヘ転電ス

(別電)

在米國幣原大使宛内田外務大臣宛三月十日着電報第一一〇号  
三月八日付米國大統領回答

第一一〇号別電

Main text of the President's reply as follows:-

The so-called Lansing-Ishii Agreement signed November 2, 1917, was not a treaty but was an exchange of notes between the Secretary of State of the United States and Viscount Ishii, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japan on a special mission. It was described in the notes themselves as a public announcement of the desires and intentions shared by the two Governments with regard to China.

This exchange of notes in the nature of things did not constitute anything more than a declaration

六八一

of executive policy. It is hardly necessary to point out that such declaration or exchange of notes could not have any effect whatever inconsistent with treaty obligations whether existing or thereafter coming into force.

The statement in the notes in question which apparently called forth your resolution is as follows:—

“The Governments of the United States and Japan recognize that territorial propinquity creates special relations between countries and consequently the Government of the United States recognizes that Japan has special interests in China and particularly in the part to which her possessions are contiguous.”

In the light of other declarations or notes in question, it has been the view of the Government of the United States that this reference to special interests in China did not recognize any right or claim inconsistent with the sovereignty or political independence of China or with our “open-door”

now before the Senate, to which the United States and Japan are parties.

It refers to the treaty between nine Powers which explicitly sets forth principles and policies to be maintained, by the Signatory Powers in relation to China.

It is thus agreed to respect the sovereignty, independence and territorial and administrative integrity of China to provide a fullest and most unembarrassed opportunity to develop and maintain for herself an effective and stable government, to use their influence for the purpose of effectually establishing and maintaining the principle of equal opportunity for the commerce and industry of all nations throughout the territory of China, to refrain from taking advantage of the conditions in China in order to secure special rights or privileges which would abridge the rights of subjects or citizens of friendly states, from countenancing action inimical

policy.

That this was not an erroneous construction appears from the meaning ascribed to the phrase “special interest in China” which is found in the final statement made in behalf of Japan at the recent conference.

The phrase was interpreted to mean that the propinquity gave rise to an interest differing only in degree, but not in kind, as compared with the interest of the other Powers.

It was said to intimate “No claim or pretension of any kind prejudicial to China or to any other foreign nation” and not to connote “any intention of securing preferential or exclusive economic rights in China”. Happily as a result of the Conference, it is not now necessary to consider any possible ambiguity in the expressions used in the Lansing-Ishii Agreement of 1917, as any question which they might have raised has been completely set at rest by the treaty

to the security of such states.

More specifically Signatory Powers agree that they will not seek nor support their respective nationals in seeking any arrangement which might purport to establish in favor of their interests and general superiority of rights with respect to commercial or economic development in any designated region of China or any such monopoly or privilege as would deprive the nationals of any other Power of right of undertaking and legitimate trade industry in China or of participating with the Chinese Government or with any local authority in any category of public enterprise or which, by reason of its scope, duration or geographical extent is calculated to frustrate practical application of the principle of equal opportunity.

And further Signatory Powers agree not to support any agreement by their respective nationals with each other designed to create spheres of

influence or to provide for the enjoyment of mutually exclusive opportunities in designed parts of the Chinese territory.

The negotiation of this Treaty is in itself a most formal declaration of the policy of the executive in relation to China and supersedes any executive understanding or declaration that could possibly be asserted to have any contrary import. If the senate assents to that Treaty, the principles and policies which the Treaty declares will be supported and enforced by binding international agreement.

My answer then to your first question is that so-called Lansing-Ishii Agreement has no binding effect whatever, either with respect to the past or to the future which is in any sense inconsistent with the principles and policies explicitly declared in the Nine Power Treaty to which I have referred.

As to your second question, I may say that the Four Power Treaty does not refer to China and

hence does not directly bear upon the Lansing-Ishii Notes which related exclusively to China. The Four Power Treaty, however, is an essential part of the plan to create conditions in the Far East at once favorable to the policies we have long advocated and to an enduring peace.

Shidehara.

98 11年3月10日(発) 内田外務大臣ヨリ  
在英園林大使宛(電報)

伊国ノ四国条約加入申入レ拒否ノ口上書ヲ伊  
国大使ニ交付ノ件

別電 三月十日内田外務大臣発英大使宛電報第九六号  
右口上書

第九五号

貴電第一〇三号ニ関シ

帝國政府ハ米國政府ノ対伊回答ノ發送ヲ俟タス伊国側ハ回答スルコトヲナシ三月九日付口上書ヲ以テ別電第九六号ノ通在本邦伊国大使ヘ回答シ置キタルニ付右ノ趣責任國政府ヘ内報シ置カレタシ尚右口上書写ハ在本邦英國大使ヘ送付

シ置ケリ

右本大臣訓令ニシテ仏米ハ電報ニ參考ニシテ伊独四ハ電報アリタシ

(附電)

三月十日内田外務大臣發在英園林大使宛電報第九六号  
伊国ノ四国条約加入申入レニ對スル拒否ノ口上書

No 96.

The question of the inclusion of Italy in the Quadruple Treaty was carefully considered at Washington and the Italian Delegate Signor Schanzer was fully informed of weighty considerations which made the inclusion of his country impracticable.

The principal aim of the Quadruple Treaty is to make it a treaty among the particular four Powers, namely Japan, Great Britain, the United States and France, who as owners of insular dominions or possessions in the Pacific region and also as parties variously to the Anglo-Japanese Alliance, the Japanese-American Agreement, and the Japanese-

French Arrangement, have hitherto taken it upon themselves, to guarantee directly peace in the said region. If the Treaty were extended to Italy, who seems to have no direct responsibilities in the Pacific, it would lead to opening a way to requests for inclusion by the Netherlands, Belgium and Portugal, who have large territorial or economic interests in that region. To extend it thus beyond the particular Four Powers would be seriously to impair the peculiar value of the Treaty and to make it politically ineffective. The Japanese Government therefore are, to their great regret, unable to agree to the inclusion of Italy.

99 11年3月12日(着) 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

伊国ノ四国条約加入申入レ拒否ニ関シ英米國  
國ノ態度報告ノ件

第一一七号  
(九六文書)  
貴電第八四号接到後直チニ英國大使館(当時「ゲデス」地

方旅行中)ニ問ヒ合セタルニ同大使館ニ於テハ英國政府カ  
伊国ノ四国条約参加ニ不同意ナル旨ノ電報數週間前倫敦ヨ  
リ接手シタルモ別ニ米國政府ニ対シ何等措置ヲ執ルヘキ訓  
令ナキ趣ナリシ処一昨日(三月八日)ニ至リ右訓令到達偶  
偶「ゲデス」モ帰還シ昨日「ヒューズ」ト会见ノ機会ニ於  
テ本問題ニ関スル米國政府ノ態度ヲ確ムルコトトスヘキ旨  
英國大使館ヨリ通報アリ次テ本日(十日)「ゲデス」ハ本  
使ト面談ノ節「ヒューズ」ガ昨日同大使ト会见ノ折大体往  
電第三二二号ノ通過般本使ニ答ヘタルト同一趣旨ヲ述ヘタル  
次第ヲ内話シ尚ホ「ヒューズ」ハ伊国加入ノ事實不可能ナ  
ルコトヲ認メ既ニ先日伊国大使トノ会见ノ際此ノ点十分指

摘シ置キタルカ只伊国大使カ別レニ臨ミ日英兩國共ニ伊国  
ノ加入ニ異議ナキ時ハ米國ニ於テモ異議ナキコトト諒解シ  
然ルヘキヤト笑ヒ乍ラ問ヒタルニ対シ「ヒューズ」ハ米國  
独リ反对セサルヘキコトヲ輕ク答ヘタルヲ伊国大使ニ於テ  
不当ニ重キヲ置キテ誇大ニ報告セルガ如シトテ伊国大使ノ  
報告ニ少ナカラス迷惑ヲ感シ居レルモノノ如ク見受ケラレ  
タリト語リ要スルニ今更伊国加入ノ提議ニ好意的考量ヲ加  
フルノ模様ナク又伊国ヨリモ最早強テ之ヲ主張シ来ルコト  
ナカルヘシト観測シ居ル旨ヲ英國大使ニ述ヘタル趣ナリ  
英仏伊ヘ転電セリ

日本外交文書 ワシントン會議上 終

日本外交文書

ワシントン會議 上  
(大正期第三十六冊ノ一)

不許複製

Documents on  
Washington Conference  
Volume I

昭和五十二年八月二十日  
昭和五十二年八月二十日  
印刷發行

外務省 編纂  
外務省 發行

東京都千代田区飯田橋二ノ十七ノ九  
印刷所 統計印刷工業株式会社